

5. 鳥類調査の概要

5.1 調査結果の概要

(1) 確認種数

令和元年度に鳥類調査が実施された9ダムにおいて、17目49科169種の鳥類が確認されました。「日本鳥類目録改訂第7版」(日本鳥学会, 2012)には、日本鳥類目録と国内で繁殖記録のある外来種として667種が掲載されており、今回の確認種数は、その約25.6%に相当します。

調査を実施した9ダムのうち、確認種数が多かったのは、東北の月山ダム188種、北海道の夕張スーパーダム178種、関東の宮ヶ瀬ダム174種、東北の寒河江ダム170種などでした。9ダム全てで確認された種はマガモ、カルガモ、コガモ、キジバト、カワウ、アオサギ、カワセミ、コゲラ、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、キセキレイなど、14種ありました。

(2) 重要種

今回とりまとめを行った9ダムでは、17科26種の重要種^{注)}が確認されました。

確認された重要種のうち、レッドリストのランクごとの内訳をみると、絶滅危惧IA類(CR)に該当する種は確認されず、絶滅危惧IB類(EN)に該当する種は、イヌワシ、クマタカ、ブッポウソウ、アカモズの4種が確認されました。

注) 重要種について

本資料においては、次の文献のいずれかに該当する種や亜種を重要種としました。

- ・「文化財保護法」の特別天然記念物及び天然記念物
- ・「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物及び緊急指定種
- ・「環境省レッドリスト2019の公表について(絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト)」(環境省レッドリスト2019:平成31年1月24日報道発表資料)

絶滅危惧IA類(CR):ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高い種

絶滅危惧IB類(EN):IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高い種

絶滅危惧II類(VU):絶滅の危険が増大している種

準絶滅危惧(NT):現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種

情報不足(DD):評価するだけの情報が不足している種

絶滅のおそれのある地域個体群(LP):地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの

(3) 国外外来種

1) 国外外来種の確認状況

今回とりまとめを行った9ダムでは、コジュケイ、バリケン、カワラバト(ドバト)、シロガシラ、ガビチョウ、ソウシチョウ、シマキンパラの5科7種の国外外来種^{注1)}が確認されました。

外来生物法において特定外来生物^{注2)}に指定されている種としては、ガビチョウが1ダムで、ソウシチョウが2ダムで確認されました。なお、2種ともに生態系被害防止外来種リスト^{注3)}の「総合的な対策が必要な外来種」に選定されています。

(注) 国外外来種の選定基準について

注1) 外来種とは、本来その生物が生息していない地域に貿易や人の移動等を介して意図的・非意図

的に導入された種をいいます。外来種のうち、日本国外から持ち込まれた種を「国外外来種」といい、日本国内の種であっても本来その生物が生息していない地域に、他の場所から持ち込まれた種は「国内外来種」といいます。本資料における国外外来種とは、おおむね明治以降に人為的影響により侵入したと考えられる国外由来の動植物すべてを指し、侵入以後に国内に定着した種であるか否かの判断は、選定の際に考慮していません。また、国外外来種の選定は、I-9～11 ページに掲載した文献および I-12～13 ページに掲載した学識者による意見をもとに行っています。

- 注 2) 特定外来生物とは、『特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律(平成 17 年 6 月 1 日施行)』により、輸入や飼養等が規制される生物(生きているものに限られ、個体だけではなく、卵、種子、器官なども含まれる)です。おおむね明治以降に国外から導入された国外外来種のうち、生態系、人の生命・身体及び農林水産業へ被害を及ぼすもの、または及ぼすおそれがある生物が指定されています。
- 注 3) 生態系被害防止外来種リスト(我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト)とは、我が国の生物多様性を保全するため、さまざまな主体の参画のもとで外来種対策の一層の進展を図ることを目的とし、環境省及び農林水産省が「生態系、人の生命・身体、農林水産業に被害を及ぼす又はそのおそれがある生物」を生態的特性及び社会的状況も踏まえて選定した外来種リストです。リスト中には特定外来生物法で指定された生物も含まれています。また、魚類、植物、哺乳類、両生類、爬虫類、陸上昆虫類においては、国内外来種も一部選定されています。

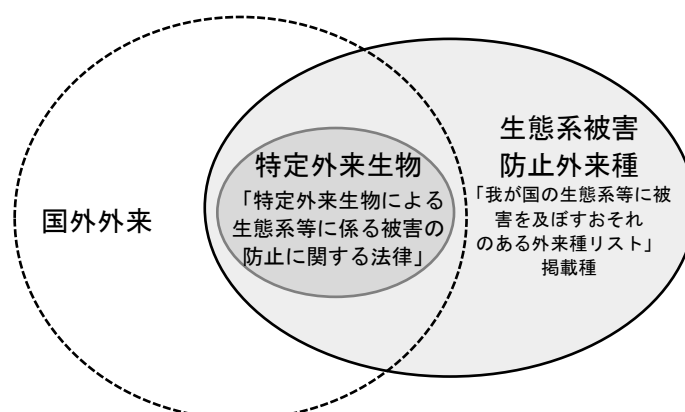


図 (参考) 国外外来種、生態系被害防止外来種、特定外来生物の関係

鳥類確認種一覧<1> (令和元年度)

No	目名	科名	種名	学名	北海道	東北				関東	近畿	中国	沖縄	確認 ダム数
					夕張 シュール パロダム	長 井 ダム	白 川 ダム	寒 河 江 ダム	月 山 ダム	宮 ヶ 瀬 ダム	大 滝 ダム	八 田 原 ダム	金 武 ダム	
1	キジ目	キジ科	エゾライチョウ	<i>Tetrastes bonasia</i>	●									1
2			コジュケイ	<i>Bambusicola thoracicus</i>						●	●	●		3
3			ヤマドリ	<i>Syrnaticus soemmerringii</i>		●	●	●	●		●	●		5
4			キジ	<i>Phasianus colchicus</i>		●	●	●		●	●	●		6
5	カモ目	カモ科	コハクチョウ	<i>Cygnus columbianus</i>			●	●						2
6			バリケン	<i>Cairina moschata</i>									●	1
7			オンドリ	<i>Aix galericulata</i>	●	●	●	●	●	●	●			7
8			オカヨシガモ	<i>Anas strepera</i>					●					1
9			マガモ	<i>Anas platyrhynchos</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	9
10			カルガモ	<i>Anas zonorhynchos</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	9
11			オナガガモ	<i>Anas acuta</i>		●	●	●	●				●	5
12			トモエガモ	<i>Anas formosa</i>							●			1
13			コガモ	<i>Anas crecca</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	9
14			ホシハジロ	<i>Aythya ferina</i>				●	●	●				3
15			キンクロハジロ	<i>Aythya fuligula</i>		●	●			●	●			4
16			スズガモ	<i>Aythya marila</i>									●	1
17			ホオジロガモ	<i>Bucephala clangula</i>					●					1
18			ミコアイサ	<i>Mergellus albellus</i>			●							1
19			カウアイサ	<i>Mergus merganser</i>	●	●	●	●	●	●	●	●		7
20	カイツブリ目	カイツブリ科	カイツブリ	<i>Tachybaptus ruficollis</i>		●	●	●	●	●	●	●	●	8
21			カンムリカイツブリ	<i>Podiceps cristatus</i>				●		●				2
22			ハジロカイツブリ	<i>Podiceps nigricollis</i>			●			●				2
23	ハト目	ハト科	カワラバト(ドバト)	<i>Columba livia</i>								●	●	2
24			キジバト	<i>Streptopelia orientalis</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	9
25			アオバト	<i>Treron sieboldii</i>	●	●		●	●	●	●	●		7
26			ズアカアオバト	<i>Treron formosae</i>									●	1
27	カツオドリ目	ウ科	カワウ	<i>Phalacrocorax carbo</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	9
28	ペリカン目	サギ科	リュウキュウヨシゴイ	<i>Ixobrychus cinnamomeus</i>									●	1
29			ゴイサギ	<i>Nycticorax nycticorax</i>									●	1
30			アマサギ	<i>Bubulcus ibis</i>									●	1
31			アオサギ	<i>Ardea cinerea</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	9
32			ダイサギ	<i>Ardea alba</i>		●	●	●		●		●	●	6
33			チュウサギ	<i>Egretta intermedia</i>									●	1
34			コサギ	<i>Egretta garzetta</i>							●		●	2
35	ツル目	クイナ科	クイナ	<i>Rallus aquaticus</i>	●									1
36			シロハラクイナ	<i>Amaurornis phoenicurus</i>									●	1
37			バン	<i>Gallinula chloropus</i>									●	1
38			オオバン	<i>Fulica atra</i>						●		●	●	3
39	カッコウ目	カッコウ科	ジュウイチ	<i>Hierococcyx hyperythrus</i>	●			●	●					3
40			ホトトギス	<i>Cuculus poliocephalus</i>		●	●	●	●	●	●	●		7
41			ツツドリ	<i>Cuculus optatus</i>	●	●	●	●	●	●	●	●		8
42			カッコウ	<i>Cuculus canorus</i>	●			●	●	●	●			5
43	ヨタカ目	ヨタカ科	ヨタカ	<i>Caprimulgus indicus</i>		●	●	●	●		●			5
44	アマツバメ目	アマツバメ科	ハリオアマツバメ	<i>Hirundapus caudacutus</i>	●				●					2
45			アマツバメ	<i>Apus pacificus</i>	●				●					2
46			ヒメアマツバメ	<i>Apus nipalensis</i>						●				1
47	チドリ目	チドリ科	イカルチドリ	<i>Charadrius placidus</i>			●	●				●		3
48			コチドリ	<i>Charadrius dubius</i>		●	●					●		3
49			ヤマシギ	<i>Scolopax rusticola</i>	●					●				2
50		シギ科	オオジシギ	<i>Gallinago hardwickii</i>	●									1
51			チュウシャクシギ	<i>Numenius phaeopus</i>									●	1
52			アオアシシギ	<i>Tringa nebularia</i>									●	1
53			クサシギ	<i>Tringa ochropus</i>									●	1
54			タカブシギ	<i>Tringa glareola</i>									●	1
55			キアシシギ	<i>Heteroscelus brevipes</i>									●	1
56			イソシギ	<i>Actitis hypoleucos</i>	●	●	●		●					5
57		カモメ科	コアジサシ	<i>Sterna albifrons</i>									●	1
58			クロハラアジサシ	<i>Chlidonias hybrida</i>									●	1
59	タカ目	ミサゴ科	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>	●	●		●	●	●	●	●	●	7
60		タカ科	ハチクマ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>	●	●	●	●	●					6
61			トビ	<i>Milvus migrans</i>	●	●	●	●	●	●	●	●		8
62			オシロワシ	<i>Haliaeetus albicilla</i>			●							2
63			オオワシ	<i>Haliaeetus pelagicus</i>	●									1
64			ツミ	<i>Accipiter gularis</i>	●	●		●	●				●	5
65			ハイタカ	<i>Accipiter nisus</i>	●				●	●	●			8
66			オオタカ	<i>Accipiter gentilis</i>		●			●	●	●			4
67			サンバ	<i>Buteo indicus</i>			●	●	●	●	●		●	5
68			ノスリ	<i>Buteo buteo</i>	●	●	●	●	●	●		●		7
69			イヌワシ	<i>Aquila chrysaetos</i>					●					1
70			クマタカ	<i>Nisaetus nipalensis</i>	●	●		●	●	●				6
71	フクロウ目	フクロウ科	コノハズク	<i>Otus sunia</i>	●	●			●					3
72			リュウキュウコノハズク	<i>Otus elegans</i>									●	1
73			オオコノハズク	<i>Otus lempiji</i>									●	1
74			フクロウ	<i>Strix uralensis</i>			●		●	●	●			4
75	ブッポウソウ目	カワセミ科	アオバズク	<i>Ninox scutulata</i>				●					●	3
76			アカショウビン	<i>Halcyon coromanda</i>		●	●	●	●	●	●	●		7
77			カワセミ	<i>Alcedo atthis</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	9
78			ヤマセミ	<i>Megasceryle lugubris</i>	●	●	●	●	●	●	●			7
79	キツツキ目	ブッポウソウ科	ブッポウソウ	<i>Eurystomus orientalis</i>					●					1
80		キツツキ科	コゲラ	<i>Dendrocopos kizuki</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	9
81			オオアカゲラ	<i>Dendrocopos leucotos</i>	●	●		●						3
82			アカゲラ	<i>Dendrocopos major</i>	●	●	●	●	●			●		7
83			クマゲラ	<i>Dryocopus martius</i>	●									1
84			アオゲラ	<i>Picus awokera</i>		●	●	●	●	●	●	●		7
85			ヤマゲラ	<i>Picus canus</i>	●									1
86	ハヤブサ目	ハヤブサ科	チョウゲンボウ	<i>Falco tinnunculus</i>		●	●	●					●	4
87			チゴハヤブサ	<i>Falco subbuteo</i>	●									1
88			ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>	●			●	●	●		●	●	6

鳥類確認種一覧<2> (令和元年度)

No	目名	科名	種名	学名	北海道	東北				関東	近畿	中国	沖縄	確認 ダム数
					十勝 シ ュ ー バ ロ ダ ム	長 井 ダ ム	白 川 ダ ム	寒 河 江 ダ ム	月 山 ダ ム	宮 ヶ 瀬 ダ ム	大 滝 ダ ム	八 田 原 ダ ム	金 武 ダ ム	
89	スズメ目	サンショウウイ科	サンショウウイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>		●	●	●	●	●				5
—			リュウキュウサンショウウイ	<i>Pericrocotus divaricatus tegimae</i>						●			●	2
90		カササギヒタキ科	サンコウチョウ	<i>Terpsiphone atrocaudata</i>					●	●	●	●	●	5
91			モズ	<i>Lanius bucephalus</i>	●	●	●	●	●	●	●	●		8
92		カラス科	アカモズ	<i>Lanius cristatus</i>									●	1
93			カケス	<i>Garrulus glandarius</i>	●	●	●	●	●	●	●	●		8
94			オナガ	<i>Cyanopica cyanus</i>		●								1
95			ハシボソガラス	<i>Corvus corone</i>	●	●	●	●	●	●	●	●		8
96			ハシブトガラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	9
97		キクイタダキ科	キクイタダキ	<i>Regulus regulus</i>	●	●		●	●	●	●	●		7
98			ハシブトガラ	<i>Poecile palustris</i>	●									1
99		シジュウカラ科	コガラ	<i>Poecile montanus</i>	●	●		●	●	●	●	●		7
100			ヤマガラ	<i>Poecile varius</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	9
101			ヒガラ	<i>Periparus ater</i>	●	●	●	●	●	●	●	●		7
102			シジュウカラ	<i>Parus minor</i>			●	●	●	●	●	●	●	9
103		ツバメ科	ヒバリ	<i>Alauda arvensis</i>	●		●							2
104			ツバメ	<i>Hirundo rustica</i>		●	●	●	●	●	●	●	●	8
105	ヒヨドリ科	ツバメ科	リュウキュウツバメ	<i>Hirundo tahitica</i>									●	1
106			コシアカツバメ	<i>Hirundo daurica</i>									●	1
107		ヒヨドリ科	イワツバメ	<i>Delichon dasypus</i>	●	●	●	●	●	●	●	●		8
108			シロガシラ	<i>Pycnonotus sinensis</i>									●	1
109			ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	9
110		ウグイス科	ウグイス	<i>Cettia diphone</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	9
111			ヤブサメ	<i>Urosphena squameiceps</i>	●	●	●	●	●	●	●	●		8
112		エナガ科	エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>	●	●	●	●	●	●	●	●		8
113			ムシクイ科	キマユムシクイ									●	1
114		ムシクイ科	オオムシクイ	<i>Phylloscopus examinandus</i>	●								●	2
115			メボソムシクイ	<i>Phylloscopus xanthodryas</i>				●						1
116			エゾムシクイ	<i>Phylloscopus borealoides</i>	●									1
117			センダイムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>	●		●			●	●	●		5
118			チメドリ科	ガビチョウ						●				1
119	メジロ科	メジロ科	ソウシチョウ	<i>Leiothrix lutea</i>						●	●			2
120			メジロ	<i>Zosterops japonicus</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	9
121		ヨシキリ科	オオヨシキリ	<i>Acrocephalus orientalis</i>		●	●	●					●	4
122			セッカ科	<i>Cisticola juncidis</i>									●	1
123		レンジャク科	ヒレンジャク	<i>Bombcilla japonica</i>	●				●					2
124			ゴジュウカラ科	ゴジュウカラ	●	●	●	●			●			6
125		キバシリ科	キバシリ	<i>Certhia familiaris</i>	●		●				●			3
126			ミソサザイ科	ミソサザイ	●	●	●	●	●	●	●	●		8
127		ムクドリ科	ムクドリ	<i>Spodiopsar cineraceus</i>		●	●	●	●	●				5
128			コムクドリ	<i>Agropsar philippensis</i>		●								1
129	カワガラス科	カワガラス科	カワガラス	<i>Cinclus pallasii</i>	●	●	●	●	●	●	●	●		8
130			トラツグミ	<i>Zoothera dauma</i>	●	●	●	●	●	●	●			5
131		ヒタキ科	クロツグミ	<i>Turdus cardis</i>	●	●	●	●	●	●	●			7
132			シロハラ	<i>Turdus pallidus</i>			●			●	●	●	●	5
133			アカハラ	<i>Turdus chrysolaus</i>	●				●					2
134			ツグミ	<i>Turdus naumanni</i>	●	●	●			●	●	●		7
135			コマドリ	<i>Luscinia akahige</i>	●									1
136			ノゴマ	<i>Luscinia calliope</i>	●								●	2
137			コルリ	<i>Luscinia cyane</i>	●	●		●	●					4
138			ルリビタキ	<i>Tarsiger cyanurus</i>					●	●	●	●		4
139			ジョウビタキ	<i>Phoenicurus aureus</i>		●	●	●	●	●	●	●		7
140			ノビタキ	<i>Saxicola torquatus</i>	●									1
141	イワヒバリ科	イワヒバリ科	イソヒヨドリ	<i>Monticola solitarius</i>						●	●	●	●	4
142			エゾビタキ	<i>Muscicapa griseisticta</i>									●	1
143		スズメ科	コサメビタキ	<i>Muscicapa dauurica</i>	●					●		●		3
144			キビタキ	<i>Ficedula narsissina</i>	●	●	●	●	●	●	●	●		8
145		セキレイ科	オオルリ	<i>Cyanoptila cyanomelana</i>	●	●	●	●	●	●	●	●		8
146			カヤクグリ	<i>Prunella rubida</i>						●				1
147		スズメ科	ニュウナイスズメ	<i>Passer rutilans</i>	●			●						3
148			スズメ	<i>Passer montanus</i>		●	●	●	●	●	●	●	●	8
149		カエデチョウ科	シマキンバラ	<i>Lonchura punctulata</i>									●	1
150			セキレイ科	キセキレイ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	9
151	アトリ科	アトリ科	ハクセキレイ	<i>Motacilla alba</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	8
152			セグロセキレイ	<i>Motacilla grandis</i>	●	●	●	●	●	●	●	●		8
153		アトリ科	ビンズイ	<i>Anthus hodgsoni</i>	●							●		2
154			アトリ	<i>Fringilla montifringilla</i>		●		●	●	●	●			5
155		アトリ科	カワラヒワ	<i>Chloris sinica</i>	●	●	●	●	●	●	●	●		8
156			マヒワ	<i>Carduelis spinus</i>	●	●	●	●	●		●			5
157		アトリ科	ベニヒワ	<i>Carduelis flammea</i>	●									1
158			ベニマシコ	<i>Uragus sibiricus</i>		●	●	●	●	●	●	●		7
159		アトリ科	イスカ	<i>Loxia curvirostra</i>					●					1
160			ウソ	<i>Pyrrhula pyrrhula</i>	●	●		●	●	●		●		6
161	ホオジロ科	ホオジロ科	シメ	<i>Coccothraustes coccothraustes</i>	●	●	●	●	●	●	●	●		5
162			イカル	<i>Eophona personata</i>	●	●	●	●	●	●	●	●		8
163		ホオジロ科	ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>	●	●	●	●	●	●	●	●		8
164			コホオアカ	<i>Emberiza pusilla</i>									●	1
165		ホオジロ科	カシラダカ	<i>Emberiza rustica</i>	●	●	●	●	●	●	●	●		7
166			ミヤマホオジロ	<i>Emberiza elegans</i>									●	1
167		ホオジロ科	ノジコ	<i>Emberiza sulphurata</i>			●	●	●	●	●	●		3
168			アオジ	<i>Emberiza spodocephala</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	8
169			クロジ	<i>Emberiza variabilis</i>	●	●	●		●	●	●			5
合計	17目	49科		169種	178	160	156	170	188	174	154	134	130	—

注 1) 本リストは家禽・籠拔けを含む。

注 2) 種を基準として種数を数えている（亜種は当該亜種が含まれる種が確認されているときは数えていない）。

鳥類重要種一覧（令和元年度）

No	目名	科名	種名	学名	選定基準			北海道	東北				関東	近畿	中国	沖縄	確認 ダム数
					①	②	③		夕張 シュー パロダム	長井 ダム	白川 ダム	寒河江 ダム					
1	キジ目	キジ科	エゾライチョウ	<i>Tetrastes bonasia</i>			DD	●									1
2	カモ目	カモ科	オシドリ	<i>Aix galericulata</i>			DD	●	●	●	●	●	●				7
3			トモエガモ	<i>Anas formosa</i>			VU							●			1
4	カイツブリ目	カイツブリ科	カンムリカイツブリ	<i>Podiceps cristatus</i>			LP:青森県の繁殖個体群				●		●				2
5	ペリカン目	サギ科	チュウサギ	<i>Egretta intermedia</i>			NT									●	1
6	ヨタカ目	ヨタカ科	ヨタカ	<i>Caprimulgus indicus</i>			NT		●	●	●	●			●		5
7	チドリ目	シギ科	オオジシギ	<i>Gallinago hardwickii</i>			NT	●									1
8			タカブシギ	<i>Tringa glareola</i>			VU										1
9		カモメ科	コアジサシ	<i>Sterna albifrons</i>			VU										1
10	タカ目	ミサゴ科	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>			NT	●		●		●	●	●	●	●	7
11		タカ科	ハチクマ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>			NT	●	●	●	●	●				●	6
12			オジロワシ	<i>Haliaeetus albicilla</i>	天然	国内	VU	●		●							2
13			オオワシ	<i>Haliaeetus pelagicus</i>	天然	国内	VU	●									1
14			ハイタカ	<i>Accipiter nisus</i>			NT	●	●	●	●	●	●	●		●	8
15			オオタカ	<i>Accipiter gentilis</i>			亜種オオタカ：NT		●			●	●	●			4
16			サシバ	<i>Butastur indicus</i>			VU		●		●		●	●		●	5
17			イヌワシ	<i>Aquila chrysaetos</i>	天然	国内	EN					●					1
18			クマタカ	<i>Nisaetus nipalensis</i>		国内	EN	●	●		●	●	●	●			6
19	フクロウ目	フクロウ科	オオコノハズク	<i>Otus lempiji</i>			亜種リュウキュウオオコノハズク：VU									●	1
20	ブッポウソウ目	ブッポウソウ科	ブッポウソウ	<i>Eurystomus orientalis</i>			EN					●					1
21	キツツキ目	キツツキ科	クマゲラ	<i>Dryocopus martius</i>	天然		VU	●									1
22	ハヤブサ目	ハヤブサ科	ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>		国内・国際	亜種ハヤブサ：VU	●			●	◎	●			●	6
23	スズメ目	サンショウクイ科	サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>			亜種サンショウクイ：VU		●	●	●	●	●				5
24		モズ科	アカモズ	<i>Lanius cristatus</i>			亜種アカモズ：EN									●	1
25		ウグイス科	ウグイス	<i>Cettia diphone</i>			亜種ダイトウウグイス：DD	●	●	●	●	●	●	●	●	●	9
26		ムシクイ科	オオムシクイ	<i>Phylloscopus examinandus</i>			DD	●								●	2
27		ホオジロ科	ノジコ	<i>Emberiza sulphurata</i>			NT			●	●	●					3
合計	12目	18科		27種	4	5	27	13	9	9	11	14	9	9	4	11	—

凡例) ●、◎：重要種に該当するため種数計数(うち◎は、P5-7～P5-9 に示す分析対象種のうち、当該ダム等で今回初確認)

注1) エゾライチョウ、カンムリカイツブリ、チュウサギ、コアジサシ、ミサゴ、ハチクマ、オジロワシ、オオワシ、ハイタカ、オオタカ、イヌワシ、クマタカ、リュウキュウオオコノハズク、ブッポウソウ、クマゲラ、ハヤブサ、サンショウクイ、アカモズは、種ではなく亜種で指定されている。

注2) ツミは基亜種ツミ(A. g. gularis)は指定されておらず、亜種リュウキュウツミ(A. g. iwasakii)がENに指定されている。リュウキュウツミの分布は環境省RDBで八重山諸島に限られるとされているため、ここでは基亜種ツミとして該当なしとした。

注3) ハヤブサは基亜種ハヤブサ(F. p. japonensis)がVUに、亜種シマハヤブサ(F. p. furutii)がDDに、オオハヤブサ(F. p. pealei)、アメリカハヤブサ(F. p. anatum)が指定なしに指定されている。ここではオオハヤブサ、アメリカハヤブサはごく希な渡来であるため、基亜種として指定されているVUで示した。

注4) サンショウクイは基亜種サンショウクイ(P. d. divaricatus)がVUに指定、亜種リュウキュウサンショウクイ(P. d. tegimae)は指定がない。ここでは分布から、種サンショウクイとして記録されているものも、VUに指定されている基亜種サンショウクイと同じランクで示した。ただし亜種リュウキュウサンショウクイは生息地を九州・四国へ拡げているという見もある。

選定基準

①文化財保護法

特天：国指定特別天然記念物 天然：天然記念物

②絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律[種の保存法](平成5年)

国内：国内希少野生動植物種

③環境省(「レッドリスト2018」掲載種

CR：絶滅危惧ⅠA類—ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高い種

EN：絶滅危惧ⅠB類—ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高い種

VU：絶滅危惧Ⅱ類—絶滅の危険が増大している種

NT：準絶滅危惧—現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種

DD：情報不足—評価するだけの情報が不足している種

LP：絶滅のおそれのある地域個体群—地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの。

鳥類国外外来種一覧（令和元年度）

No	目名	科名	種名	学名	国外外来種	北海道	東北				関東	近畿	中国	沖縄	確認 ダム数
						夕張 シュー パロ ダム	長井 ダム	白川 ダム	寒河江 ダム	月山 ダム	宮ヶ瀬 ダム	大滝 ダム	八田 原ダム	金武 ダム	
1	キジ目	キジ科	コジュケイ	<i>Bambusicola thoracicus</i>	外来種						●	●	●		3
2	カモ目	カモ科	バリケン	<i>Cairina moschata</i>	家禽									●	1
3	ハト目	ハト科	カワラバト(ドバト)	<i>Columba livia</i>	家禽								●	●	2
4	スズメ目	ヒヨドリ科	シロガシラ	<i>Pycnonotus sinensis</i>	総合対策（その他）									●	1
5		チメドリ科	ガビチョウ	<i>Garrulax canorus</i>	特定/総合対策（重点）						●				1
6			ソウシチョウ	<i>Leiothrix lutea</i>	特定/総合対策（重点）						●	●			2
7		カエデチョウ科	シマキンパラ	<i>Lonchura punctulata</i>	外来種										●
合計	4目	6科	7種		7	0	0	0	0	0	3	2	2	4	—

注）●は確認を示す。

凡例）

「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（以下「特定外来生物法」）」指定種

特定外来：「特定外来生物法」における特定外来生物

未判定：「特定外来生物法」における未判定外来生物

「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト（以下「生態系被害防止外来種リスト」）」掲載種

定着予防（侵入予防）：国内に未侵入・未定着であり、定着した場合に生態系等への被害のおそれがあるため、特に国内への侵入を未然に防ぐ必要がある外来種。

定着予防（その他）：侵入の情報はあがるが、国内に未定着であり、定着した場合に生態系等への被害のおそれがあるため、早期防除が必要な外来種。

総合対策（緊急）：国内に定着が確認されており、生態系等への被害のおそれがあるため、総合的に対策が必要な外来種のうち、緊急性が高く、積極的に防除が必要な外来種。

総合対策（重点）：国内に定着が確認されており、生態系等への被害のおそれがあるため、総合的に対策が必要な外来種のうち、甚大な被害が予想される重点的に対策が必要な外来種。

総合対策（その他）：国内に定着が確認されており、生態系等への被害のおそれがあるため、総合的に対策が必要な外来種のうち、緊急、重点に該当しない種。

産業管理：産業又は公益的役割において重要であり、利用において逸出等の防止のための適切な管理に重点を置いた対策が必要な外来種。

「日本鳥類目録 改訂第7版」において国内で繁殖記録のある外来種のリスト掲載種

外来種：国内で繁殖記録のある外来種（「Part B 種・亜種」掲載種）

5.2 生物多様性

(1) ダム湖周辺環境の指標となる猛禽類の確認状況

ここでは、食物連鎖の上位に位置する生物種の生息状況が、下位に位置する生物を含めた地域の生態系の指標となるという観点から、ダムのある山間地域を生息の場とする猛禽類のイヌワシ、オオタカ、クマタカ、ハヤブサについて、ダム湖周辺環境における確認状況を整理しました。また参考として、オオワシ、オジロワシの確認状況も整理しました。

なお、1～4 巡目との比較は、調査の範囲や時期、回数などの条件が必ずしも同一ではありません。比較結果は同一ダムでの消長を示すものではなく、全国的な傾向を検討するための参考です。

・今回分析対象とした 9 ダムのうち 7 ダムでは、オオタカ、クマタカ、ハヤブサ、オオワシ、オジロワシのいずれかを確認

猛禽類は食物連鎖の上位に位置することから、地域の生態系の指標となります。

ダムのある山間地域やダム湖周辺等を採餌・生息の場とする猛禽類であるオオタカが 4 ダムで、イヌワシが 1 ダムで、クマタカが 6 ダムで、ハヤブサが 6 ダムで、オオワシが 1 ダムで、オジロワシが 2 ダムで確認されました。

指標となる猛禽類の確認ダム数の巡目比較

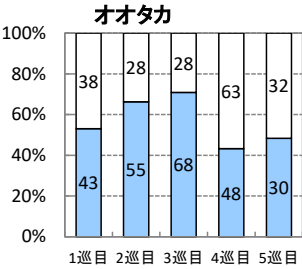
種名		1 巡目調査 (81 ダム)	2 巡目調査 (83 ダム)	3 巡目調査 (96 ダム)	4 巡目調査 (111 ダム)	5 巡目調査 (62 ダム)	今回 確認
留鳥	イヌワシ	7 ダム [8.6%]	12 ダム [14.4%]	12 ダム [12.5%]	6 ダム [5.4%]	2 ダム [3.2%]	○
	オオタカ	43 ダム [53.1%]	55 ダム [66.3%]	68 ダム [70.8%]	48 ダム [43.2%]	30 ダム [48.4%]	○
	クマタカ	35 ダム [43.2%]	48 ダム [57.8%]	53 ダム [55.2%]	64 ダム [57.7%]	41 ダム [66.1%]	○
	ハヤブサ	12 ダム [14.8%]	20 ダム [24.1%]	41 ダム [41.8%]	43 ダム [38.7%]	36 ダム [58.1%]	○
渡りの鳥	オオワシ	4 ダム [4.9%]	3 ダム [3.6%]	7 ダム [7.3%]	9 ダム [8.1%]	4 ダム [6.5%]	○
	オジロワシ	13 ダム [16.0%]	15 ダム [18.1%]	20 ダム [20.8%]	23 ダム [20.7%]	6 ダム [9.7%]	○

※ ()内は各巡目において調査を実施しているダムの数を示す。巡目の途中から調査を行っていたり、途中の年度を調査していないダムがあるため、巡目毎の調査ダム数は同じではない。

※ [] 内は確認ダム数の対象ダム数に対する%を示す。

今回とりまとめを行った 9 ダムのうち 7 ダムで、イヌワシ、オオタカ、クマタカ、ハヤブサ、オオワシ、オジロワシのいずれかを確認しました。

なお、国内外の絶滅のおそれのある野生生物を保護するため「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（種の保存法）が平成 5(1993)年 4 月に制定された後、環境省等により猛禽類の調査マニュアルが整備され、猛禽類調査が実施されたことから、猛禽類が確認されたダムの割合は 1 巡目より 2 巡目以降の方が高くなったものと考えられます。また、今回とりまとめ対象としたダムのうち、夕張シューパロダム、長井ダム、大滝ダム、金武ダムは、河川水辺の国勢調査を初めて実施したダムですので、すべての種は初めての確認となりますので、過年度との比較は行っていません。



オオタカは、今回取りまとめを行った 9 ダムのうち 4 ダムで確認されました。3 巡目まで確認されていた東北の白川ダム、寒河

■ 確認ダム □ 未確認ダム
※ グラフ中の数字はダム数

江ダム、4 巡目で確認されていた中国の八田原ダムでは、今回は確認されませんでした。オオタカは環境省のレッドリストで準絶滅危惧に指定されており、陸域環境を保全する上で注目される種であり、北海道から九州まで分布する種で、稀な旅鳥・冬鳥として沖縄にも飛来します。オオタカの主な餌は小型の鳥類で、リス等の小型哺乳類も捕食します。

イヌワシは、今回取りまとめを行った 9 ダムのうち月山ダムで確認されました。3 巡目まで確認されていた東北の寒河江ダムでは、今回は確認されませんでした。

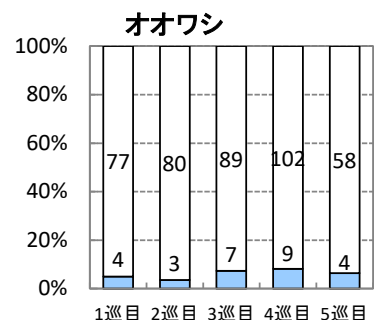
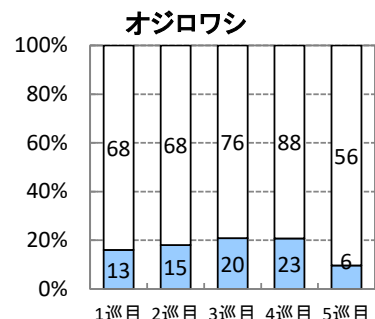
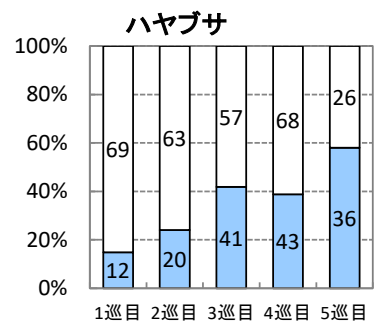
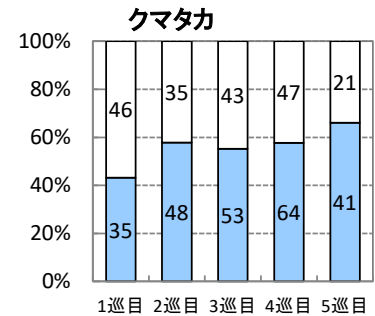
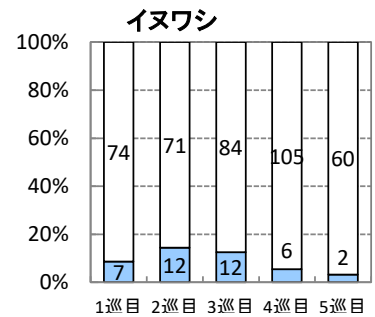
クマタカは、今回取りまとめを行った 9 ダムのうち 6 ダムで確認されました。3 巡目まで確認されていた東北の白川ダムでは、今回は確認されませんでした。

クマタカ、イヌワシは、陸域環境を保全する上で注目される種であり、北海道から九州まで分布する種です。環境省のレッドリストで絶滅危惧ⅠB 類に指定されており、小型～中型哺乳類、小型から中型の鳥類やヘビ類等を主な餌とする高次捕食者です。

ハヤブサは、今回取りまとめを行った 9 ダムのうち 6 ダムで確認されました。このうち、東北の寒河江ダムでは初めて確認されました。また、中国の八田原ダムでは、ダム直下の崖地で営巣が確認されています。ハヤブサは海岸や河川などの開けたところに生息し、崖や岩棚に営巣します。小型から中型の鳥類を捕食する中型猛禽類であり、北海道から九州まで分布する種で、稀な旅鳥・冬鳥として沖縄にも飛来します。環境省のレッドリストで絶滅危惧Ⅱ類に指定されています。

オオワシは、北海道の夕張シューパロダムで確認されました。オオワシは、ロシア極東ベーリング海沿岸部等で繁殖し、越冬のため北海道や本州北部・中部に飛来します。大型魚を主な餌としていますが、水鳥や哺乳類の漂着死体も捕食します。環境省のレッドリストで絶滅危惧Ⅱ類に指定されています。

オジロワシは、北海道の夕張シューパロダム、東北の白川ダムで確認されました。夕張シューパロダムでは流入河川に営巣地が確認されていますが、今年度の利用はありませんでした。オジロワシは、ロシア極東地方や北海道でも繁殖します。海岸や湖沼周辺、河川流域の大木に営巣します。冬季には越冬のため本州北部～中部に飛来し、九州には少数飛来します。最近は、人間の活動圏近くで営巣するつがいも増え、営巣地はやや増加傾向にありますが、繁殖は必ずし



■ 確認ダム □ 未確認ダム

※グラフ中の数字はダム数

も安定していません。環境省のレッドリストで絶滅危惧Ⅱ類に指定されています。

なお、猛禽類は小鳥類より多くの餌を必要とすることから、猛禽類が生息・繁殖するためには、餌となる生物が豊富に生息している環境が存在することが重要です。ダム湖周辺の環境が猛禽類の生息環境として適切であるか、今後も継続して確認していく必要があります。



オオタカ（長井ダム）



イヌワシ（月山ダム）



クマタカ（月山ダム）



ハヤブサ 成鳥と雛（八田原ダム）

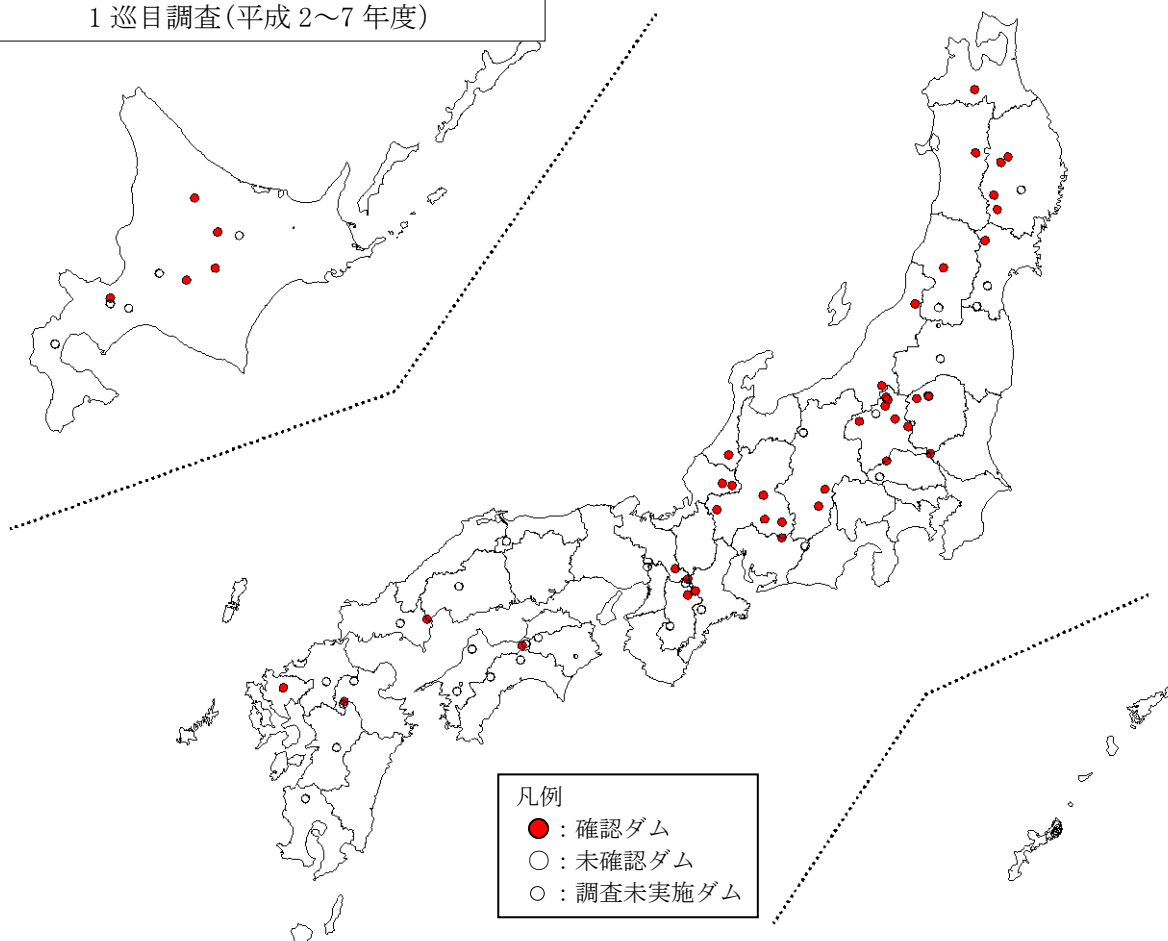


オジロワシ（夕張シューパロダム）

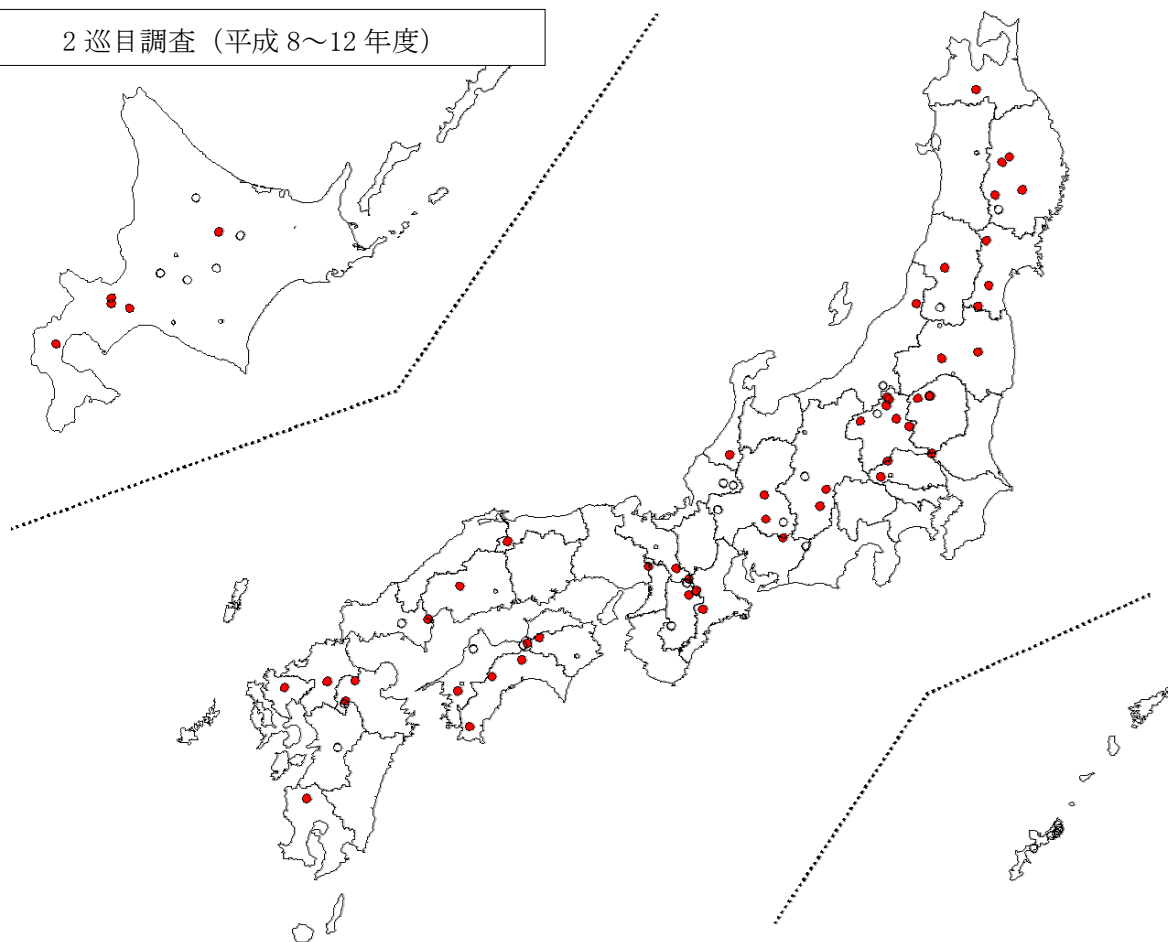


オオワシ（夕張シューパロダム）

1 巡目調査(平成 2～7 年度)

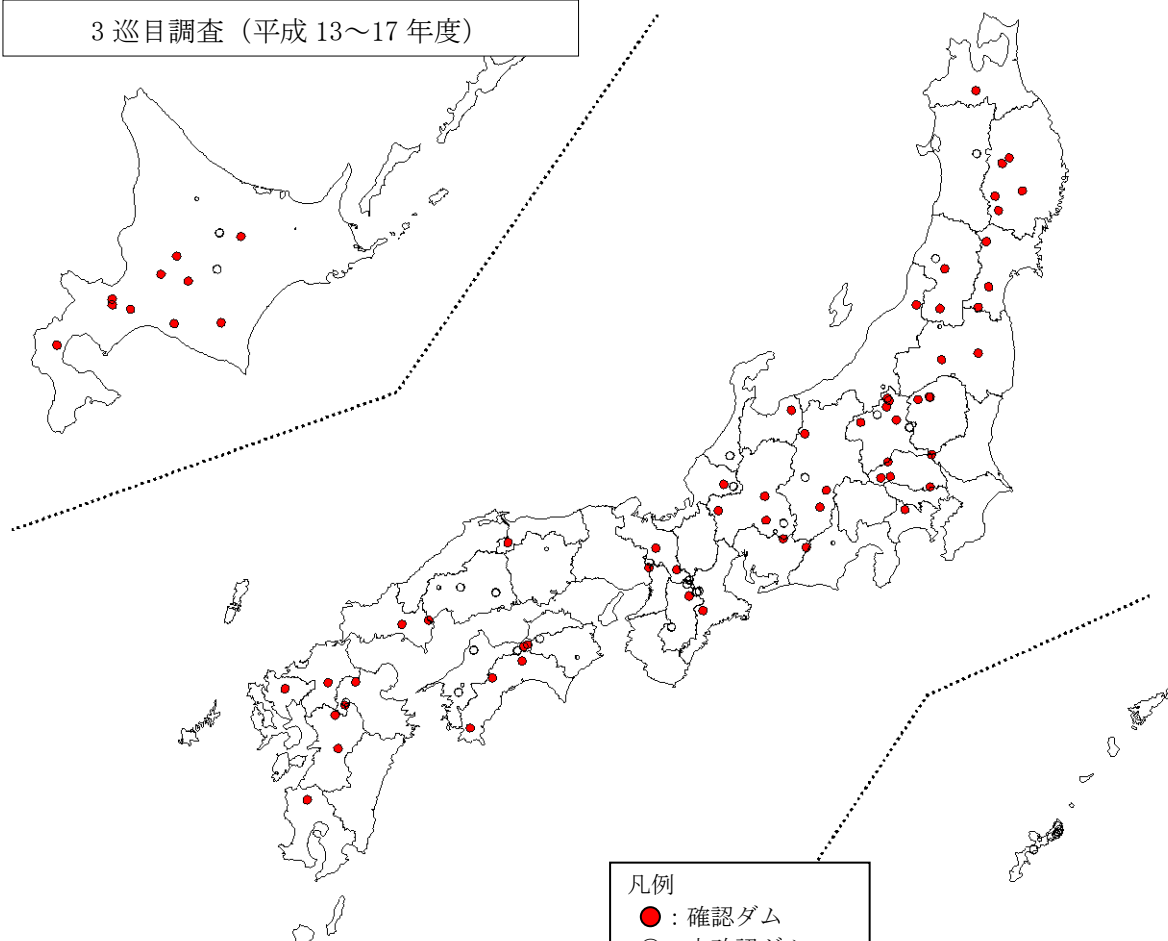


2 巡目調査 (平成 8～12 年度)

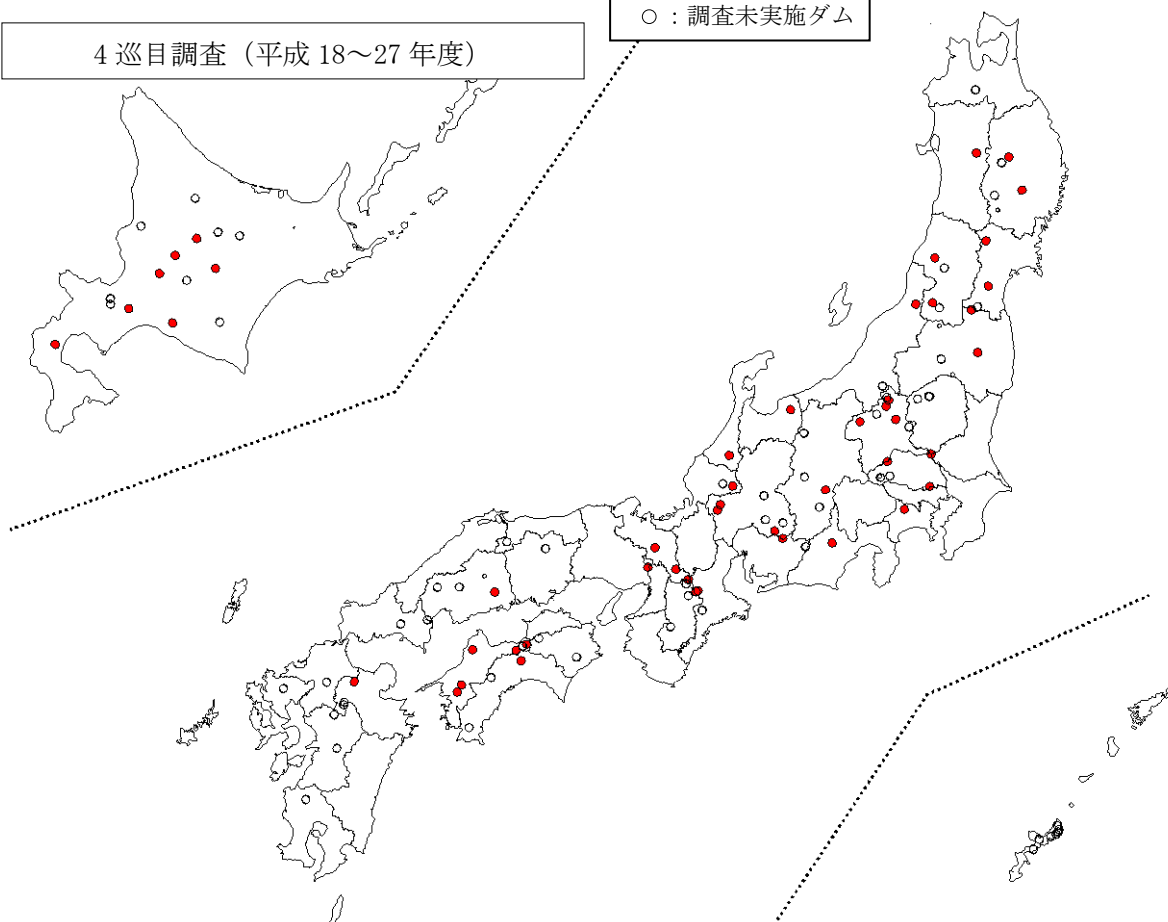


オオタカの確認状況 (1 巡目調査、2 巡目調査)

3 巡目調査（平成 13～17 年度）

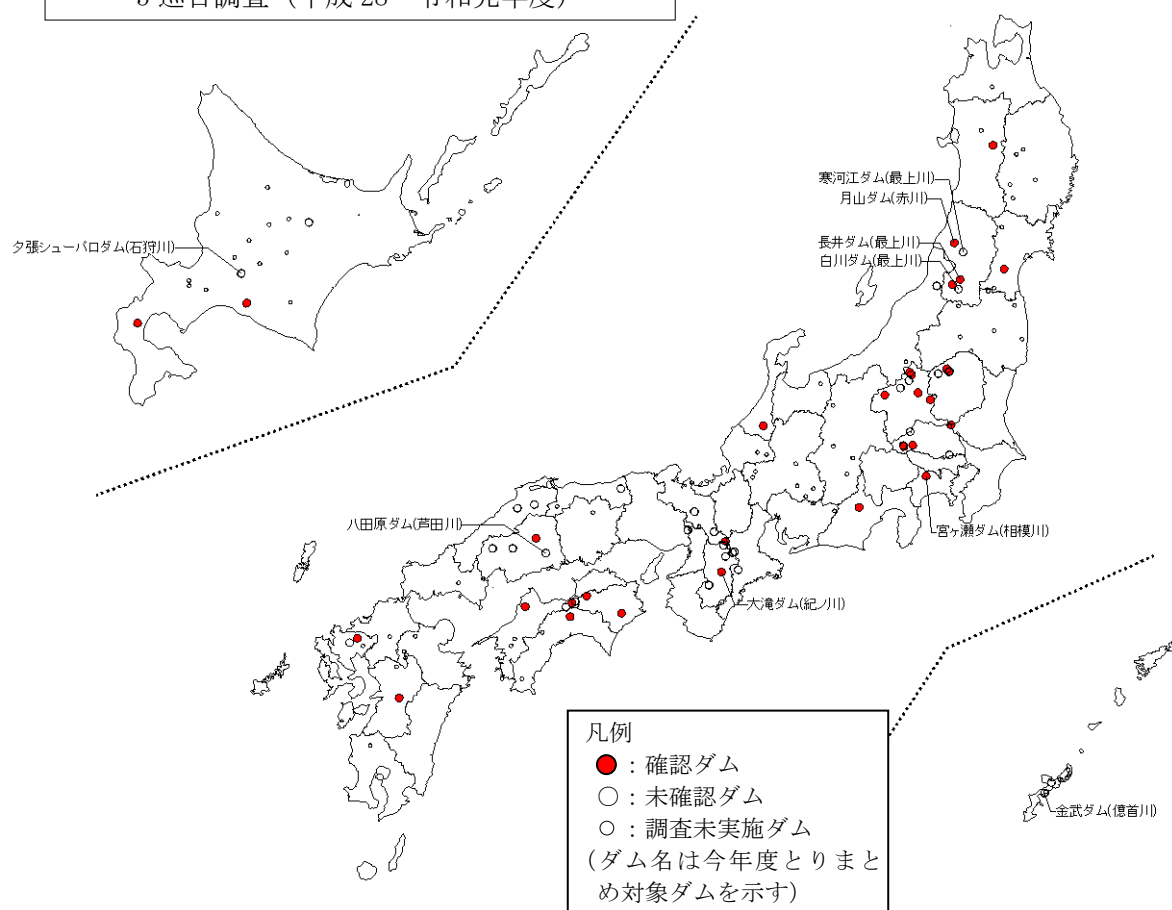


4 巡目調査（平成 18～27 年度）

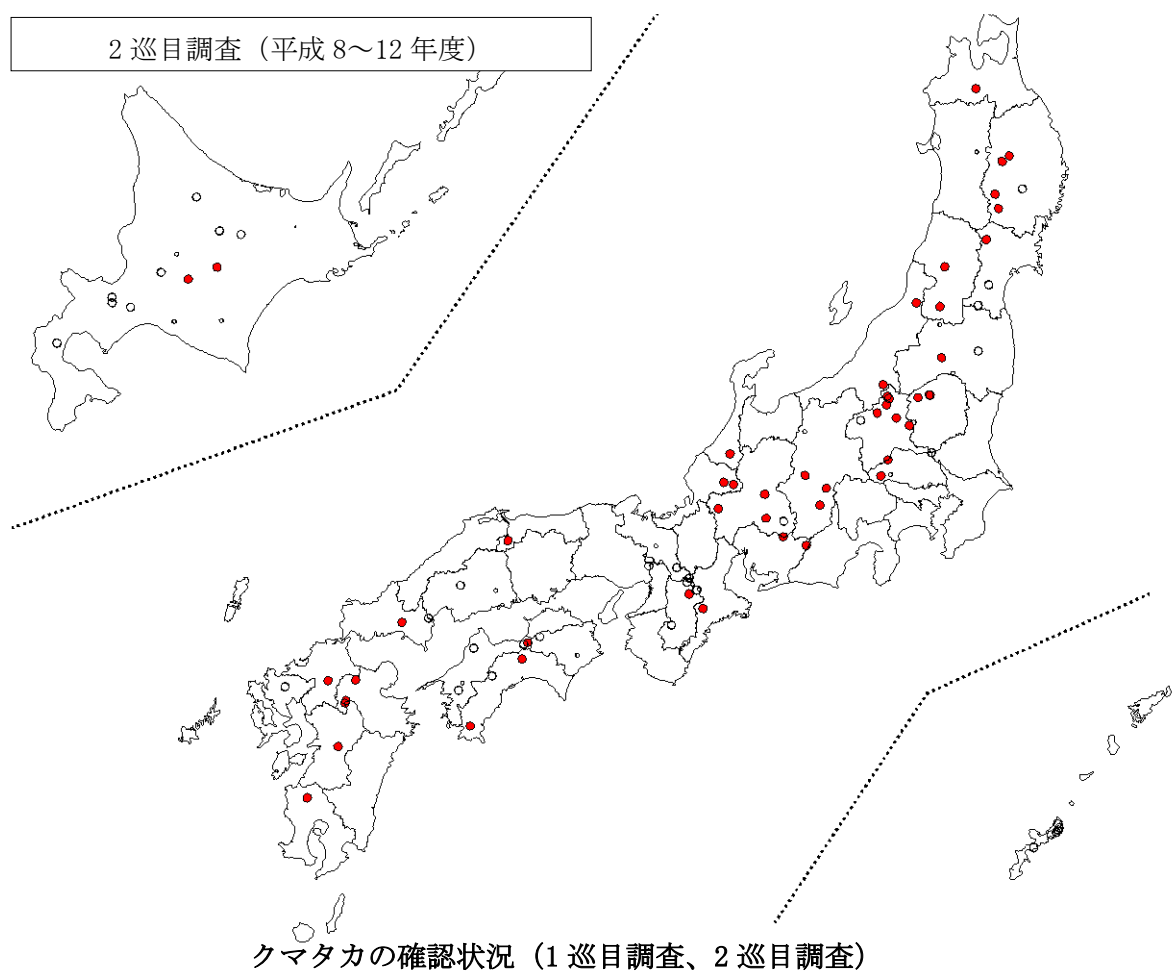
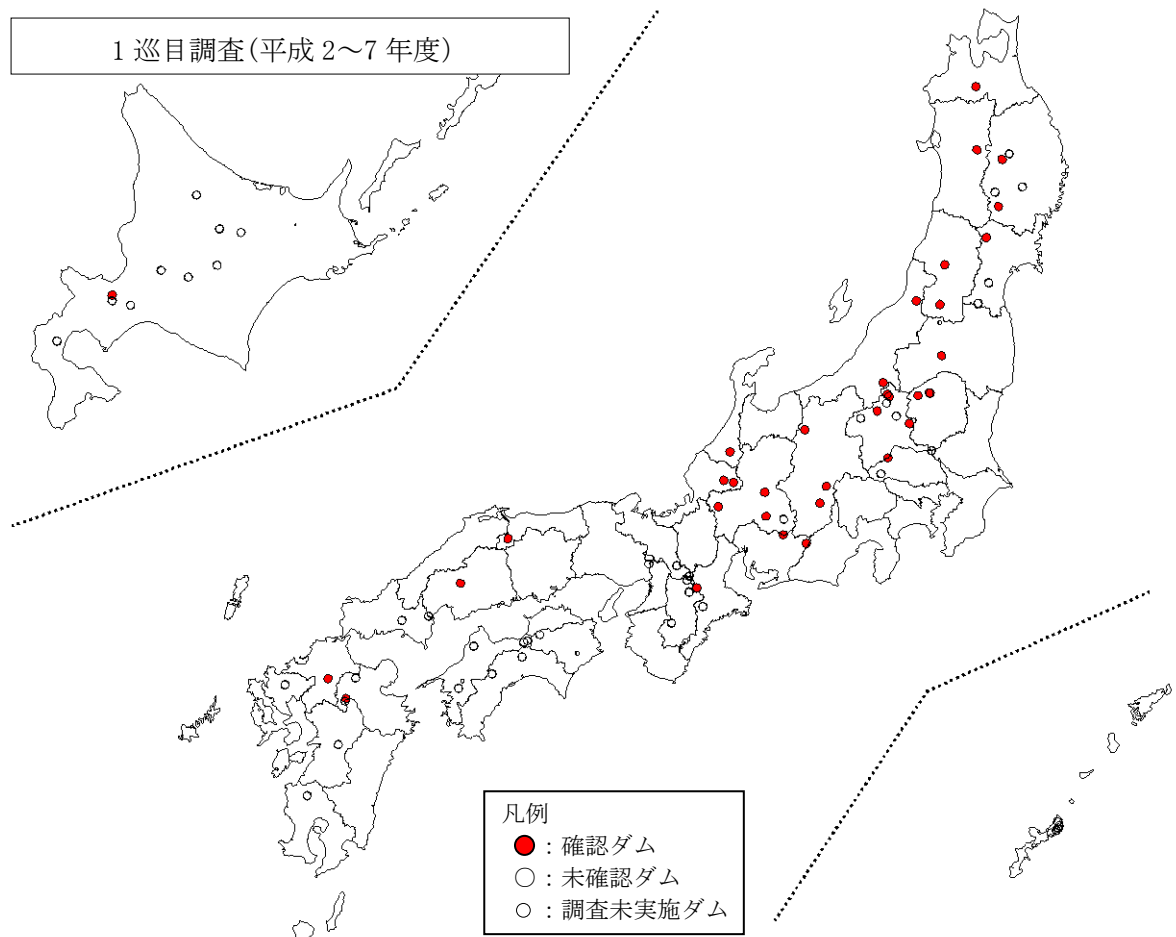


オオタカの確認状況（3 巡目調査、4 巡目調査）

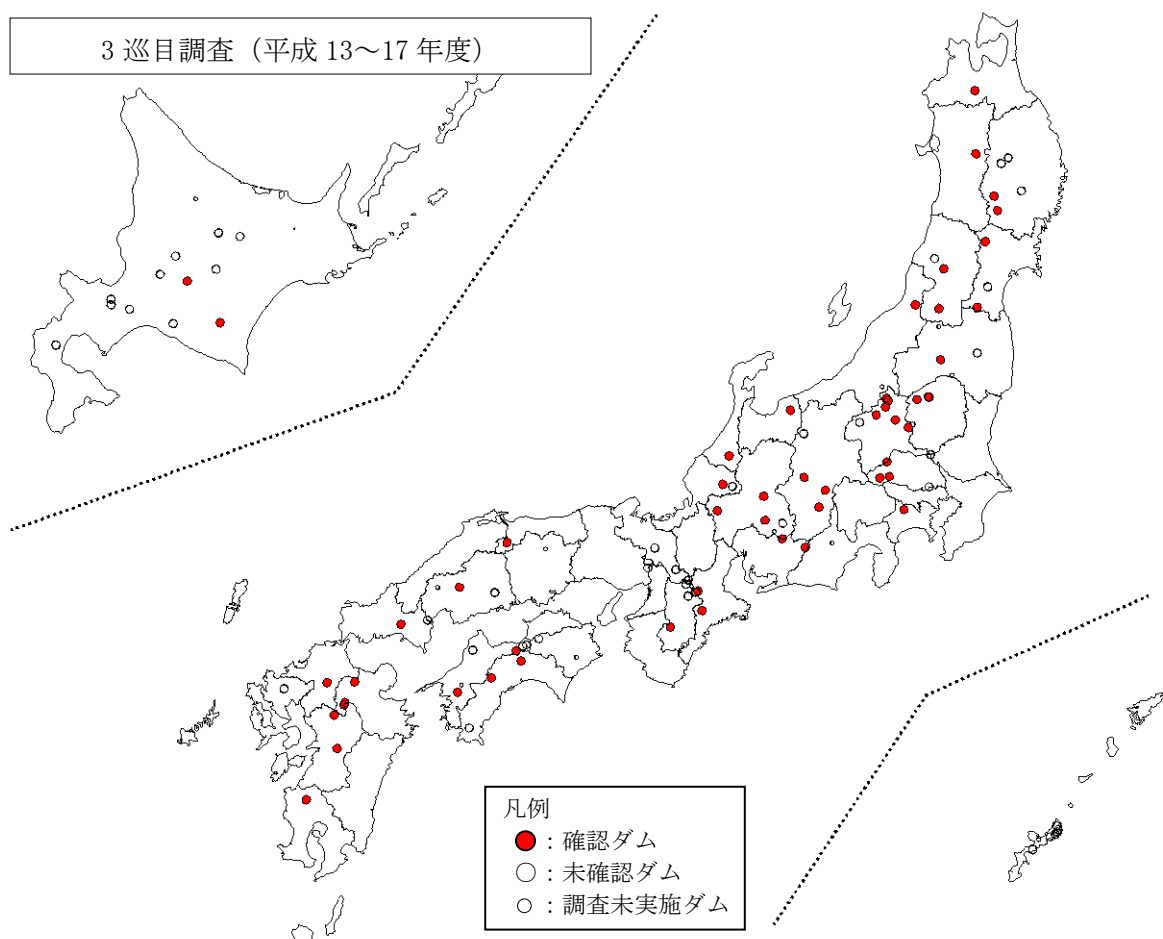
5 巡目調査（平成 28～令和元年度）



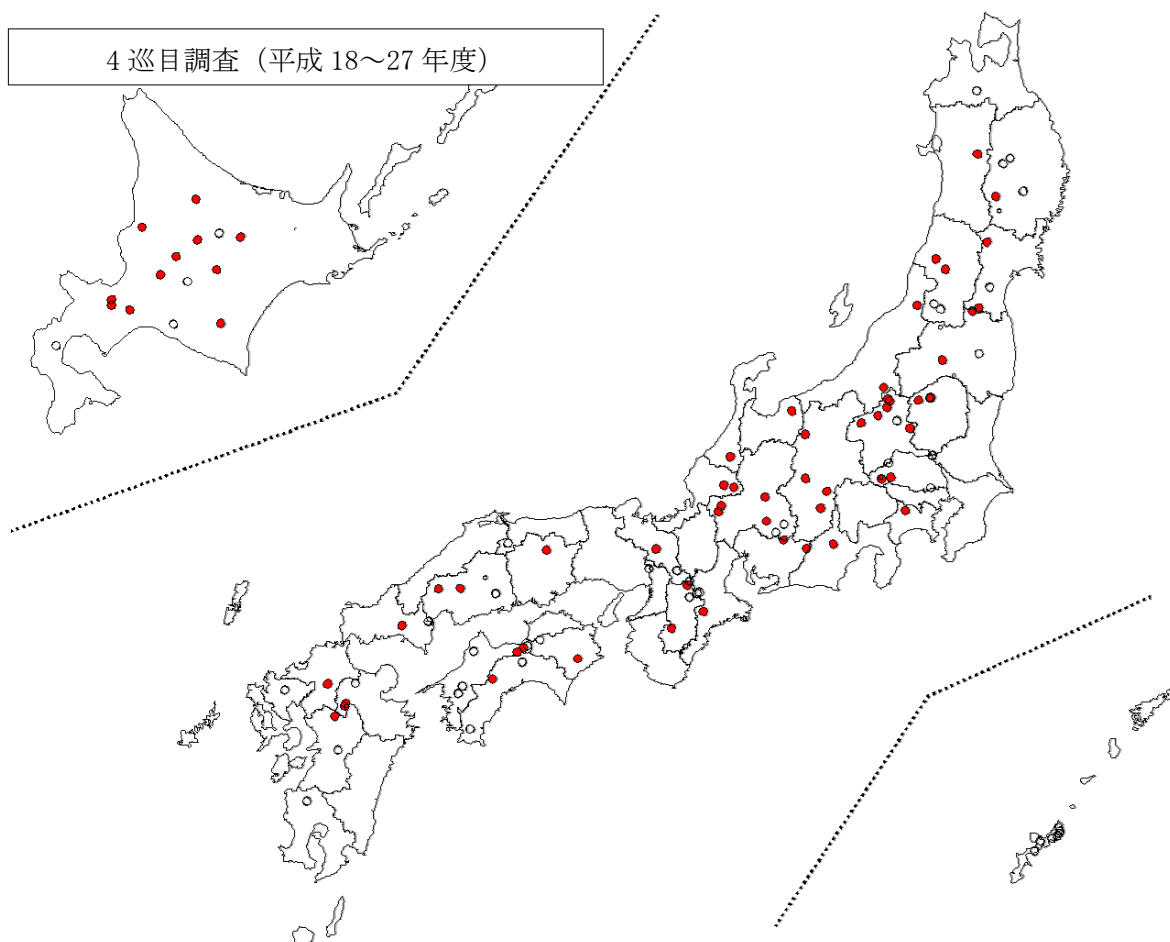
オオタカの確認状況（5 巡目調査）



3 巡目調査（平成 13～17 年度）

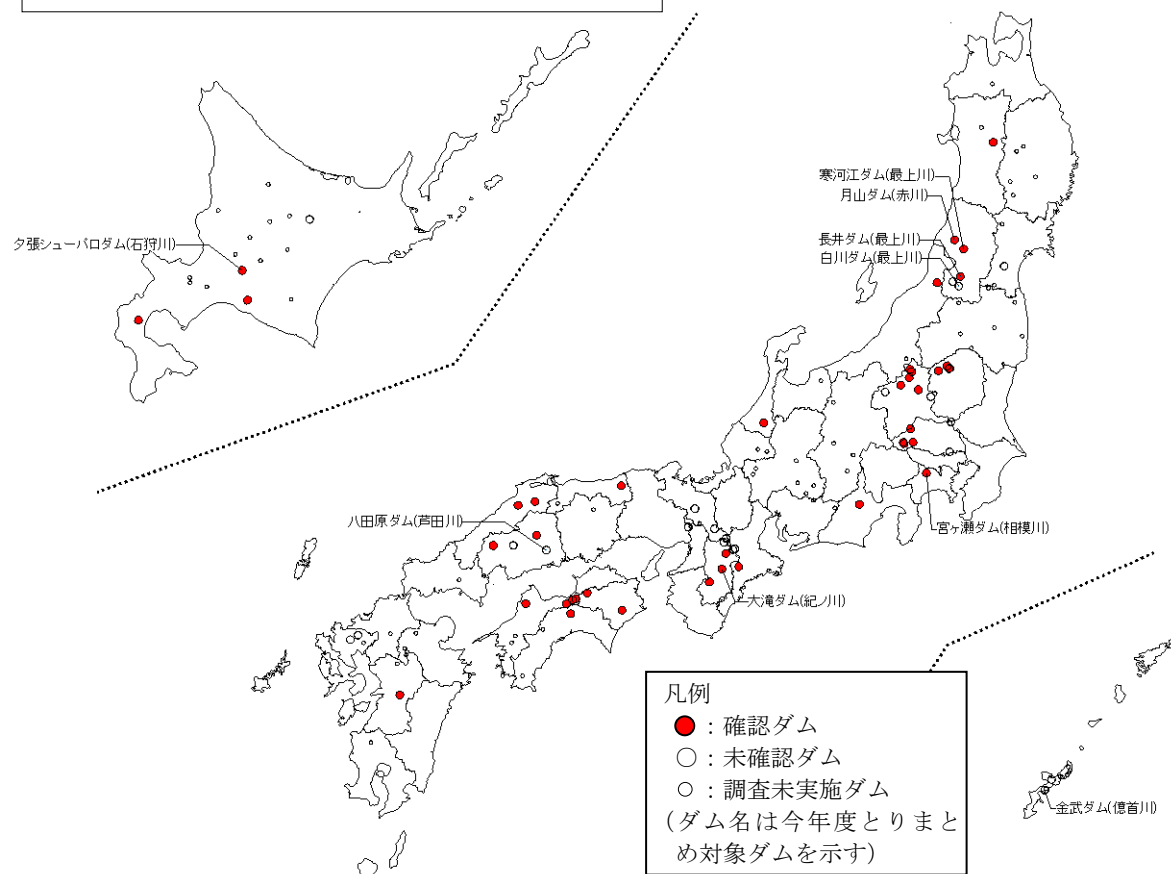


4 巡目調査（平成 18～27 年度）

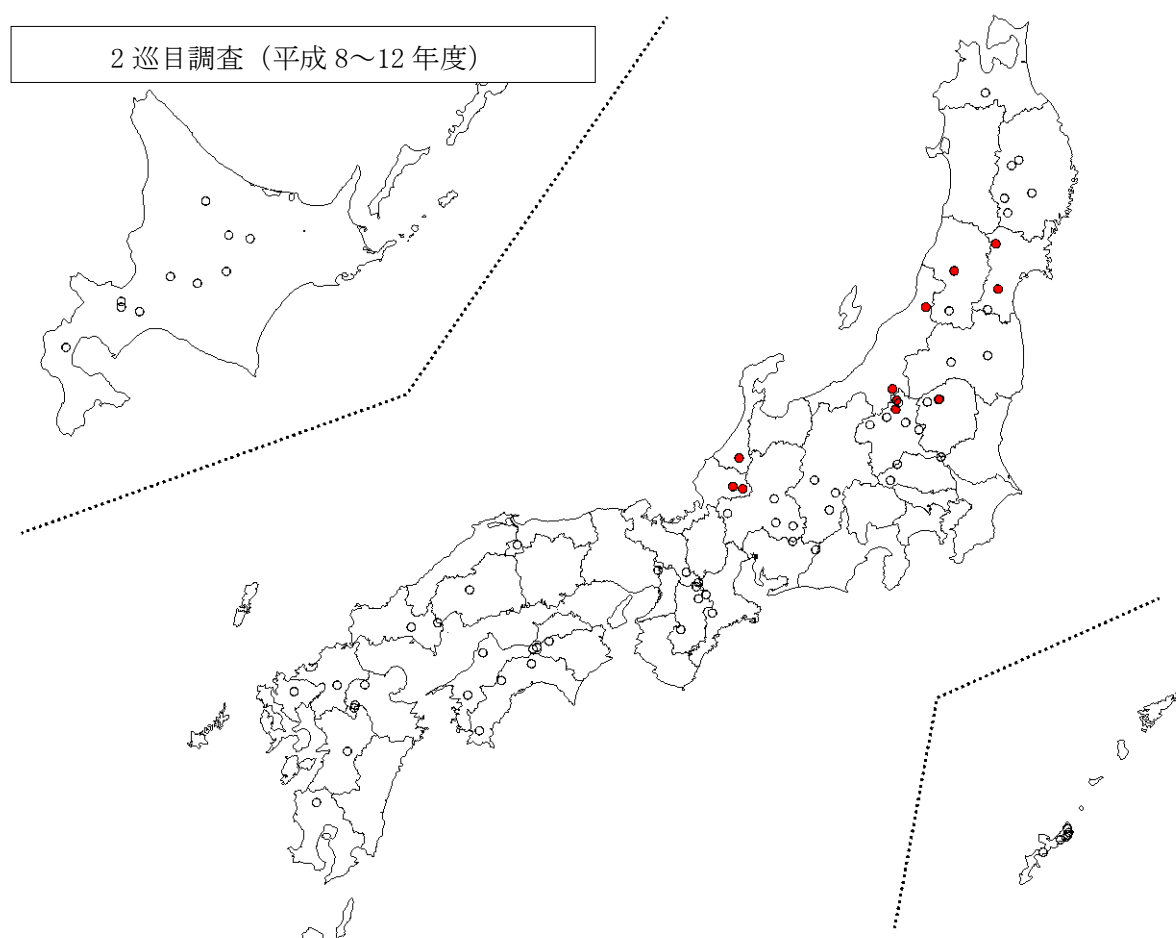
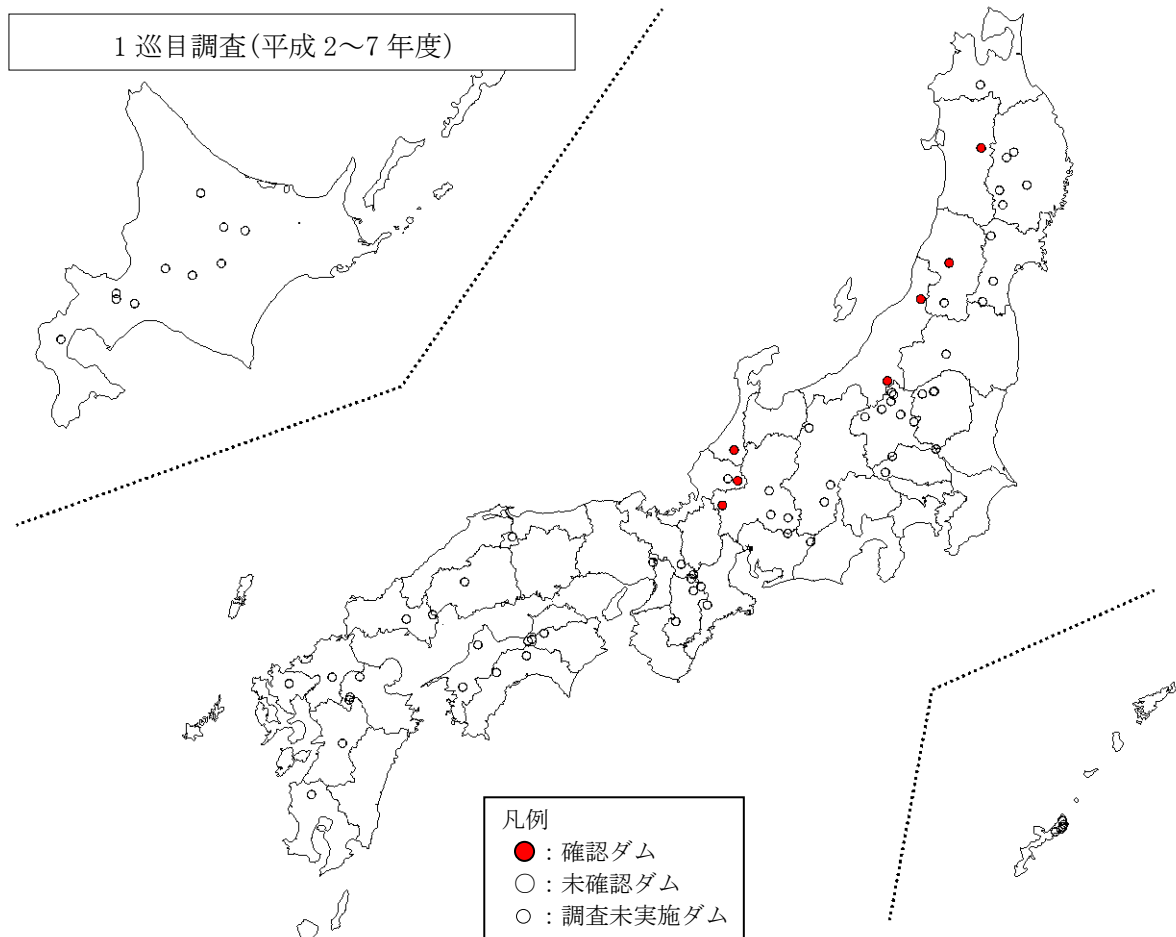


クマタカの確認状況（3 巡目調査、4 巡目調査）

5 巡目調査（平成 28～令和元年度）

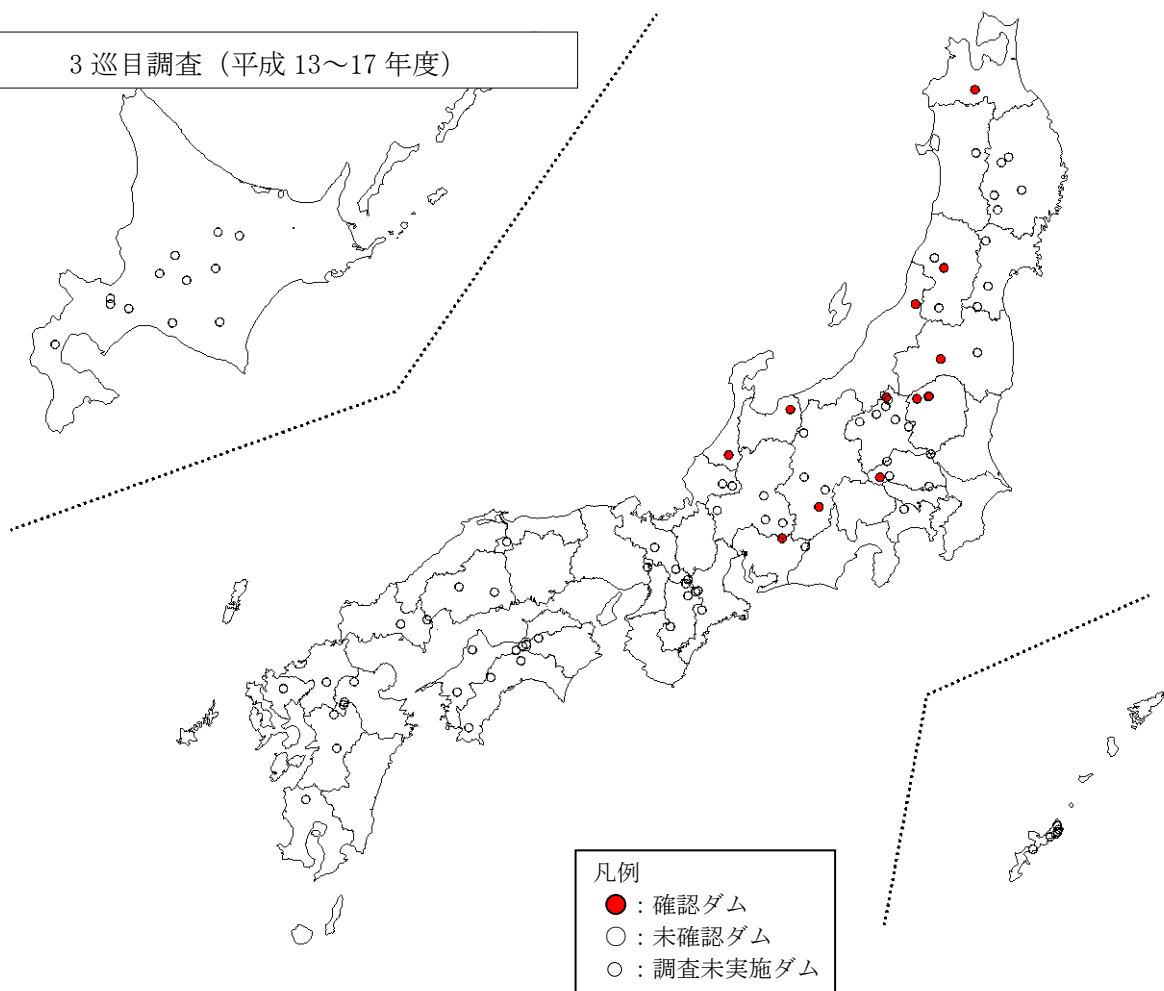


クマタカの確認状況（5 巡目調査）

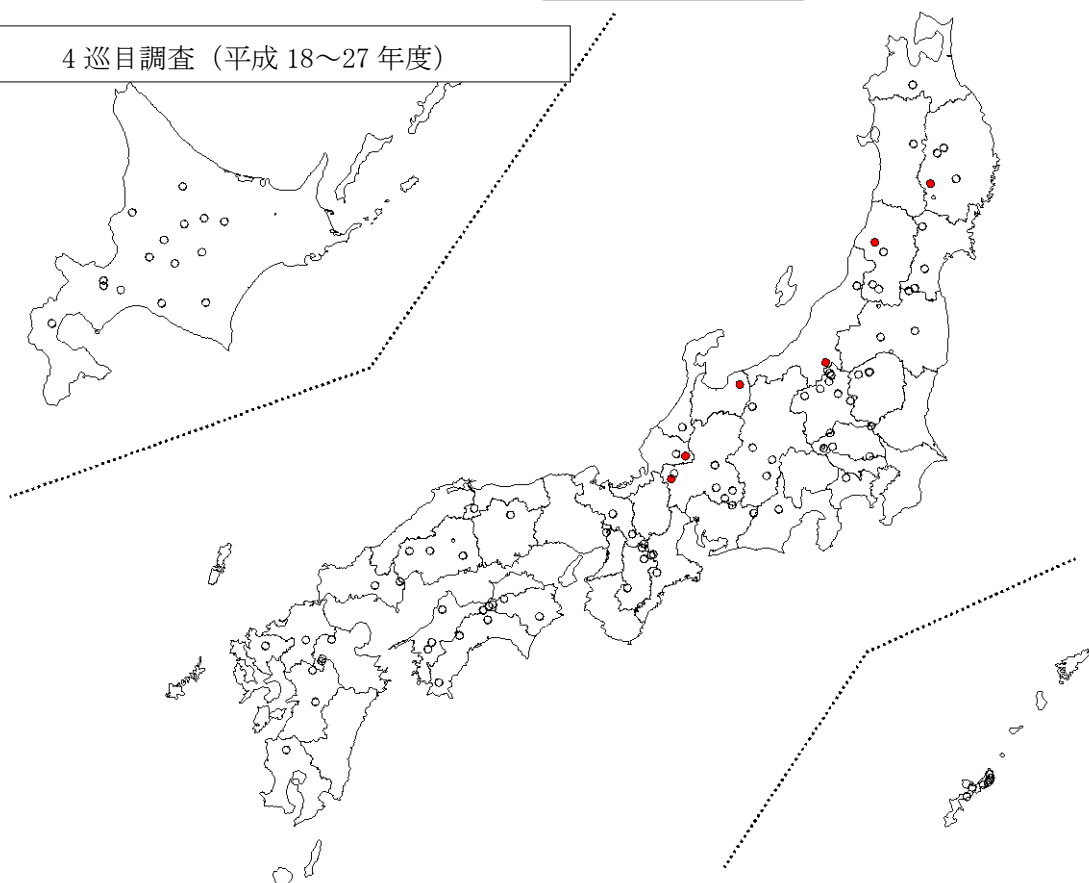


イヌワシの確認状況 (1 巡目調査、2 巡目調査)

3 巡目調査（平成 13～17 年度）

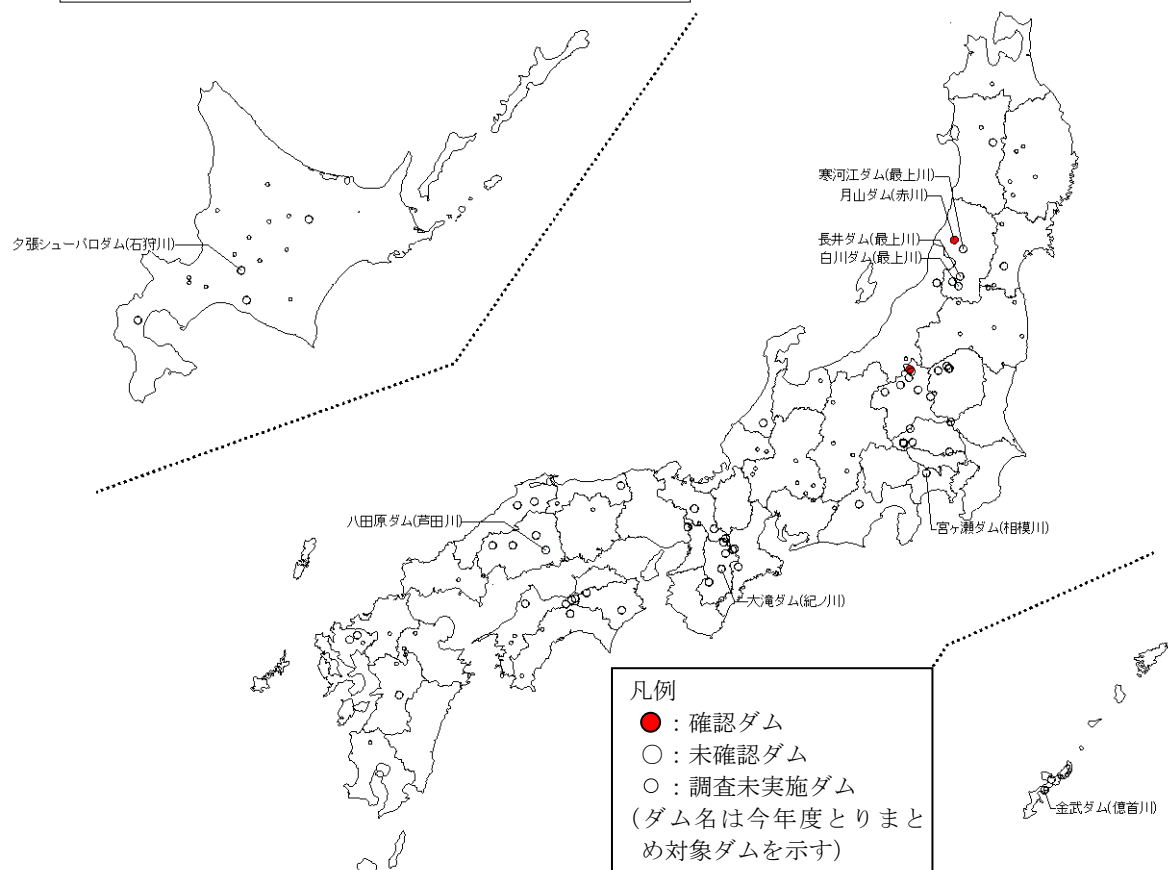


4 巡目調査（平成 18～27 年度）



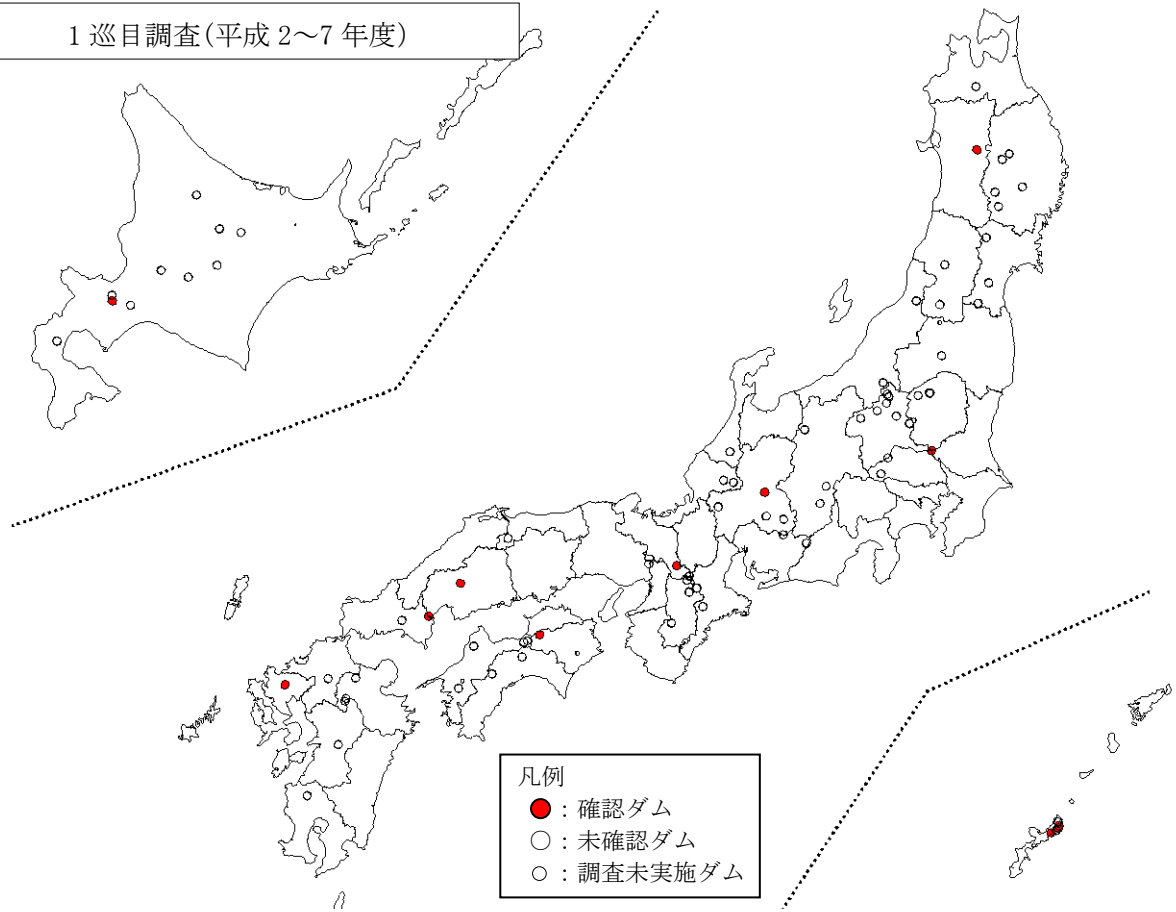
イヌワシの確認状況（3 巡目調査、4 巡目調査）

5 巡目調査（平成 28～令和元年度）

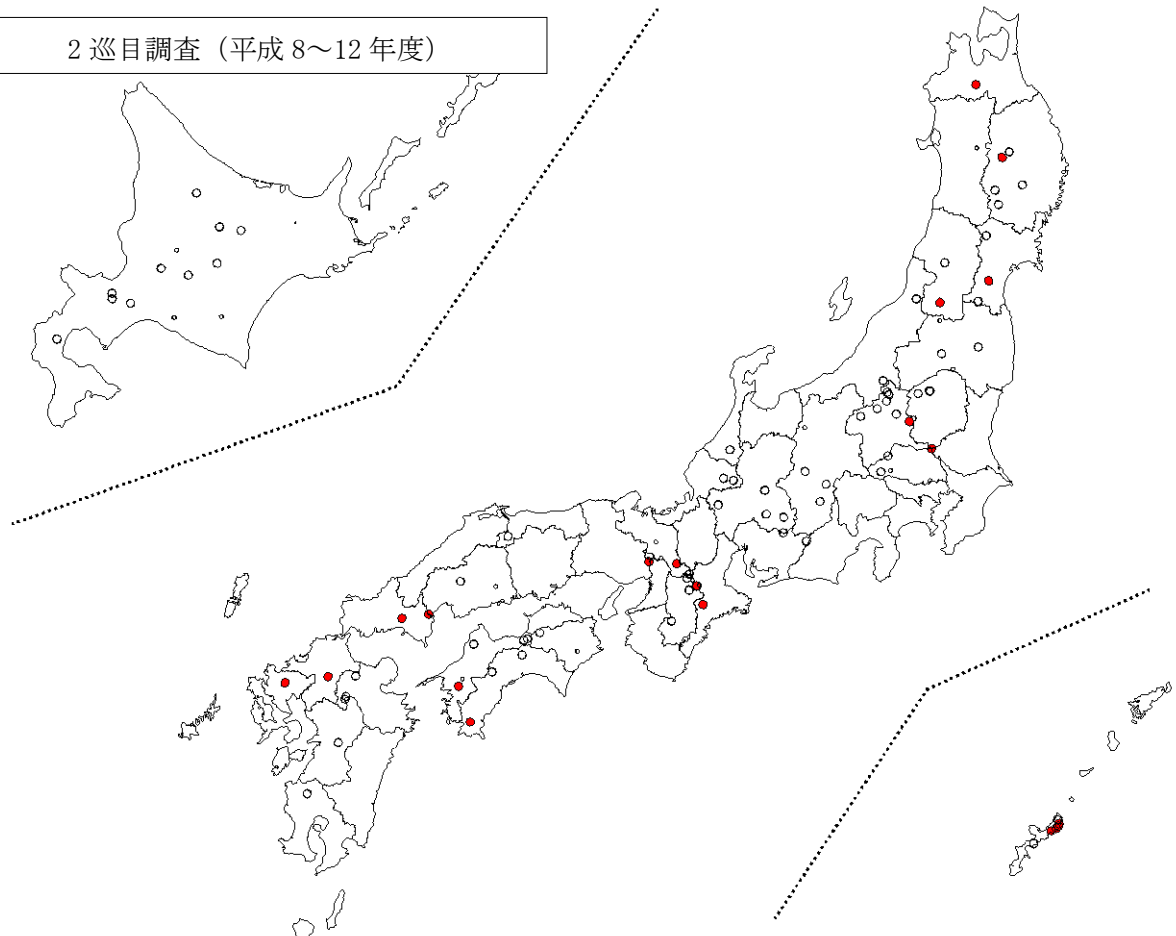


イヌワシの確認状況（5 巡目調査）

1 巡目調査(平成 2～7 年度)

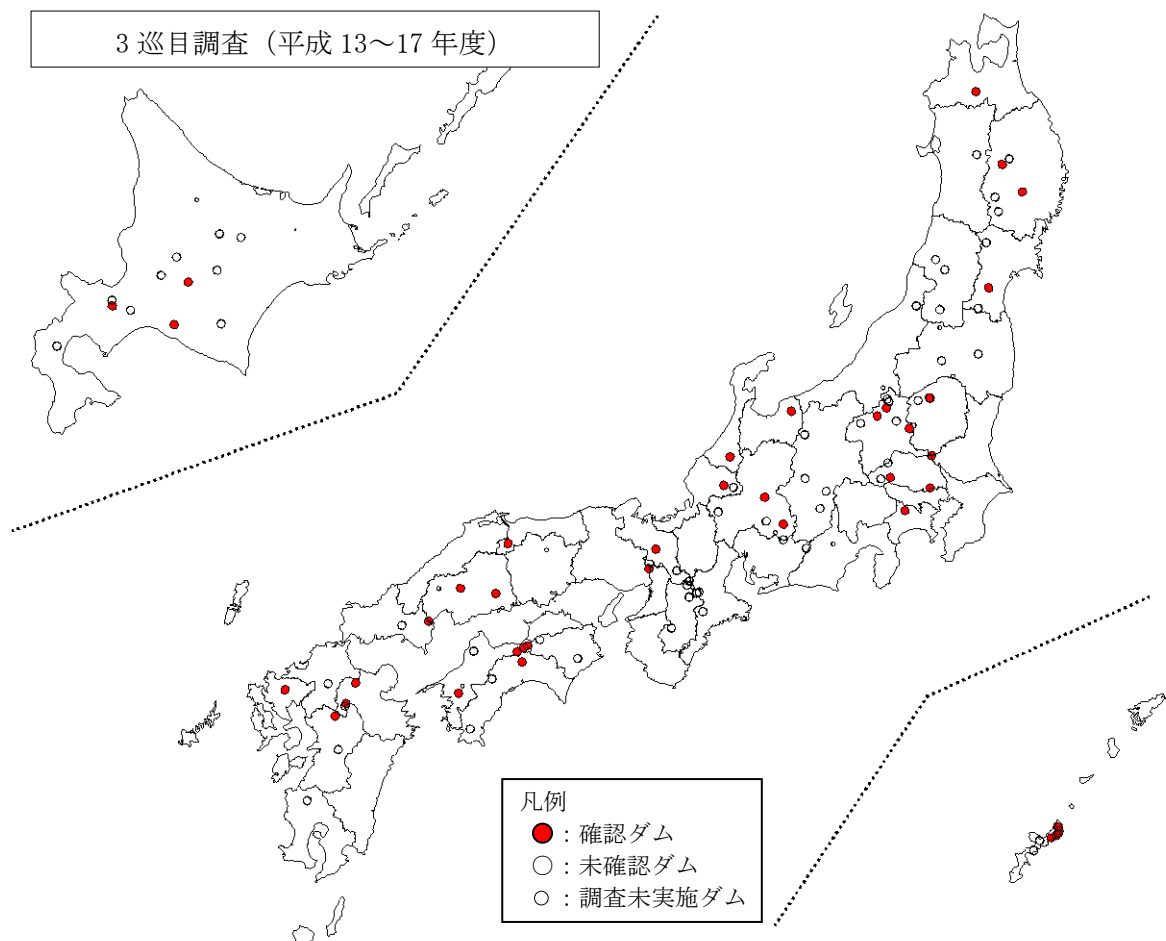


2 巡目調査 (平成 8～12 年度)

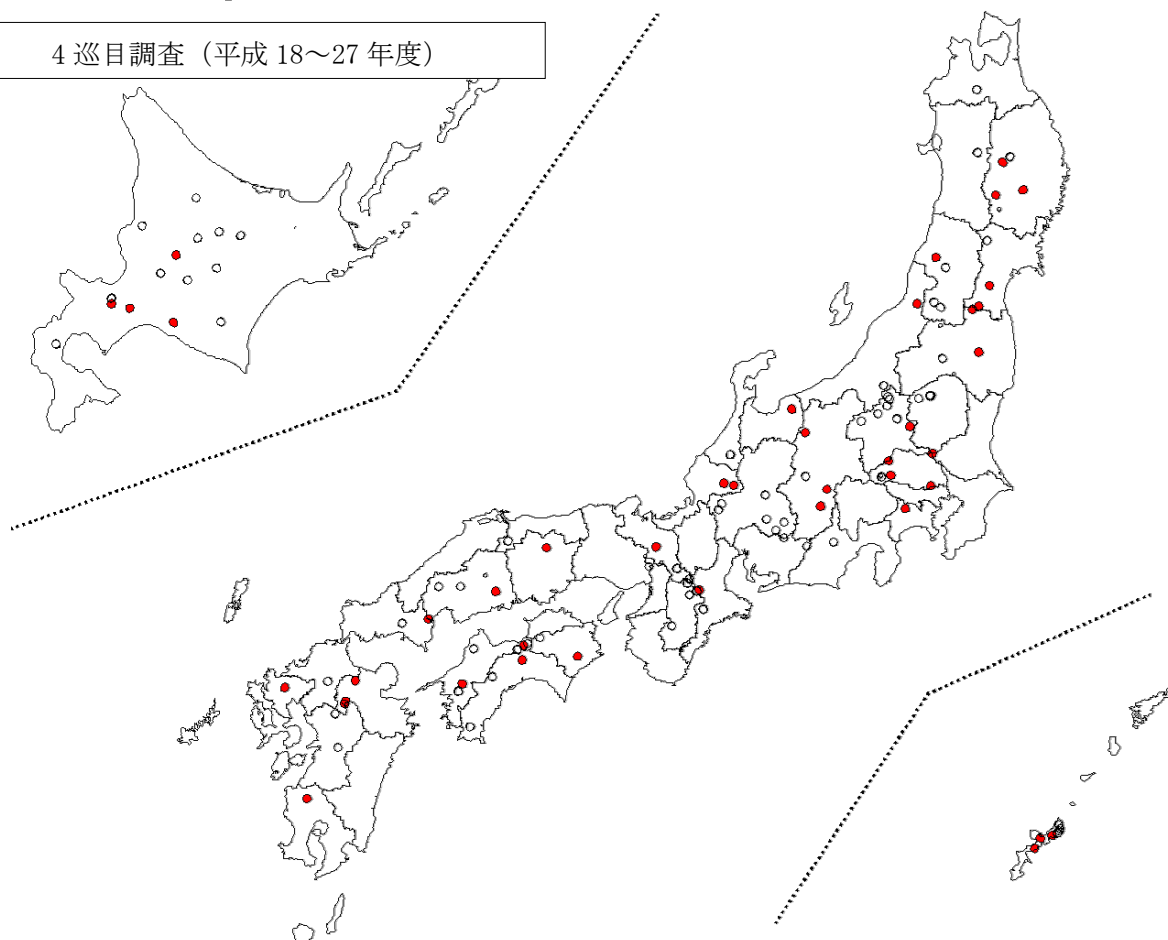


ハヤブサの確認状況 (1 巡目調査、2 巡目調査)

3 巡目調査（平成 13～17 年度）

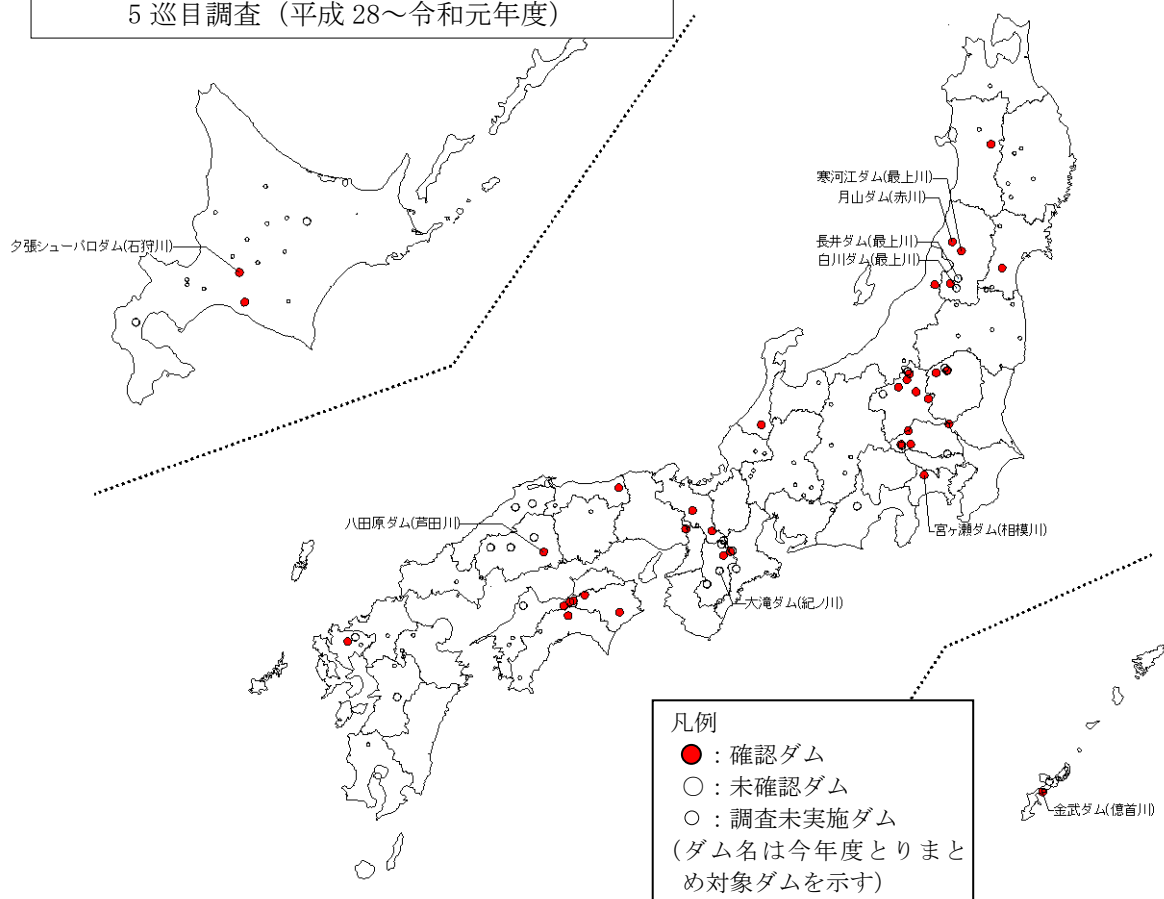


4 巡目調査（平成 18～27 年度）

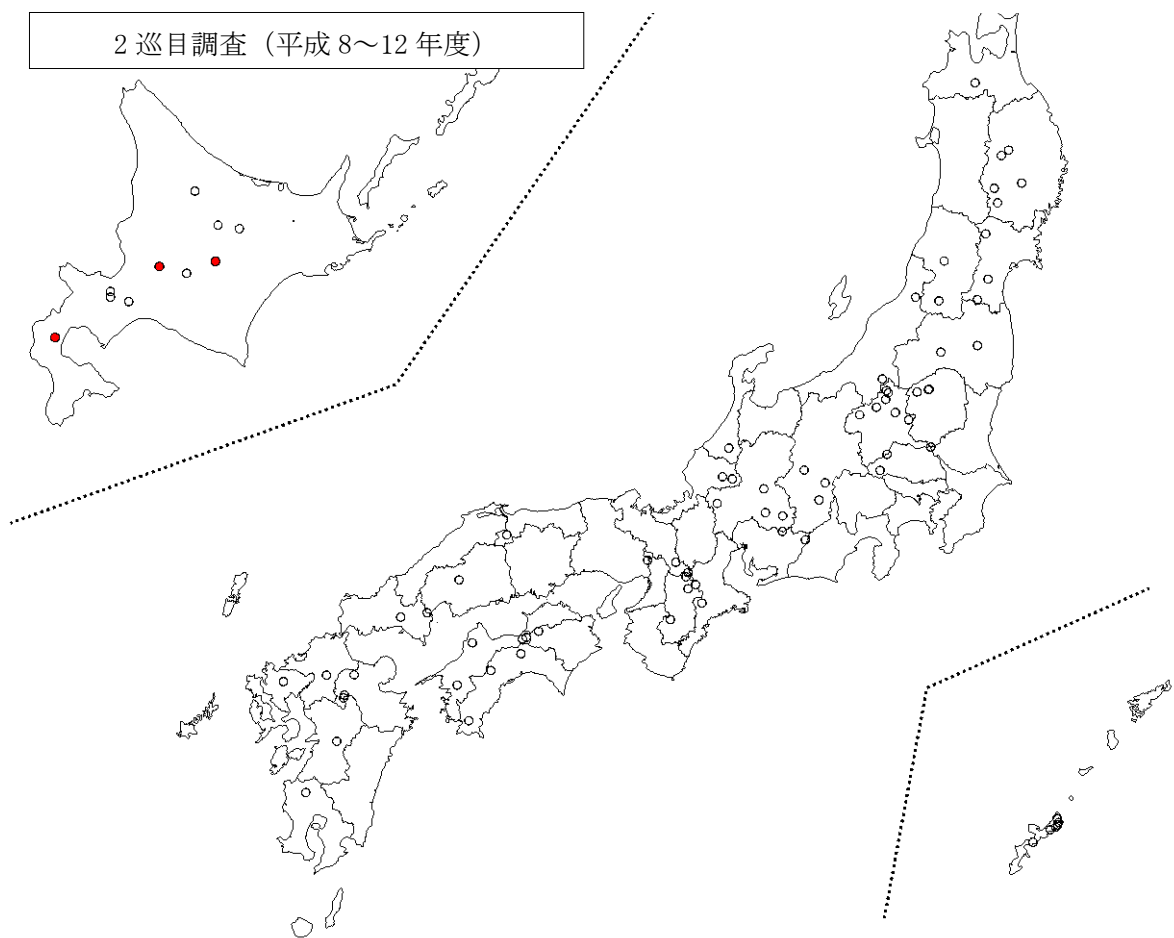
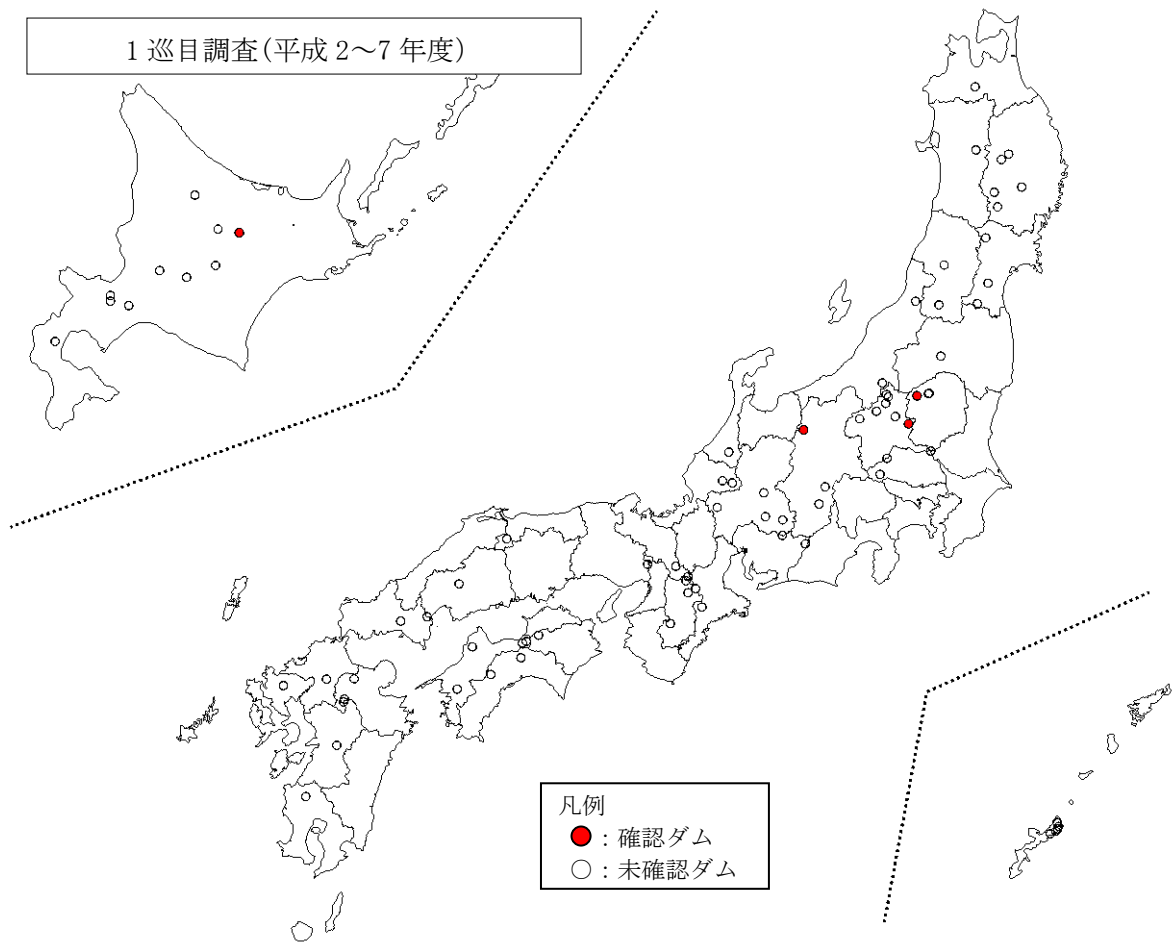


ハヤブサの確認状況（3 巡目調査、4 巡目調査）

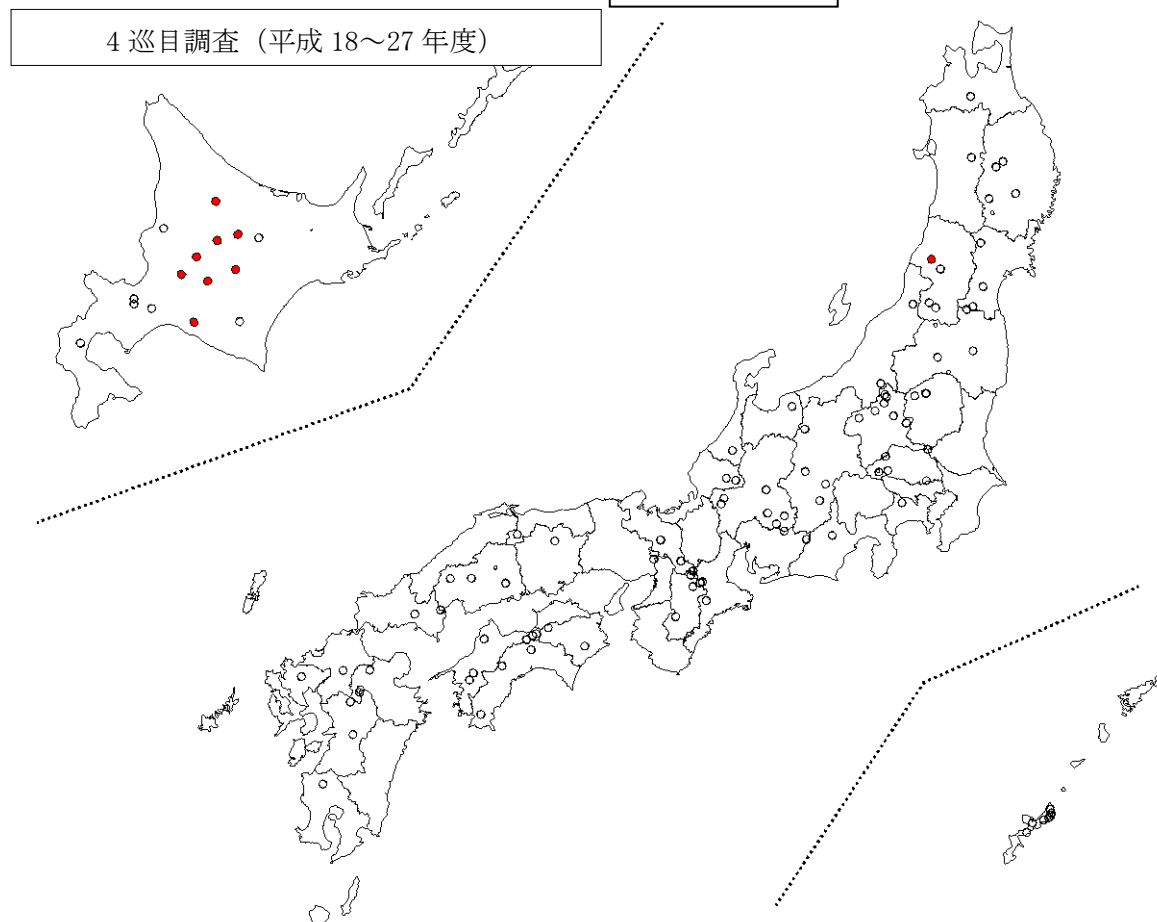
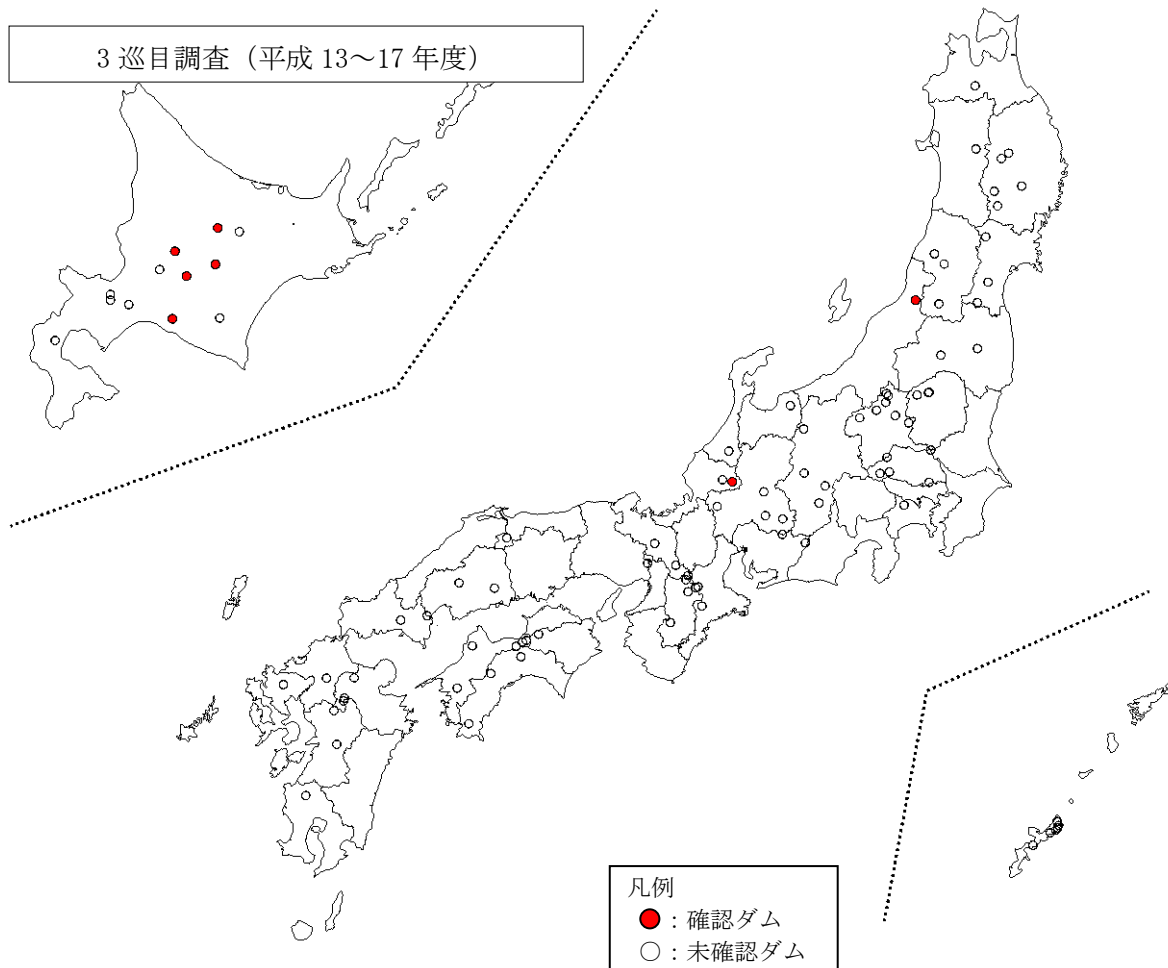
5 巡目調査（平成 28～令和元年度）



ハヤブサの確認状況（5 巡目調査）

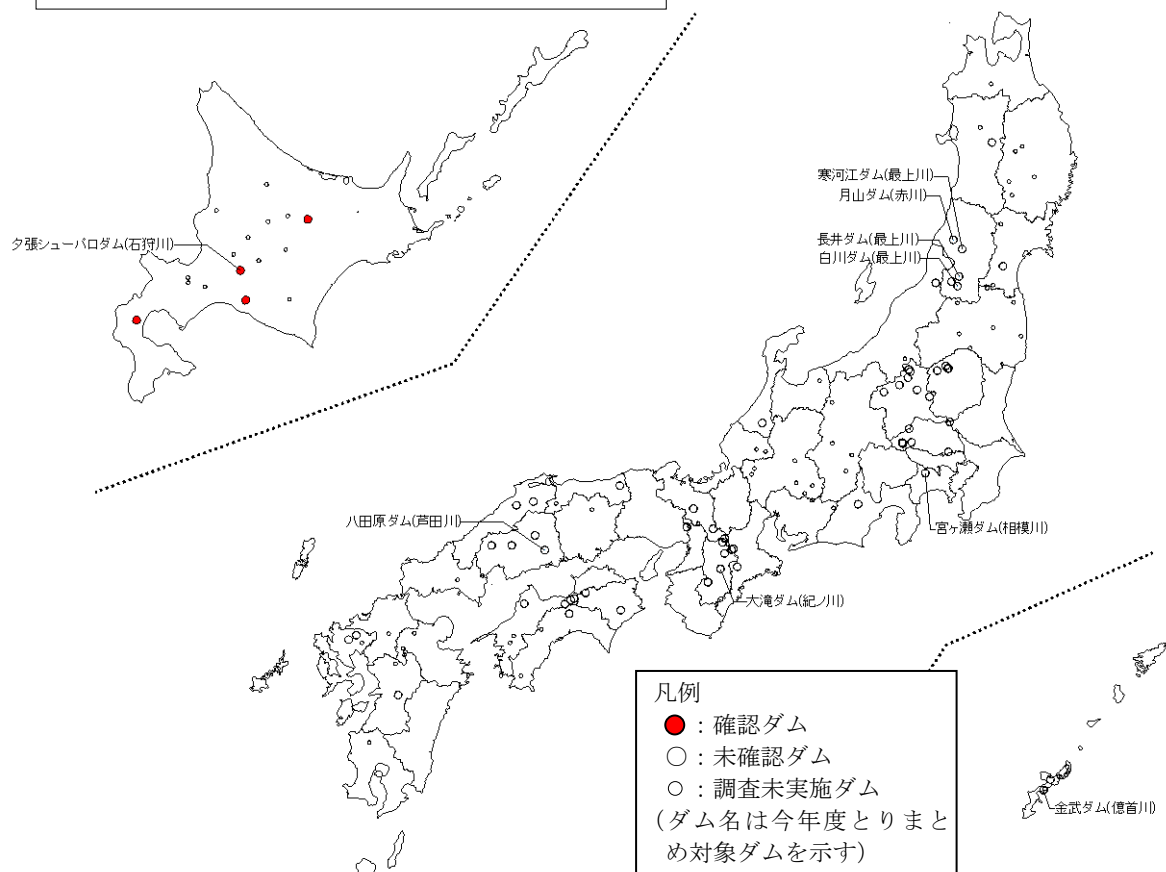


オオワシの確認状況 (1 巡目調査、2 巡目調査)

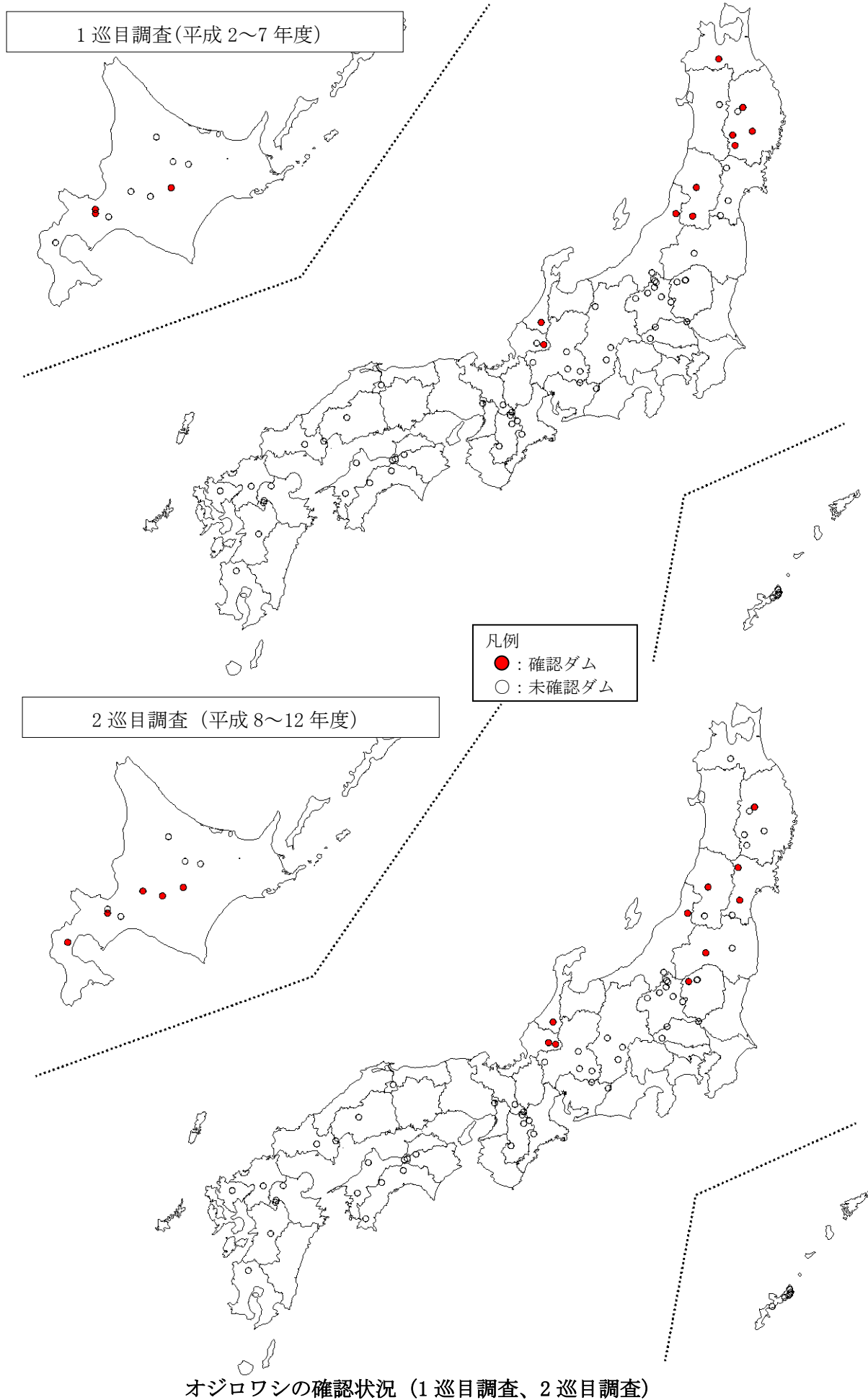


オオワシの確認状況（3 巡目調査、4 巡目調査）

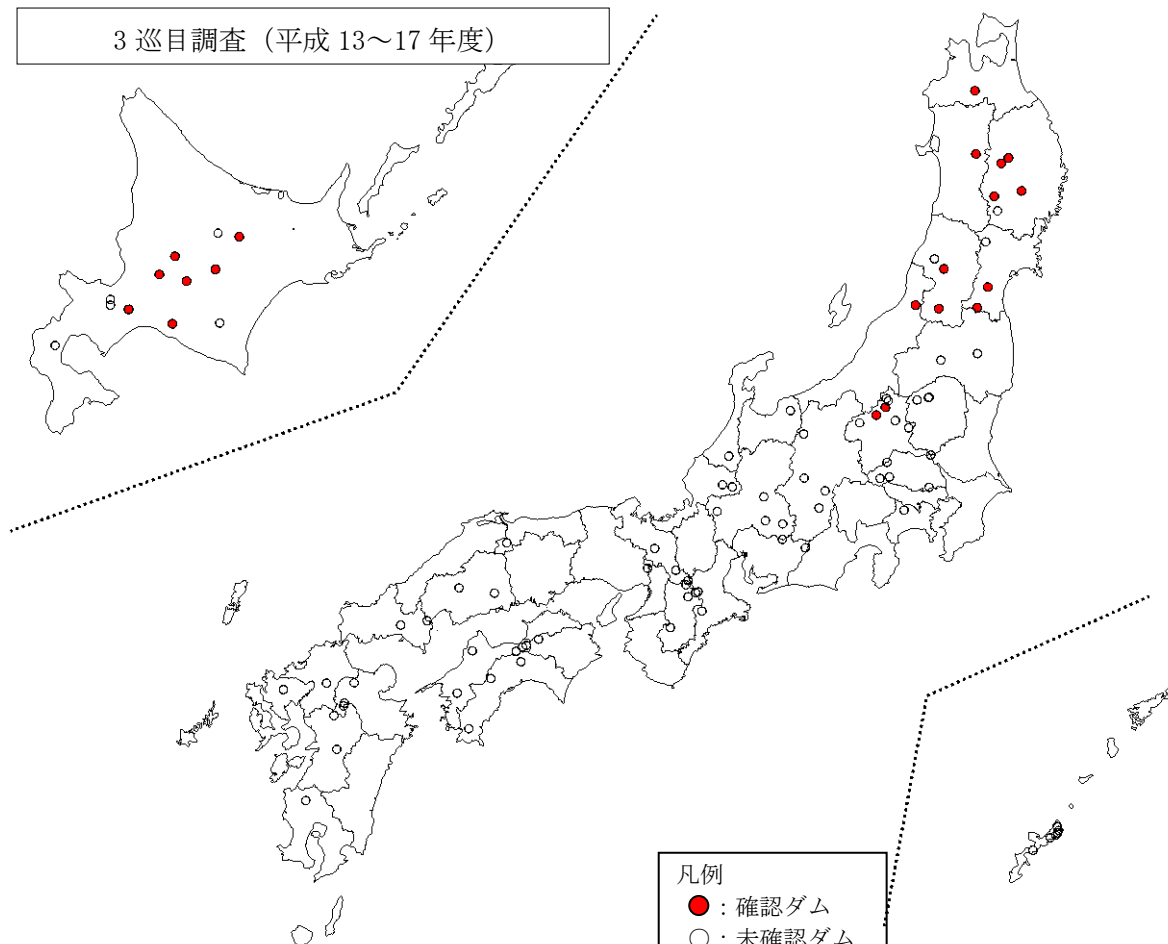
5 巡目調査（平成 28～令和元年度）



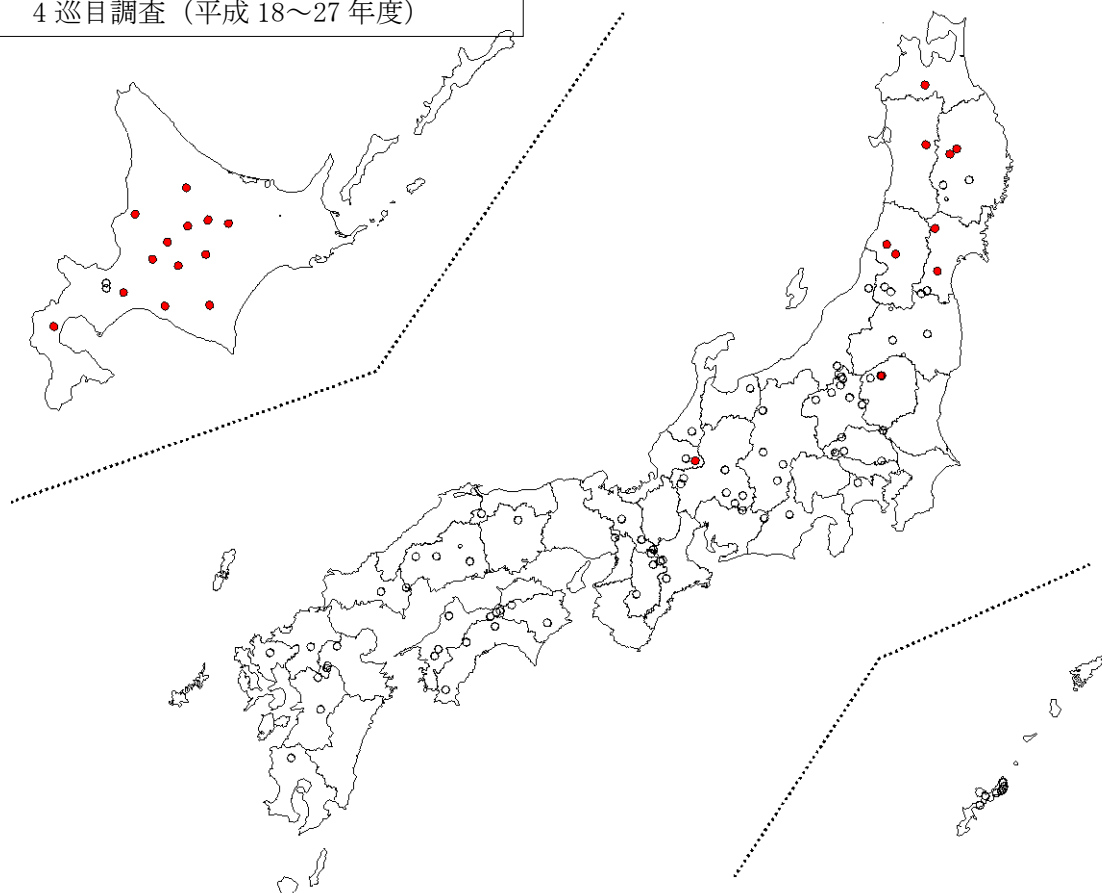
オオワシの確認状況（5 巡目調査）



3 巡目調査（平成 13～17 年度）

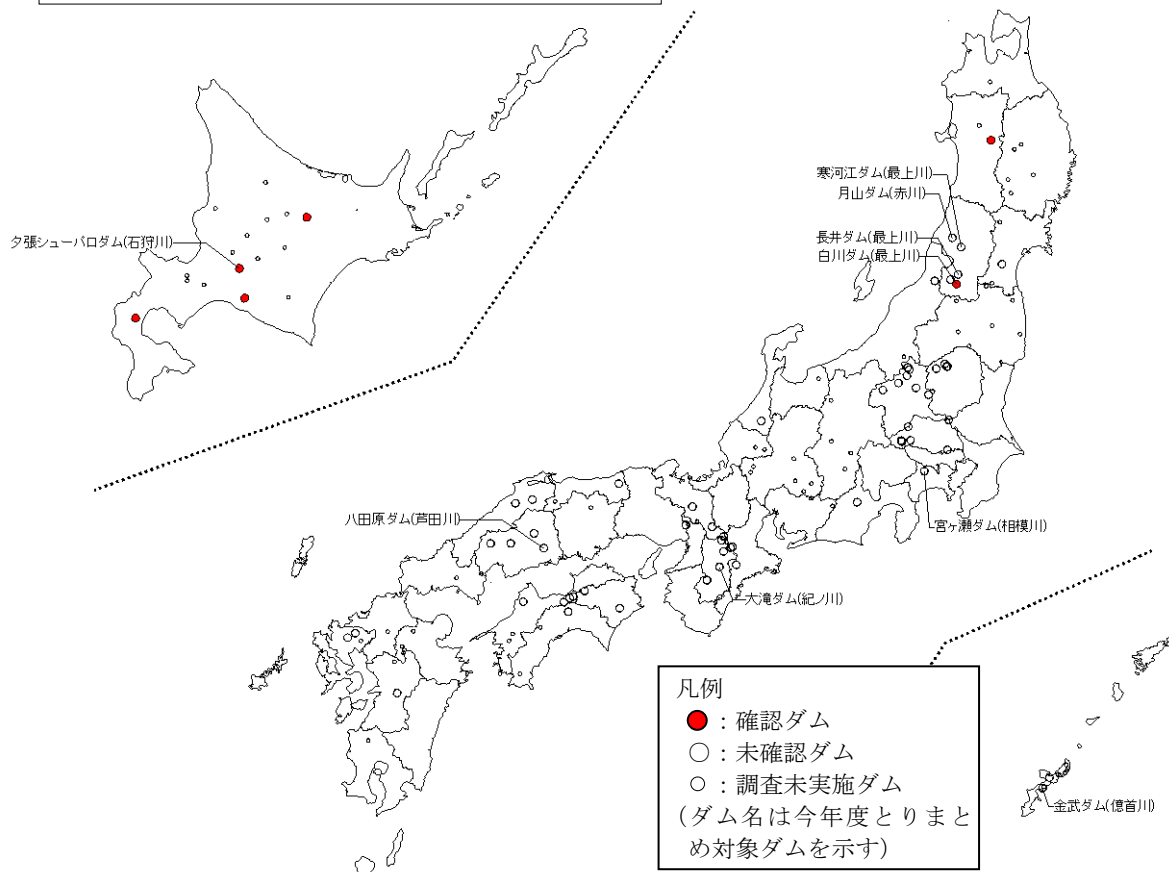


4 巡目調査（平成 18～27 年度）



オジロワシの確認状況（3 巡目調査、4 巡目調査）

5 巡目調査（平成 28～令和元年度）



オジロワシの確認状況（5 巡目調査）

(2) 国外外来種の分布状況（生物多様性への攪乱）

日本の生物多様性の危機の原因の一つとして、「外来種など人為的に持ち込まれたものによる生態系の攪乱」があげられています。鳥類では、アヒル等のように家禽として飼われていたものや、ガビチョウ等のようにペットとして飼われていたものが逃げ出し、野生化して自然界へ広がっている例がみられます。

このような国外外来種が生態的に優勢な場合、在来の生物種を圧迫したり、自然界では起こらない交雑によって、地域で保有されていた固有な遺伝子の喪失をもたらしたりすることで、生態系へ様々な影響を与えることが懸念されています。ここでは、人為的な生態系の攪乱を明らかにするために、国外外来種で、特定外来生物※に指定されているガビチョウ、ヒゲガビチョウ、カオグロガビチョウ、カオジロガビチョウ、ソウシチョウの確認状況について整理しました。

なお、今回とりまとめ対象としたダムのうち、長井ダム、大滝ダム、金武ダムは、河川水辺の国勢調査を初めて実施したダムなので、過年度との比較は行っていません。

・特定外来生物のガビチョウを1ダムで確認

・特定外来生物のソウシチョウを2ダムで確認。

今回とりまとめを行った9ダムでは、ガビチョウは1ダムで確認されました。ソウシチョウは2ダムで確認されました。

国外外来種の確認ダム数の巡目比較

種名	1巡目調査 (81ダム)	2巡目調査 (83ダム)	3巡目調査 (96ダム)	4巡目調査 (111ダム)	5巡目調査 (62ダム)	今回 確認
ガビチョウ	1ダム [1.2%]	5ダム [6.0%]	11ダム [11.5%]	15ダム [13.5%]	17ダム [27.4%]	○
ヒゲガビチョウ	0ダム [0.0%]	0ダム [0.0%]	1ダム [1.0%]	2ダム [1.8%]	4ダム [6.5%]	
カオグロガビチョウ	0ダム [0.0%]	0ダム [0.0%]	1ダム [1.0%]	0ダム [0.0%]	1ダム [1.6%]	
カオジロガビチョウ	0ダム [0.0%]	0ダム [0.0%]	0ダム [0.0%]	0ダム [0.0%]	2ダム [3.3%]	
ソウシチョウ	1ダム [1.2%]	8ダム [9.6%]	10ダム [10.4%]	16ダム [14.4%]	24ダム [38.7%]	○

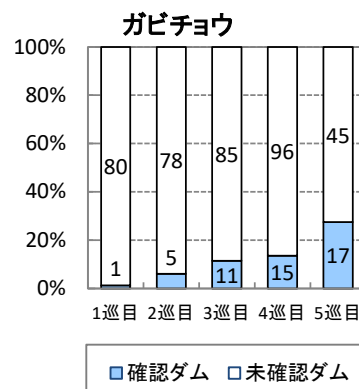
※（ ）内は各巡目において調査を実施しているダムの数を示す。巡目の途中から調査を行っていたり、途中の年度を調査していないダムがあるため、巡目毎の調査ダム数は同じではない。

※〔 〕内は確認ダム数の対象ダム数に対する％を示す。

今回とりまとめ対象とした9ダムでは、特定外来生物に指定されているガビチョウとソウシチョウが確認されました。

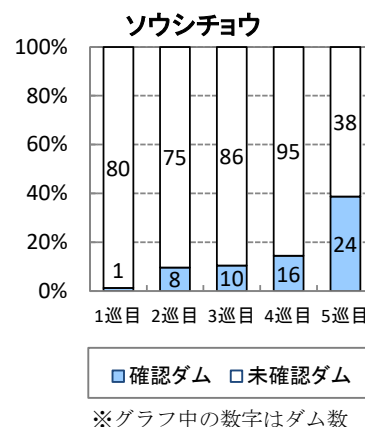
ガビチョウは、今回とりまとめ対象とした9ダムのうち関東の宮ヶ瀬ダムで確認されました。宮ヶ瀬ダムでは3巡目から連続して確認されています。これまでの調査結果では、関東地方、九州地方を中心に確認されており、特に関東では過去と比較して、大幅に分布が拡大していることがわかります。

ガビチョウは東アジア・東南アジア原産で、国内では江戸時代頃から輸入の記録があります。飼い鳥が逃げ出したものが、1980年代から福島県、長野県、関東地方、九州地方等で野生化し、主に丘陵地、平野部の樹林等を生息場所としています。



ソウシチョウは、関東の宮ヶ瀬ダム、近畿の大滝ダムで確認されました。宮ヶ瀬ダムでは4巡目から連続して確認されています。これまでの調査結果では、関東以西のダムで主に確認されており、特に四国地方では、近年、急激に分布を広げているようです。

ソウシチョウは本来、中国南部からヒマラヤにかけて分布する鳥であり、主に山地の樹林等で生息しています。日本ではガビチョウと同じく江戸時代から飼育されていましたが、飼い鳥が逃げ出したものが、1980年頃から茨城県、兵庫県、九州地方などを中心に急速に分布を広げています。

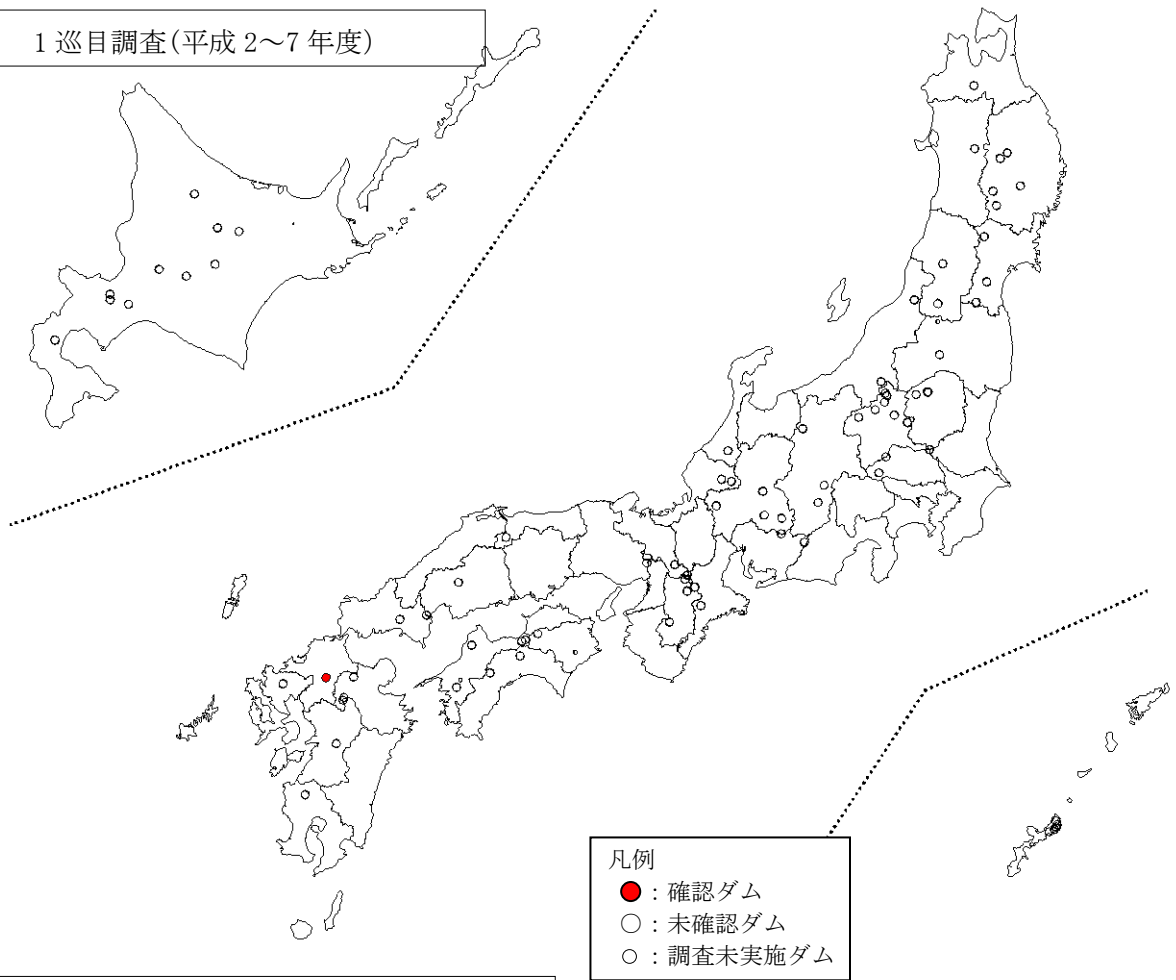


ソウシチョウ（大滝ダム）

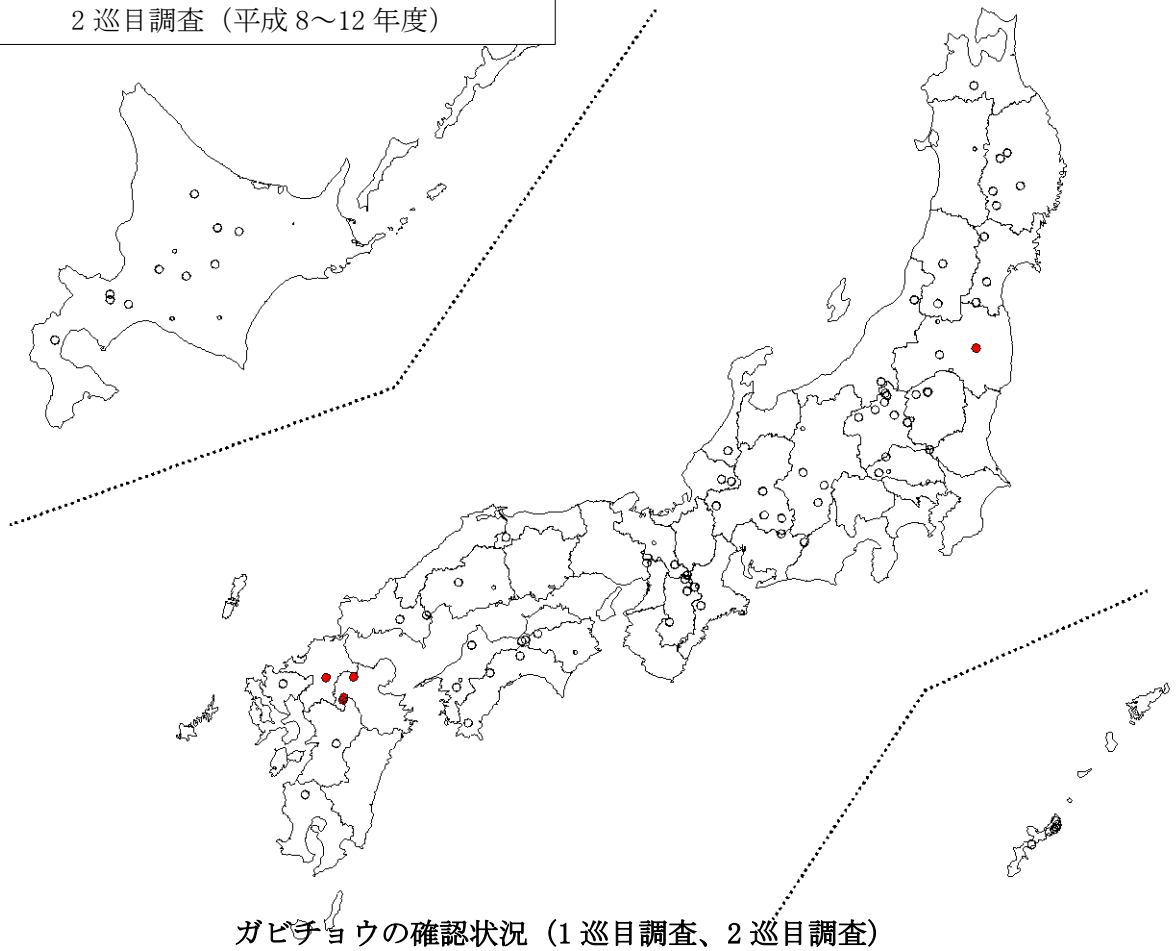
※特定外来生物とは、『特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（最終改正及び施行2017年3月）』により、輸入や飼養等が規制される生物(生きているものに限られ、個体だけではなく、卵、種子、器官等も含まれる)です。おおむね明治以降に国外から導入された国外外来種のうち、生態系、人の生命・身体及び農林水産業へ被害を及ぼすもの、または及ぼすおそれがある生物が指定（指定された外来生物と在来種が交雑した生物も含む）されています。

参考文献：1) 日本生態学会編（2002）外来種ハンドブック，地人書館
2) (独) 国立環境研究所，侵入生物データベース 等

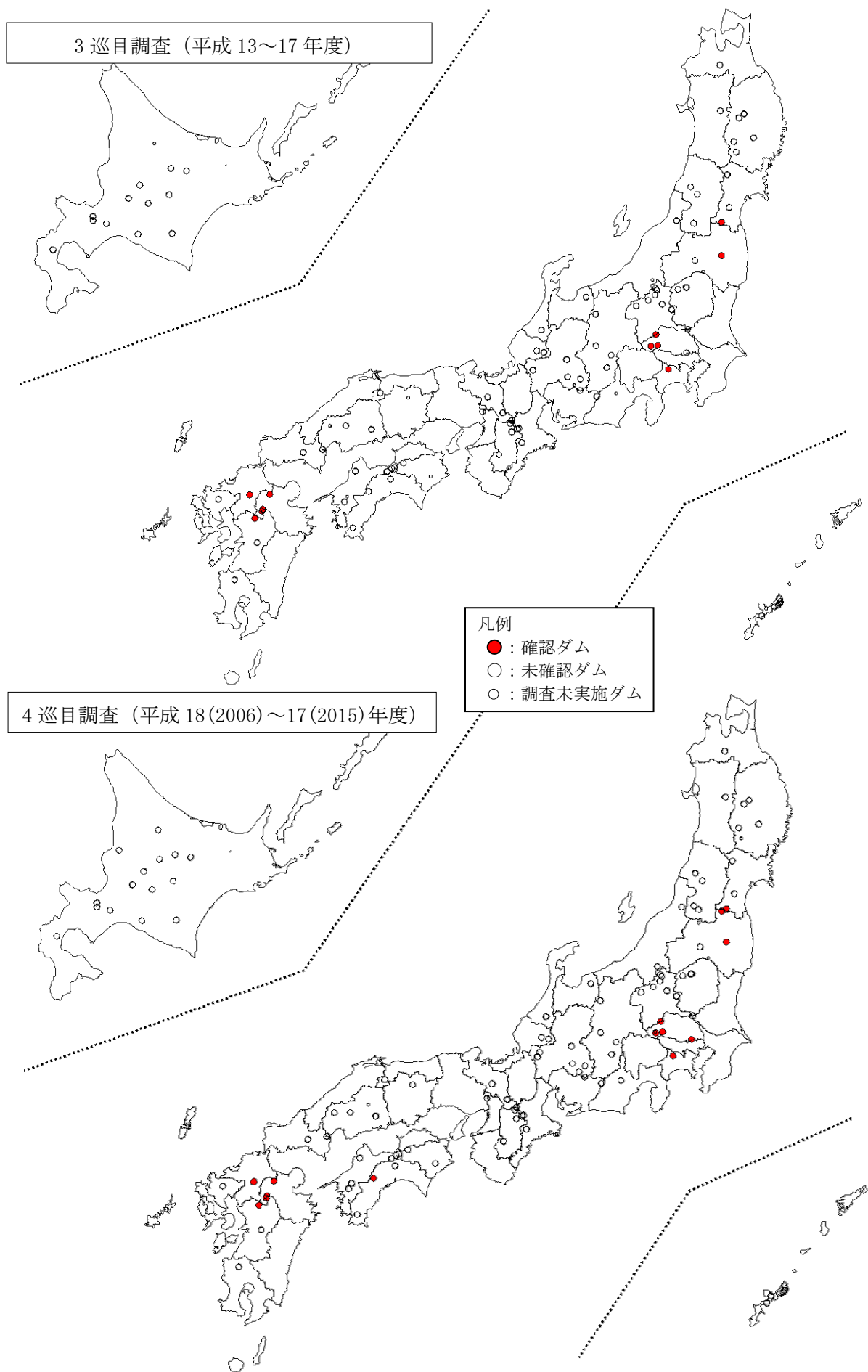
1 巡目調査(平成 2～7 年度)



2 巡目調査 (平成 8～12 年度)

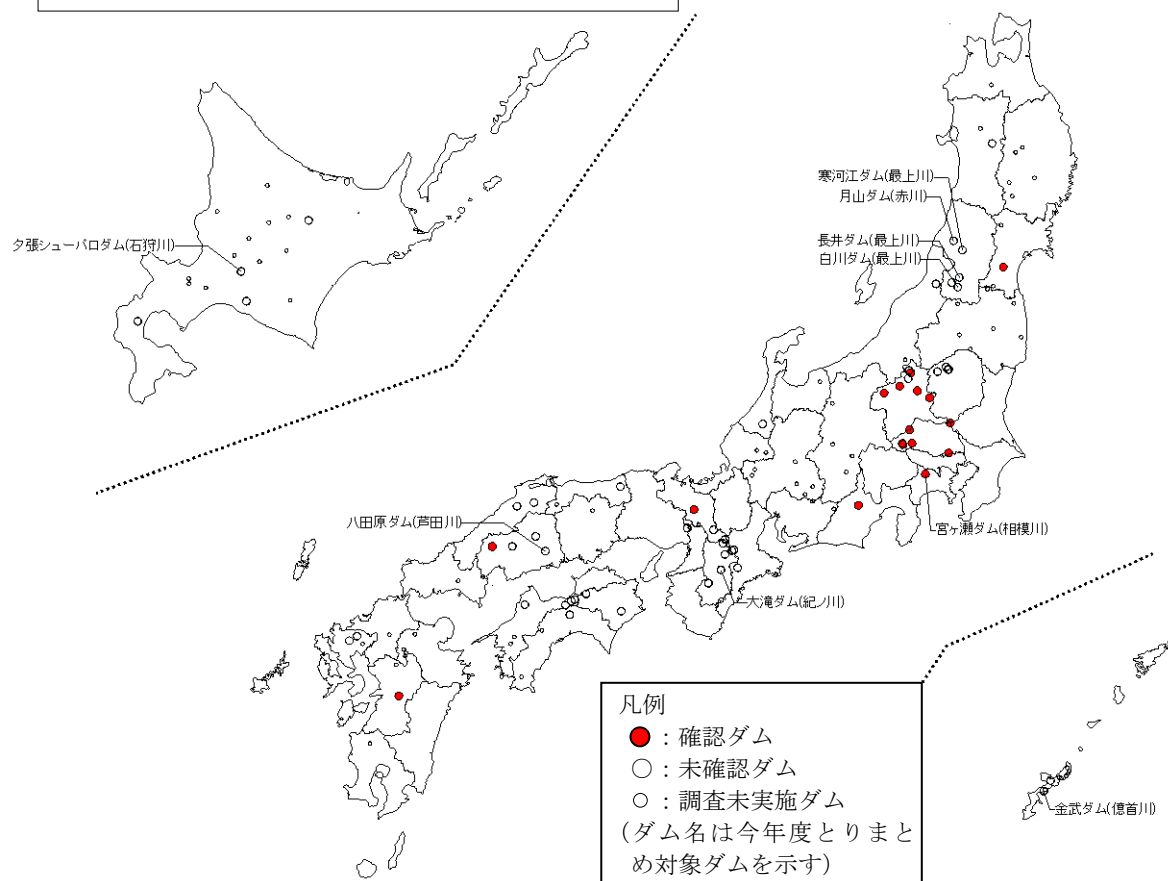


ガビチョウの確認状況 (1 巡目調査、2 巡目調査)

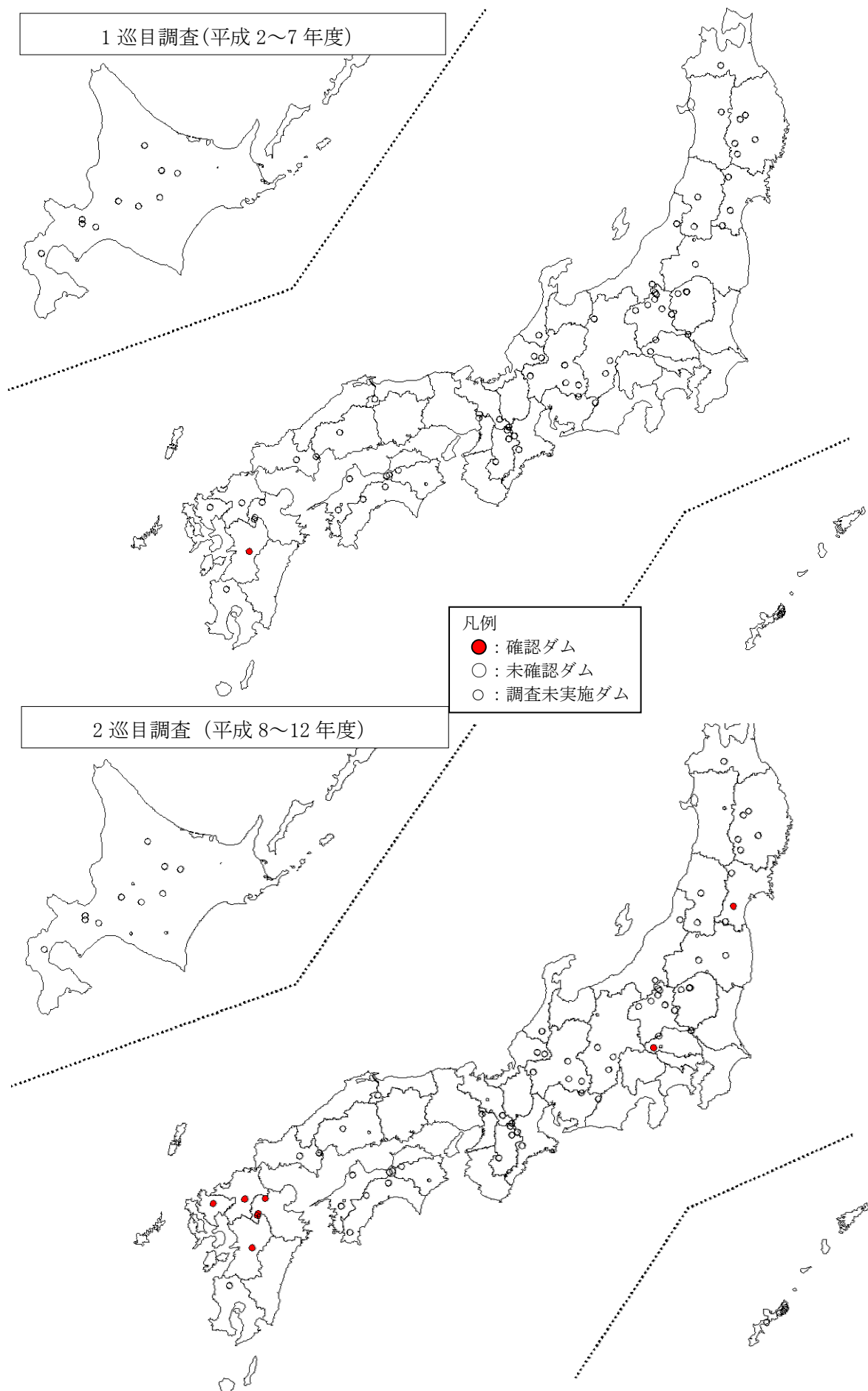


ガビチョウの確認状況（3 巡目調査、4 巡目調査）

5 巡目調査（平成 28～令和元年度）

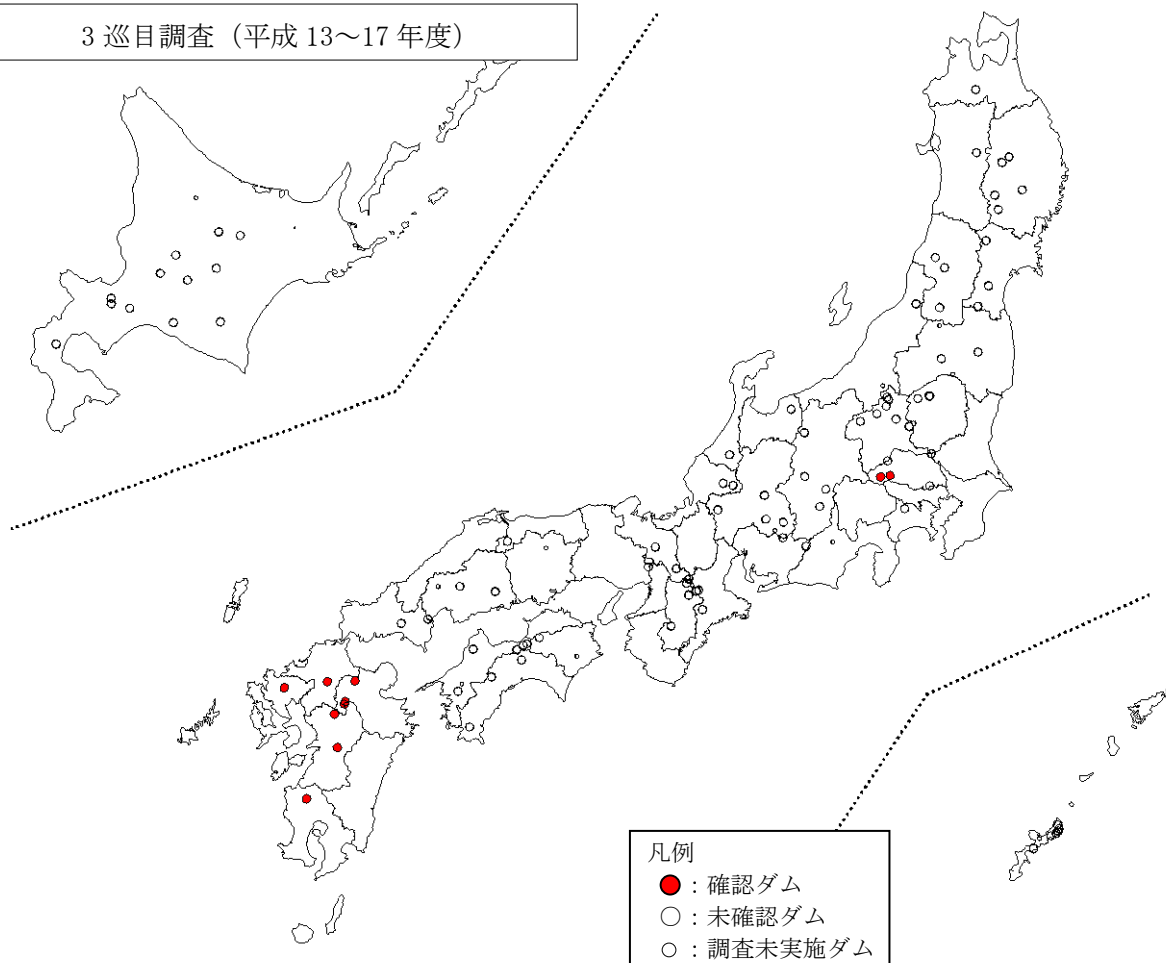


ガビチョウの確認状況（5 巡目調査）

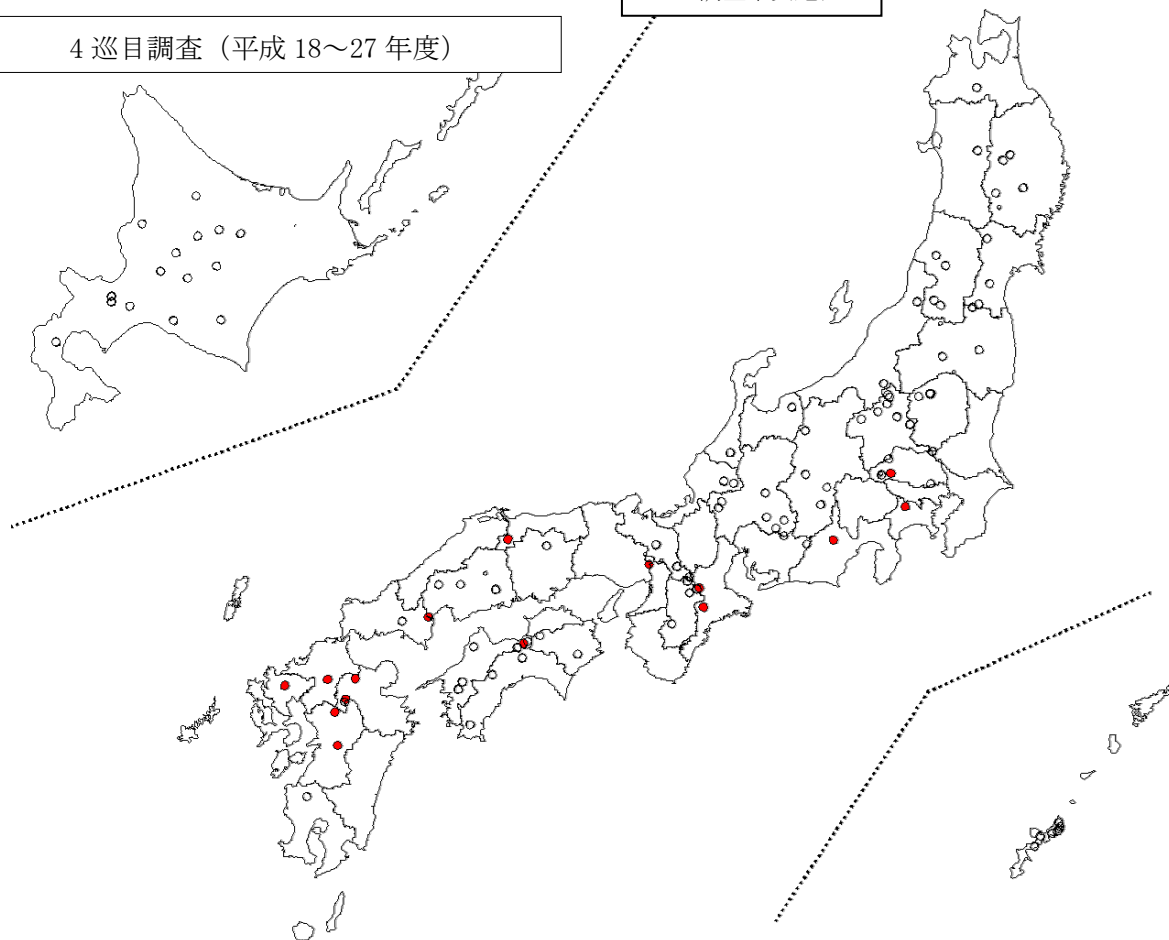


ソウシチョウの確認状況 (1 巡目調査、2 巡目調査)

3 巡目調査（平成 13～17 年度）

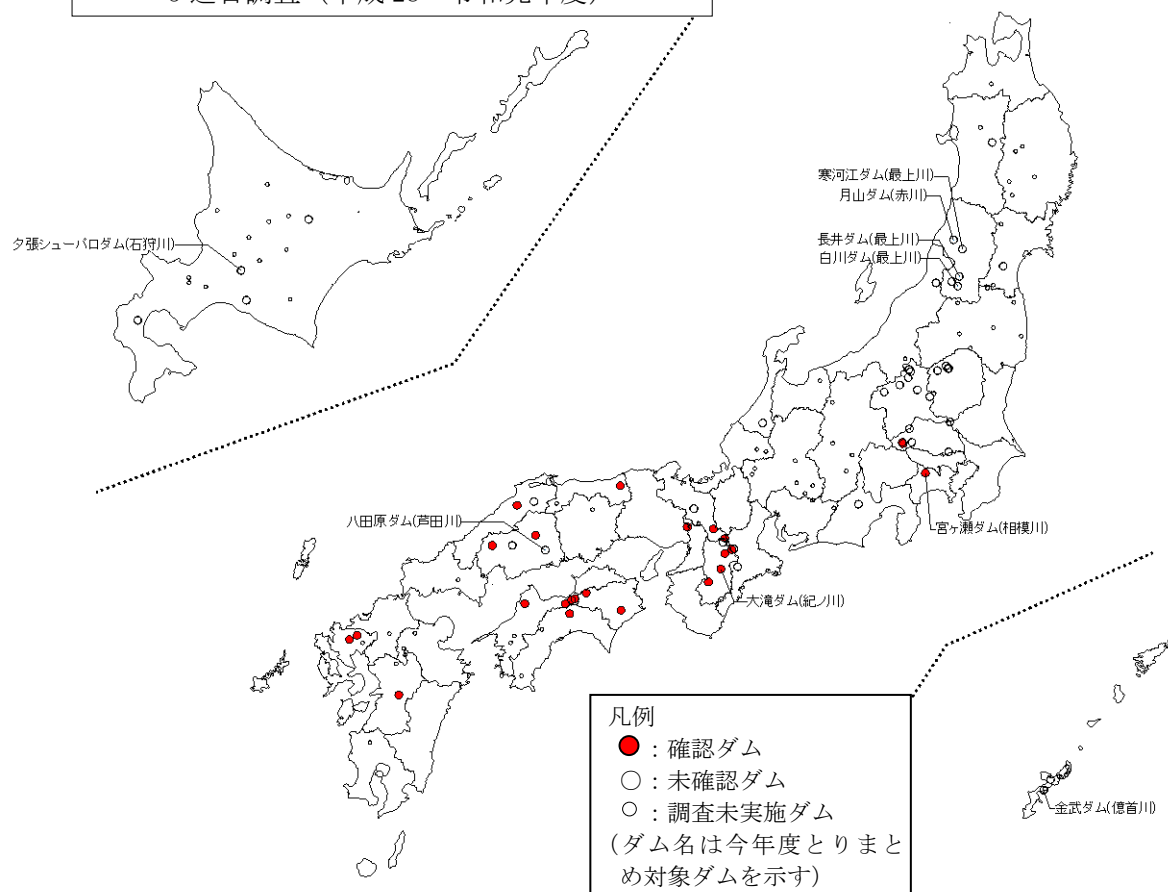


4 巡目調査（平成 18～27 年度）



ソウシチョウの確認状況（3 巡目調査、4 巡目調査）

5 巡目調査（平成 28～令和元年度）



ソウシチョウの確認状況（5 巡目調査）

5.3 注目すべき種の分布状況

(1) ダム湖を休息場・採餌場として利用する鳥類の把握

・越冬期にダム湖の調査を行った 8 ダム全てにおいて、湖面で水面採餌型のカモ類及び潜水採餌型のカイツブリ類等を確認、ダム湖が休息場として利用されていることを確認

越冬期にダム湖の調査を行ったダムのうち 8 ダムでカモ類及びカイツブリ類を確認し、ダム湖が休息場及び採餌場として利用されていることを確認しました。採食型別にみると、水面採食を行う種が大部分を占めていました。これらの種はダム湖面を越冬場所、あるいは渡りの休憩場所として利用していると考えられます。

水辺に生息する鳥類のうち、カモ類の多くは越冬期に日本各地に渡来し、湖や海を休息場・採餌場等として利用します。そのため、山間部に出現したダム湖はこれらカモ類にとって新たな越冬場所となっていることが考えられます。また、魚食性の鳥類であるカイツブリ類などは、ダム湖を採餌場所として利用していると考えられます。そこで、越冬期にダム湖面及び水位変動域周辺で確認されたカモ類及びカイツブリ類の個体数を採餌型別に整理しました。（下流河川等ダム貯水池以外で確認された鳥類及び集団分布地調査で確認された鳥類は対象外としました。）

北海道の夕張シューパロダムは、冬季に貯水池が凍結するため調査を行っていませんが、越冬期のダム湖の調査を実施した 8 ダムで、ダム湖で休息するカモ類及びカイツブリ類が確認されました。

採食型別にみると、白川ダム、月山ダム、大滝ダムでは、いずれのダムも水面採食型の種が大部分を占めており、マガモ、カルガモ、コガモ、オナガガモが多く確認されました。宮ヶ瀬ダムは、オシドリが最も多く確認されました。潜水採餌型の種では、月山ダムではホシハジロとホオジロガモが確認されました。これらの種は、越冬期のダム湖面を越冬場所や渡りの休憩場所として利用していることが考えられます。

また、主に魚食性のカワアイサについては、白川ダムと寒河江ダムで確認され、カイツブリ類については、全てのダムで確認されています。

なお、3 巡目、4 巡目調査と比較すると、個体数が大きく変化しているダムがありますが、これは周辺環境の変化や、調査日、調査時刻による違いが影響していると考えられます。



オシドリ（宮ヶ瀬ダム）

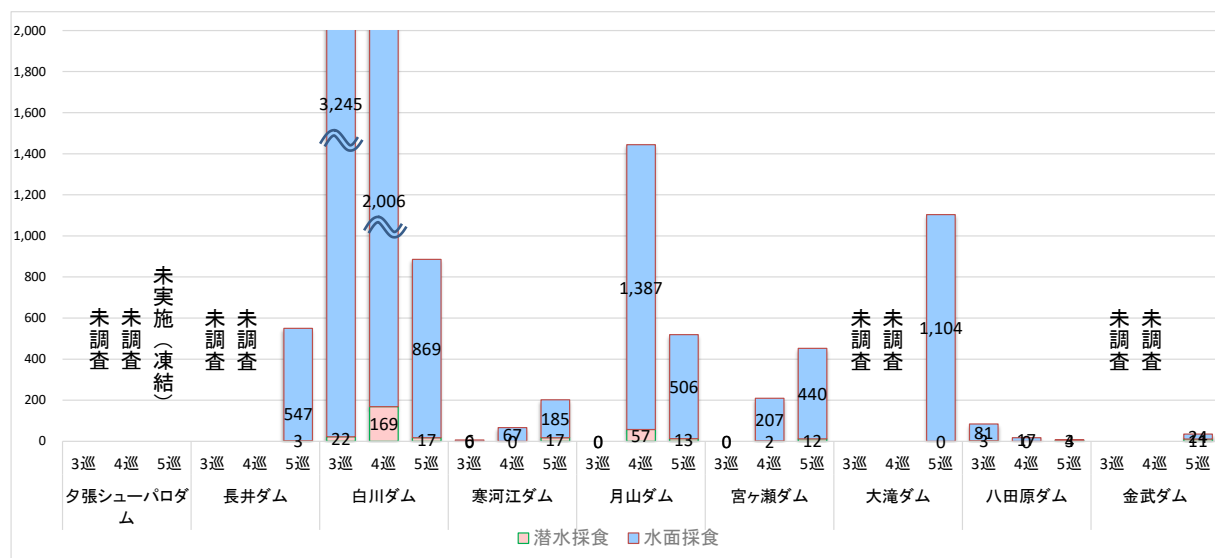


カンムリカイツブリ（宮ヶ瀬ダム）

越冬期におけるダム湖での採食型別のカモ類の確認状況

採食型	種和名	北海道			東北															関東			近畿			中国			沖縄		
		ロタ張シューバ			長井ダム			白川ダム			寒河江ダム			月山ダム			宮ヶ瀬ダム			大滝ダム			八田原ダム			金武ダム					
		3巡	4巡	5巡	3巡	4巡	5巡	3巡	4巡	5巡	3巡	4巡	5巡	3巡	4巡	5巡	3巡	4巡	5巡	3巡	4巡	5巡	3巡	4巡	5巡	3巡	4巡	5巡			
水面採餌	マガン																														
	ヒシクイ																														
	オシドリ						17	5	3							9		86	334				1,061								
	マガモ						17	2,312	488	136			5	113		612	155		58	84			22	71	11	3			6		
	カルガモ						157	120	105	130	6	51	2			27	37		60	11			3	9	6				13		
	コガモ						308	562	1,333	103		11	70			743	293		3	11			3						4		
	トモエガモ								1														15								
	ヨシガモ																														
	オカヨシガモ															4									1						
	ヒドリガモ	未調査	未調査																												
潜水採餌	オナガガモ						48	246	76	500						5	8													1	
	ハシビロガモ																														
	ホシハジロ								2	17				10		27	8														
	キンクロハジロ									72						26															
	スズガモ								13							1													1		
	ホオジロガモ									1							4														
	ミコアイサ								1	12																					
	カワアイサ						3	4	60	16			5																		
	カイツブリ								2	7				1		2	1		1	2				3		4			10		
	カンムリカイツブリ												1						8												
ハジロカイツブリ									1						1			1	2												
ミミカイツブリ																															
アカエリカイツブリ																															
延べ確認 個体数	水面採食						547	3,245	2,006	869	6	67	185	0	1,387	506	0	207	440				1,104	81	17	3				24	
	潜水採食						3	22	169	17	0	0	17	0	57	13	0	2	12				0	3	0	4				11	
合計							550	3,267	2,175	886	6	67	202	0	1,444	519	0	209	452				1,104	84	17	7				35	

注 1) 「確認なし」：ダム湖面の確認記録がないため分析対象種の確認なし。「未調査」：ダム供用前で調査が実施されていない、又は湖面凍結等により冬季のダム湖面調査が実施されていない。



越冬期におけるダム湖での採食型別のカモ類の確認状況 (3巡目～5巡目比較)

注 1) 個体数は越冬期調査時にダム湖面で確認されたカモ類の個体数の合計である。集団分布地での個体数は含んでいない。

(2) ダム湖を利用する猛禽類の確認状況

・ダム湖を利用する猛禽類であるミサゴを9ダム中7ダムで確認

ミサゴは魚食性の猛禽類で、海岸や川、湖などで魚類を捕らえ、ダム湖も狩り場として利用します。今回とりまとめを行った9ダム中7ダムで確認されました。

指標となる猛禽類のミサゴの確認河川・ダム数の巡目比較（1～5巡目調査）

種類	1巡目調査 (81 河川) (81 ダム)	2巡目調査 (118 河川) (83 ダム)	3巡目調査 (122 河川) (96 ダム)	4巡目調査 (123 河川) (111 ダム)	5巡目調査 (53 河川) (62 ダム)
ミサゴ	54 河川 [66.7%]	94 河川 [79.7%]	113 河川 [92.6%]	115 河川 [93.5%]	46 河川 [86.8%]
	31 ダム [38.3%]	52 ダム [62.7%]	66 ダム [68.8%]	84 ダム [75.7%]	42 ダム [67.7%]

※（ ）内は調査実施河川数、ダム湖数を示す。

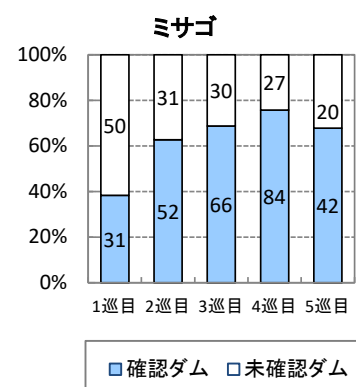
※〔 〕内は確認河川数、ダム湖数の調査実施河川数、ダム湖数に対する%を示す。

ミサゴは、環境省レッドリストで準絶滅危惧に指定されています。行動圏は広く、海や河川、湖等で中・小型魚を捕食し、人の近づけない海近くの岩棚や崖、水辺に近い大きな木で営巣します。狩場と休息場、営巣地等が近接するダム湖は、ミサゴにとって適した生息場所となる場合があります。近年、ミサゴは内陸での営巣の事例が報告されています。これは、内陸部にダム等による開水面の餌場ができたこと等が影響している可能性が考えられます。

ここでは、ダム湖を利用する猛禽類としてミサゴの確認数がどのように変化したのかを、河川・ダムを含め水系として1～5巡目で整理しました。ダムでは、令和元年度調査を実施した9ダムのうち7ダムで確認されました。

1～4巡目のミサゴが確認されたダム数の割合で比較すると、ミサゴが確認されるダム数の割合が増加する傾向がみられました。さらに、確認された地点をみると、1巡目では河口部付近の調査地区でのみ確認されている河川が多いですが、2巡目以降から特に内陸の河川調査地区でも多く確認されるようになり、河口から内陸方向へ分布が拡大している傾向がみられました。これは、ミサゴのダム湖周辺を含む内陸部での営巣が増えたこと、またその営巣場所から採餌場所へ飛ぶルートとして河川を利用していること等が理由と考えられます。

今回とりまとめを行った9ダムのうち、近畿の大滝ダムでミサゴの繁殖行動（餌運び等）が確認されました。なお、北海道の夕張スーパーダム、関東の宮ヶ瀬ダムでは繁殖行動は確認されていませんが、湖岸に営巣地が確認されており、周辺でつがいの生息が確認されています。ダム湖がミサゴの生息場として適切であり続けるかどうか、今後も継続して確認していく必要があります。



※グラフ中の数字はダム数



ミサゴ 営巣地 (夕張シューパロダム)
(ダム湖内 枯死木上)



ミサゴ (夕張シューパロダム)

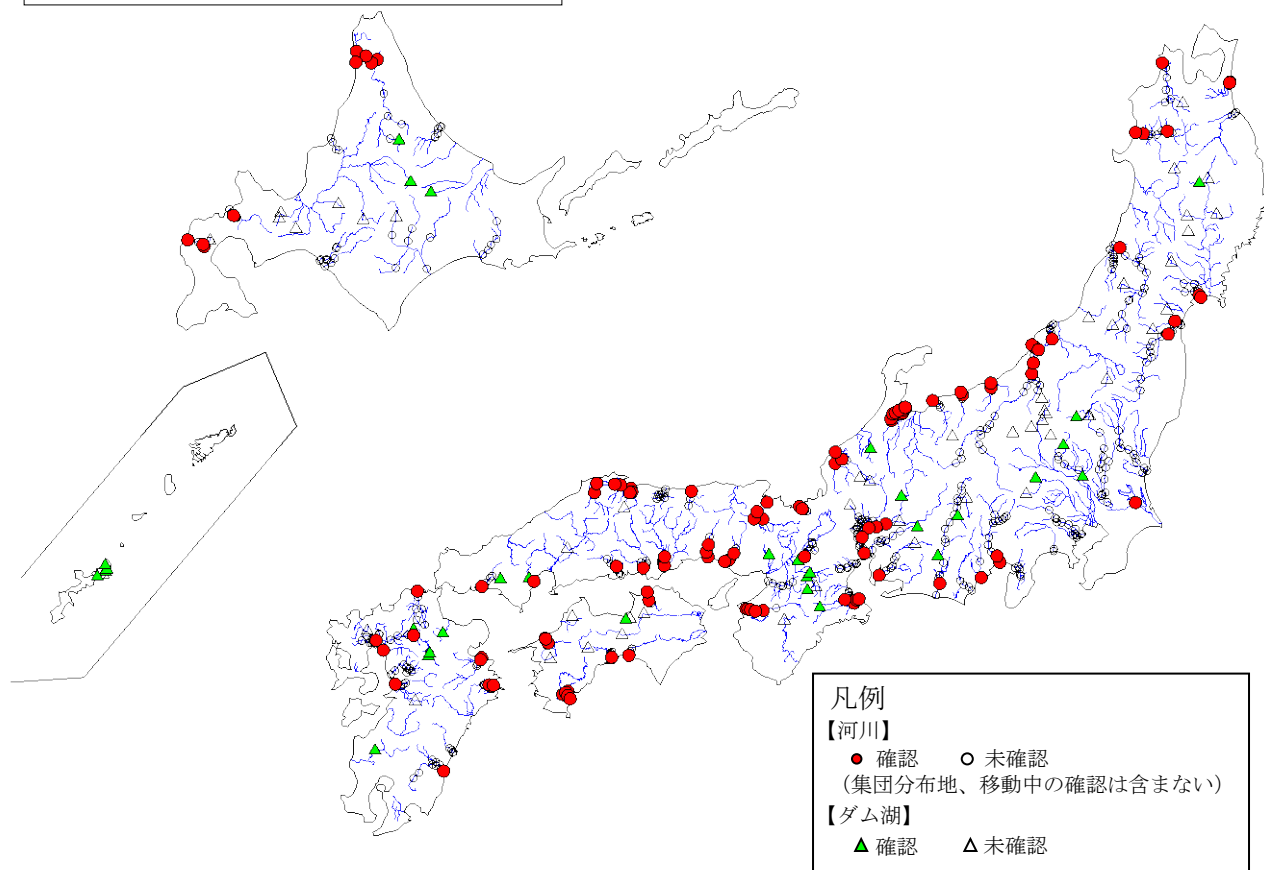


ミサゴ (金武ダム)

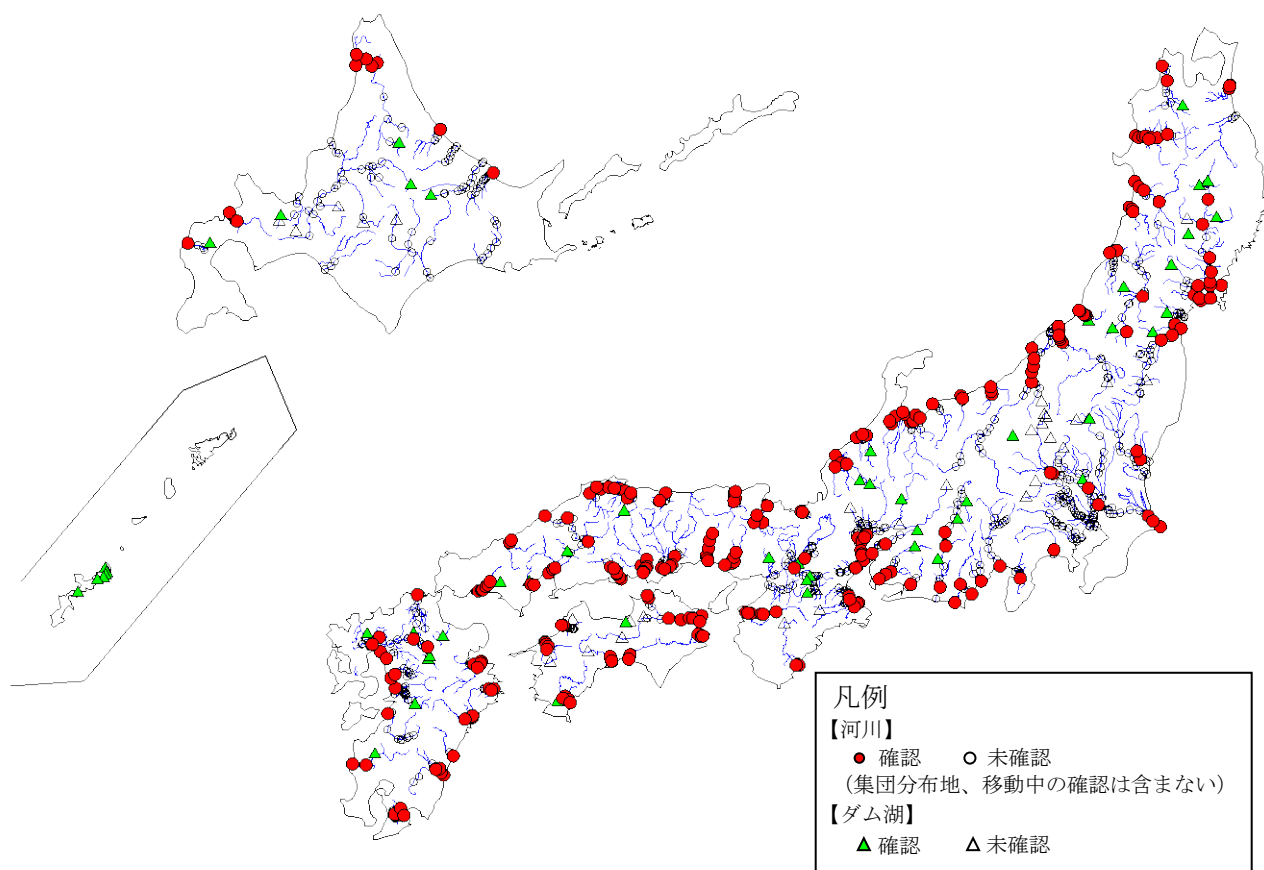


ミサゴ (月山ダム)

1 巡目調査(平成 2～7 年度)

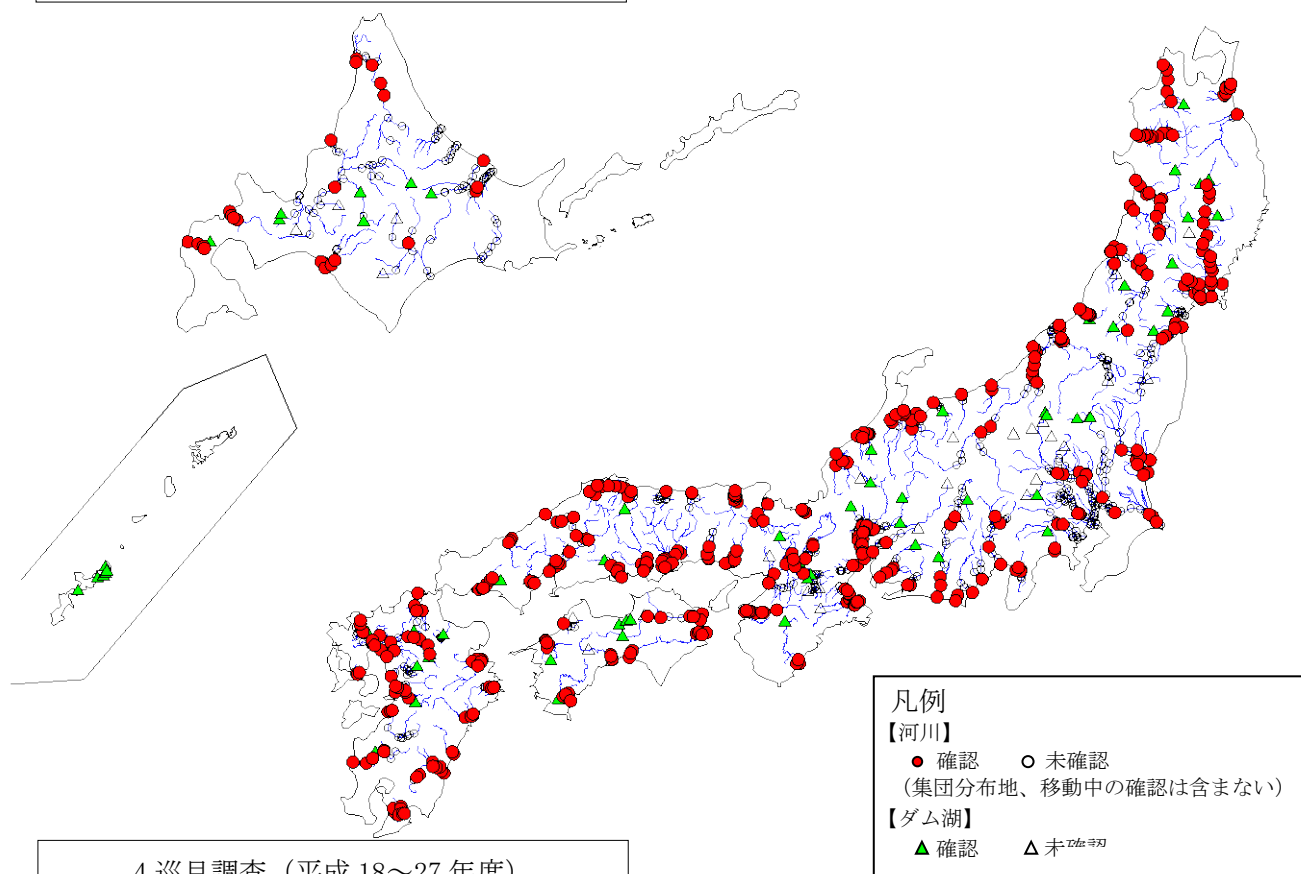


2 巡目調査 (平成 8～12 年度)

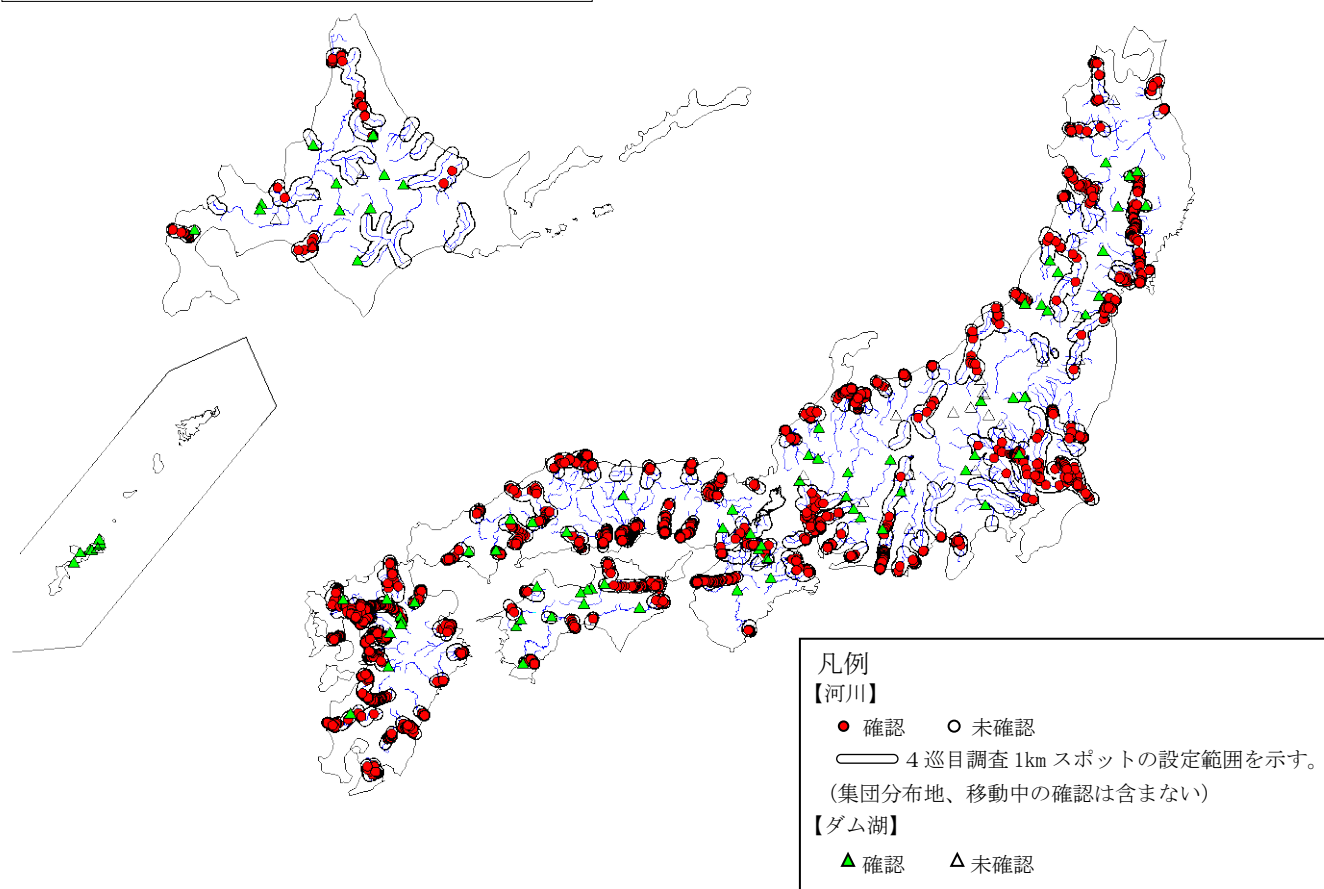


河川・ダムを含めたミサゴの確認状況 (1 巡目調査、2 巡目調査)

3 巡目調査（平成 13～17 年度）

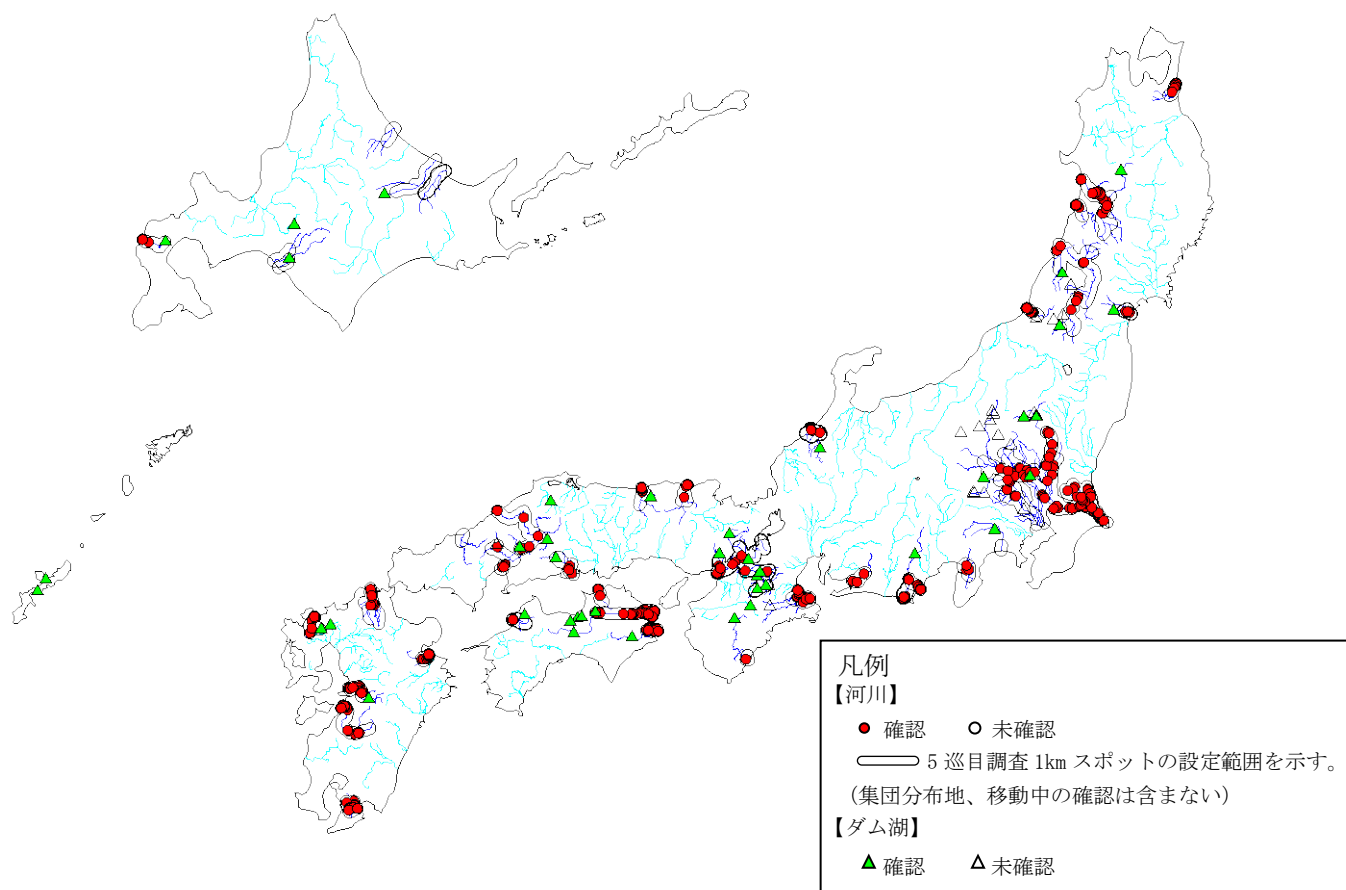


4 巡目調査（平成 18～27 年度）



河川・ダムを含めたミサゴの確認状況（3 巡目調査、4 巡目調査）

5 巡目調査（平成 28～令和元年度）



河川・ダムを含めたミサゴの確認状況（5 巡目調査）

また、ダム湖周辺での確認回数が増加していることから、ミサゴの確認時期を整理しました。ミサゴの繁殖時期は、文献により 2～8 月とされています。しかし、河川水辺の国勢調査では秋渡り調査が 8 月～9 月に実施されており、8 月～9 月の調査時期を切り分けることが難しいことから、本分析では 2～7 月の確認を繁殖時期の確認としました。なお、繁殖期であっても、繁殖に参加していない若い個体（1～2 才）がいるため、繁殖期に個体が観察されていても、必ずしもその場所で繁殖しているとは限らない点には留意する必要があります。

ミサゴの生活サイクル

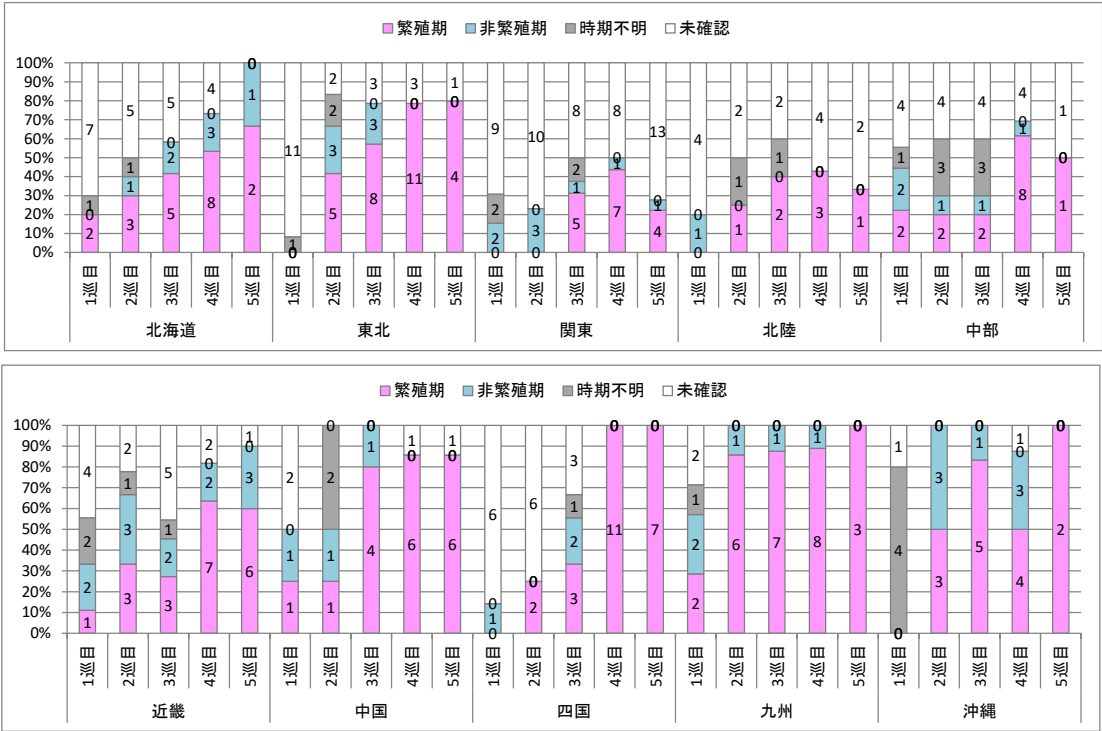
月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
繁殖サイクル	非繁殖期	求愛期	造巣期	抱卵期	巣内育雛期	巣外育雛期	巣外育雛期	非繁殖期	非繁殖期	非繁殖期	非繁殖期	非繁殖期

参考文献：

- *1：森岡照明・叶内拓哉・川田隆・山形則男. 1995. 図鑑日本のワシタカ類. 文一総合出版. 東京
- *2：白井伸和・高橋久・河原奈苗・永坂正夫・深沢愛・三浦淳男. 2006. 河北潟の周辺地域におけるミサゴの繁殖生態 第一報 営巣地の分布と最近 6 年間の繁殖状況について. Kahokugata Lake Science 9. 金沢
- *3：財団法人日本鳥類保護連盟石川県支部. 2001. 私たちの郷土 タカ・ハヤブサ類の営巣等調査報告書. 財団法人日本鳥類保護連盟石川県支部. 羽咋

地方別に整理した結果は下図のとおりです。1 巡目は確認ダム数も少なく、非繁殖期のみでの確認が多くなっていましたが、北海道、東北については 1～4 巡目にかけて、九州は 2 巡目以降、中国は 3 巡目以降、近畿、中部は 4 巡目以降に繁殖期の確認ダム数が増加していました。なお、5 巡目調査が全て終了した関東では、4 巡目まで繁殖期の確認ダム数が増加していましたが、5 巡目では確認ダム数が減少していました。

5 巡目の調査は 62 ダムのみであるため全体的な傾向は不明ですが、ミサゴが確認された 42 ダムのうち、繁殖期に確認されたダム数は 37 ダムとなっていました。その中の複数のダムにおいて、餌運びや巣材運び、抱卵又は抱雛等の繁殖行動が確認されています。利用されるようになった時期は地方毎に異なりますが、ダム湖周辺はミサゴに繁殖場として利用されている可能性が高いといえます。



ミサゴの地方別確認時期の割合（ダムのみ）

(3) 内水面漁業と関わりのある鳥（カワウ）の確認状況

・カワウを9ダム全てで確認

今回分とりまとめ対象とした9ダムの全てでカワウが確認されました。また、このうち東北の月山ダムでは、初めて確認されました。

カワウの確認ダム数の巡目比較

種類	1 巡目調査 (81 河川) (81 ダム)	2 巡目調査 (118 河川) (83 ダム)	3 巡目調査 (122 河川) (96 ダム)	4 巡目調査 (123 河川) (111 ダム)	5 巡目調査 (53 河川) (62 ダム)
カワウ	53 河川 〔72.8%〕	98 河川 〔83.1%〕	109 河川 〔89.3%〕	119 河川 〔96.7%〕	53 河川 〔100.0%〕
	19 ダム 〔23.5%〕	36 ダム 〔43.4%〕	66 ダム 〔68.8%〕	89 ダム 〔80.2%〕	60 ダム 〔96.8%〕

※（ ）内は調査実施河川数、ダム湖数を示す。

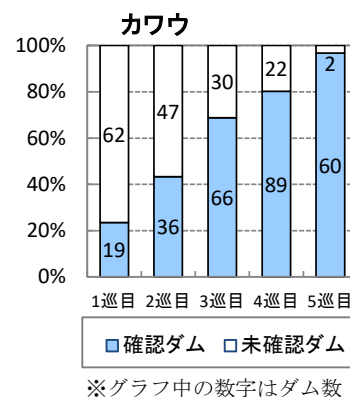
※〔 〕内は確認河川数、ダム湖数の調査実施河川数、ダム湖数に対する％を示す。

カワウは、内湾部や内陸の河川、湖沼などに生息し、その近くの林などで集団繁殖します。主に魚類や甲殻類を潜水して捕らえます。1960年代から1970年代後半にかけて、河川環境の悪化により数千個体にまで減少し、絶滅が危惧されました。しかし、水質改善等による河川環境の改善により、近年では個体数が増加し、一部の地域では放流されたアユ、アマゴ、ニジマス等を食害し、内水面漁業に被害を与えている例も知られています。

カワウは今回分析対象とした9ダムすべてで確認されました。なお、東北の月山ダムでは河川水辺の国勢調査で初めての確認となります。過年度の1～4巡目の調査結果では、確認ダム数が増加しています。特に、1巡目以前にはほとんど確認されていなかった東北地方や北海道等の地域における分布拡大傾向について、留意していく必要があると考えられます。

カワウは各河川（水系）の下流から上流に向かって分布を広げ、最終的に最も上流に位置するダム湖周辺にまで到達するものと考えられます。河川におけるカワウの確認状況とダム湖の確認状況を重ね合わせを行ったところ、河川の海沿いから内陸にかけて、分布を広げている傾向が見られました。特に5巡目に調査が実施されている利根川水系や荒川水系では、河口部から上流のダム湖にかけて、ほぼ連続的にカワウが分布していることが確認されました。

ダム湖周辺でもカワウのねぐらや繁殖コロニーが確認されていますが、今回カワウが確認された9ダムのうち、東北の寒河江ダムで抱卵・抱雛と推定される行動など、繁殖に関連した行動や集団繁殖地が確認されました。





カワウ 集団繁殖地（寒河江ダム）



カワウ（月山ダム）

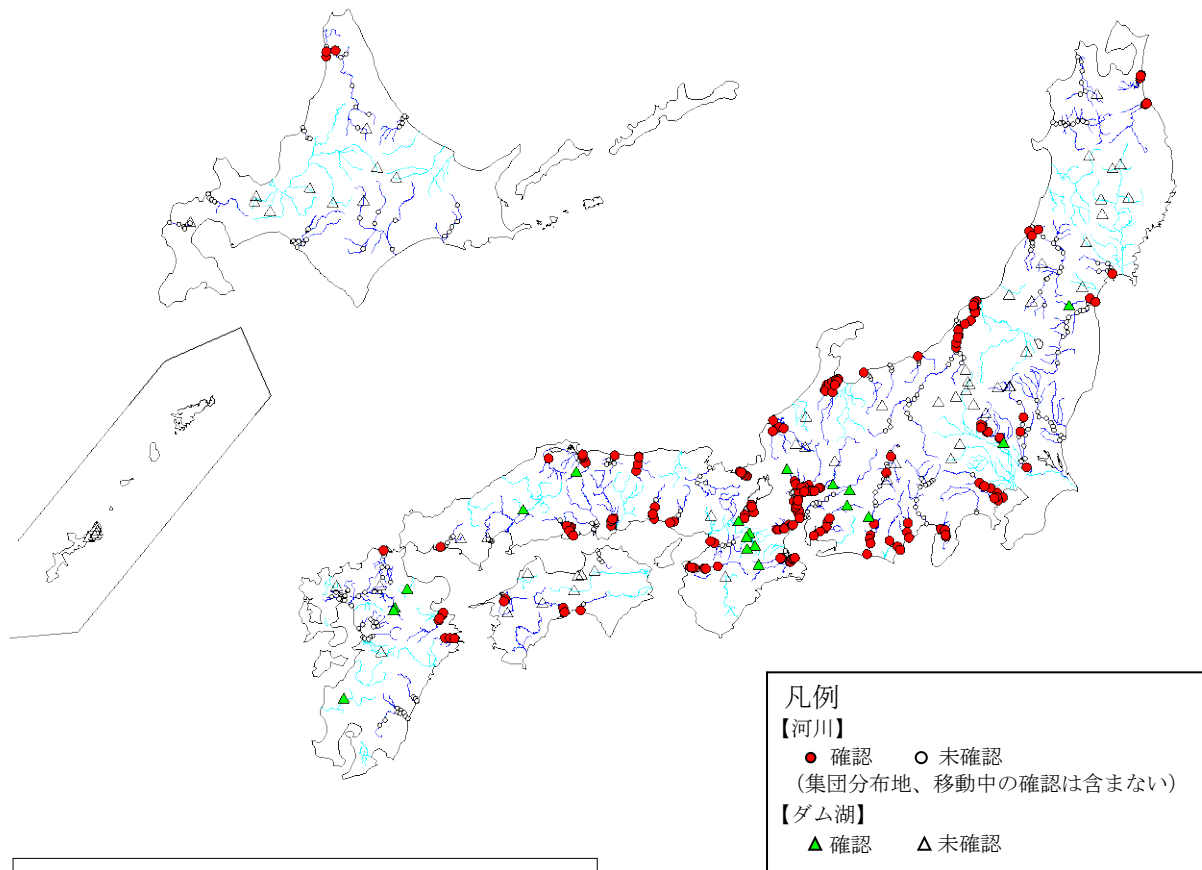


カワウ（宮ヶ瀬ダム）

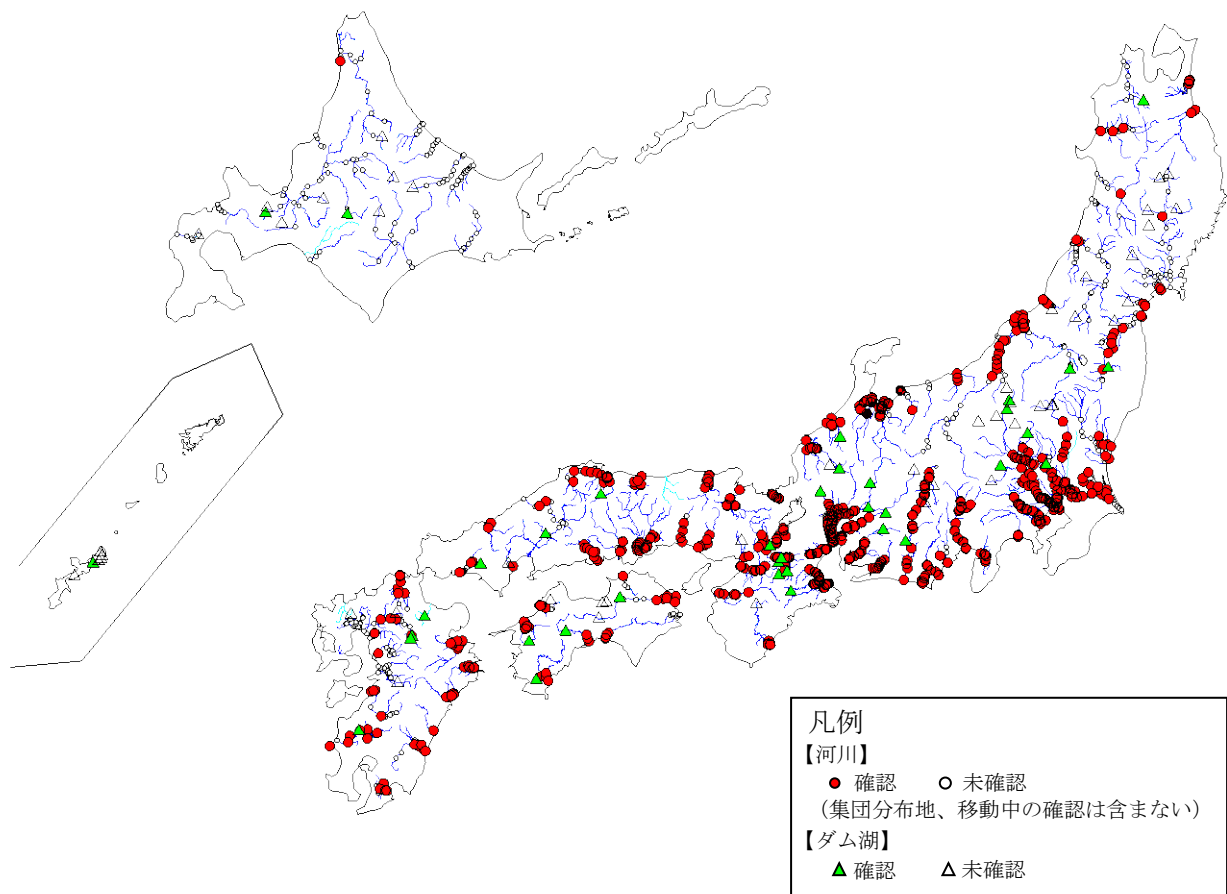


カワウ（金武ダム）

1 巡目調査(平成 2～7 年度)

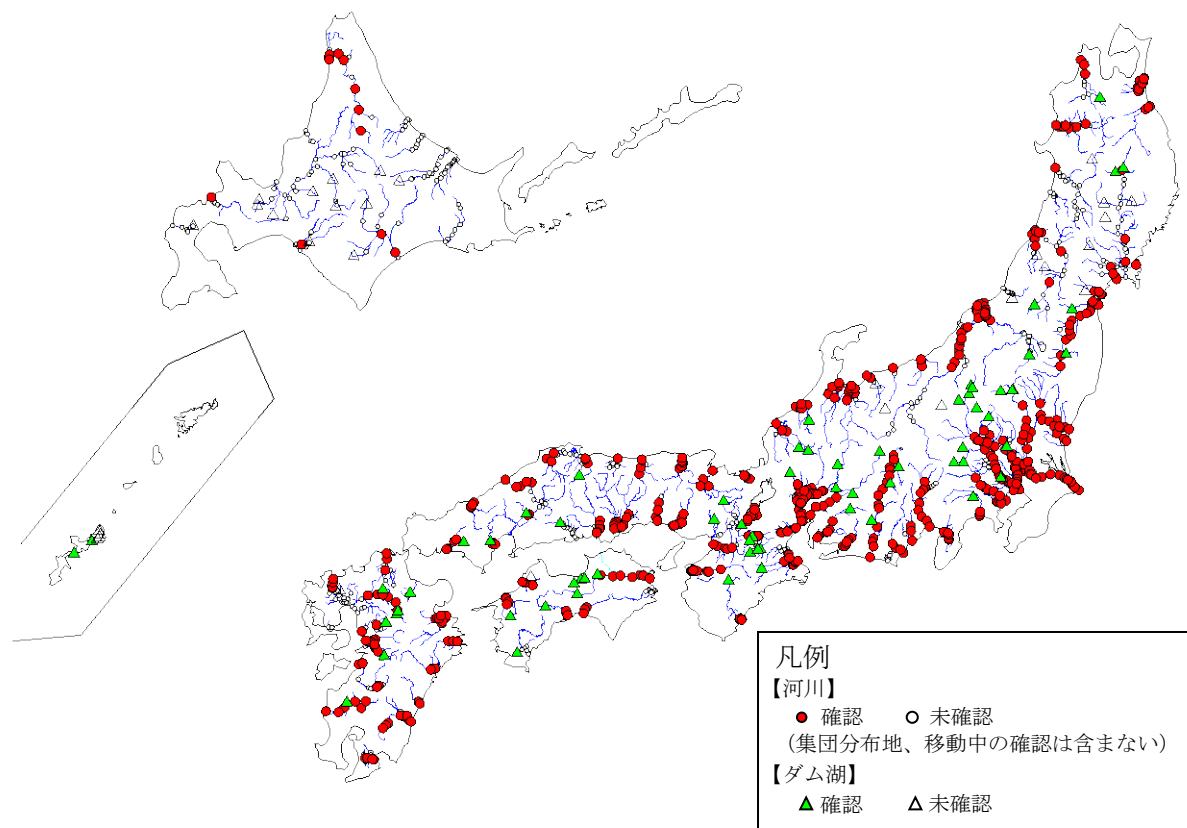


2 巡目調査 (平成 8～12 年度)

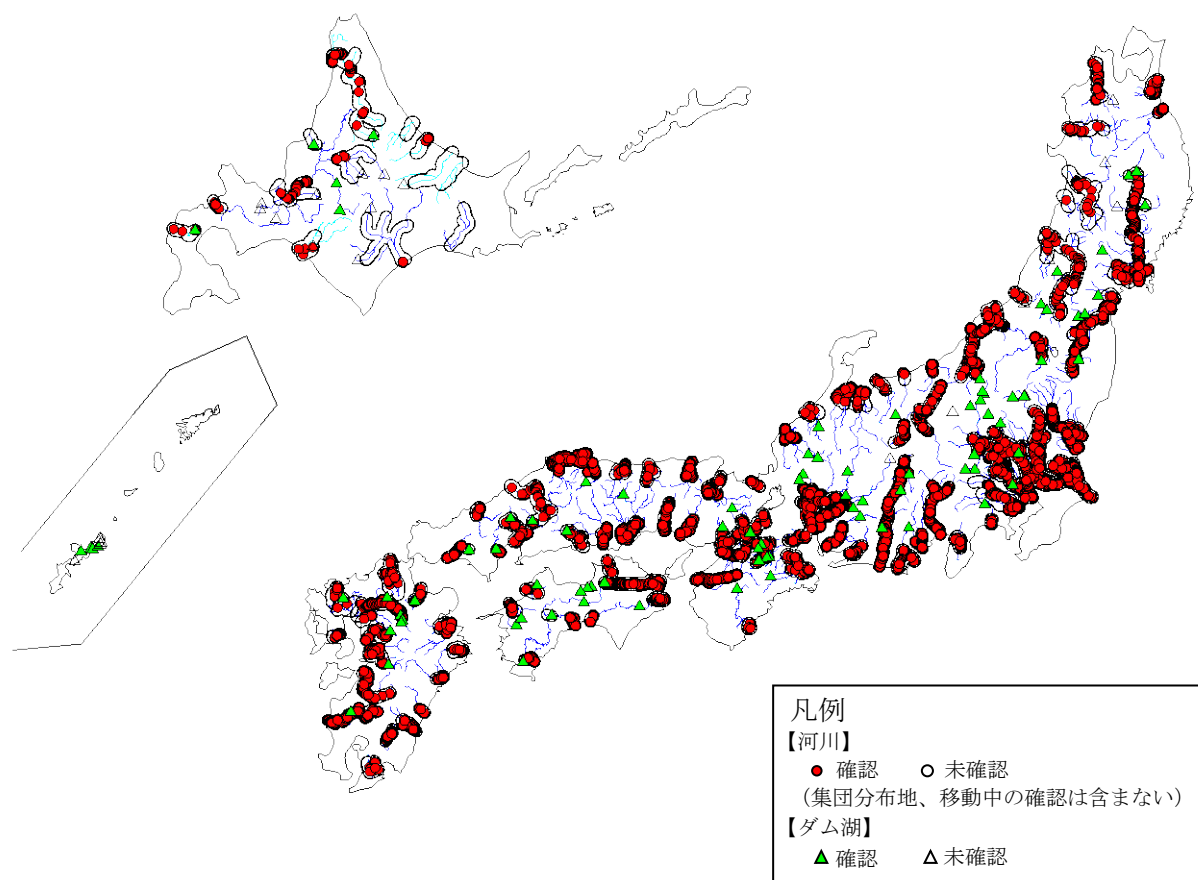


カワウの確認状況 (1 巡目調査、2 巡目調査)

3 巡目調査（平成 13～17 年度）

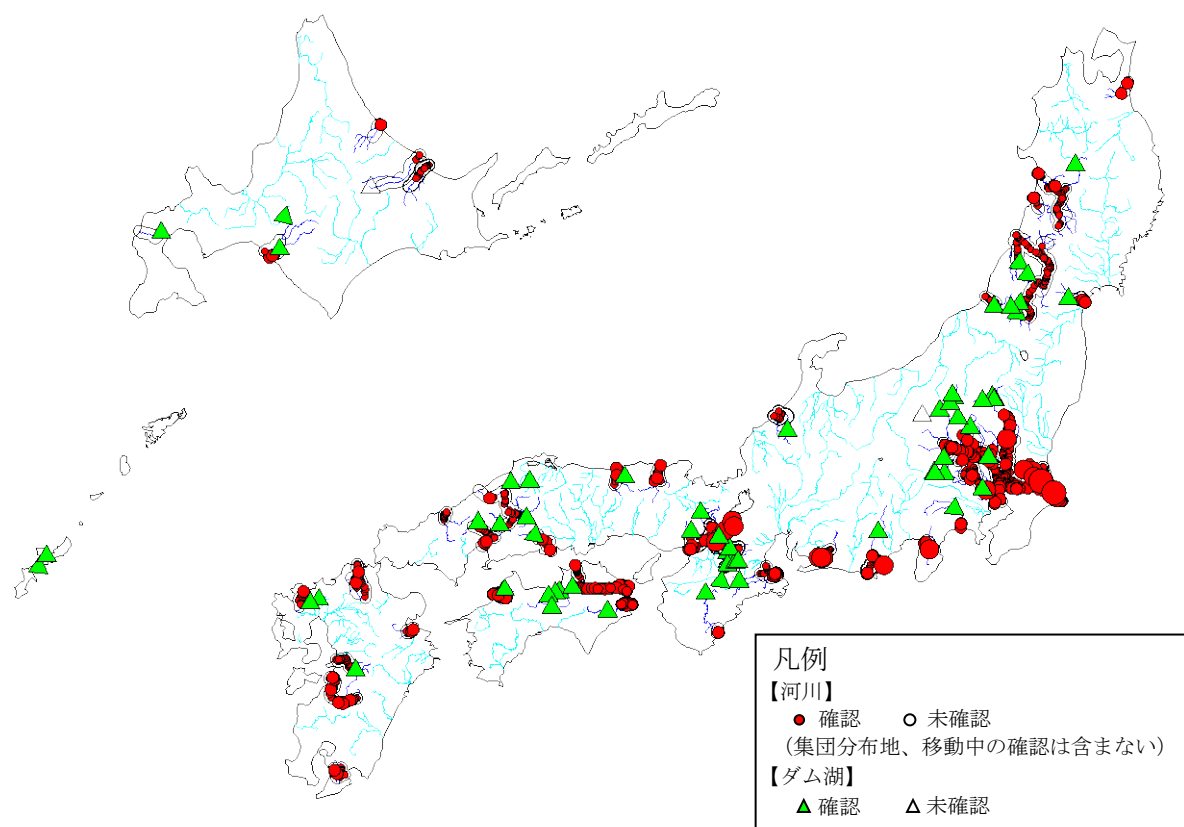


4 巡目調査（平成 18～27 年度）



カワウの確認状況（3 巡目調査、4 巡目調査）

5 巡目調査（平成 28～令和元年度）



カワウの確認状況（5 巡目調査）

5.4 ダム管理との関わり（ダム湖周辺の生物相）

(1) ダム湖周辺を利用して繁殖する鳥類

・イワツバメの繁殖を 5 ダムで確認

今回とりまとめを行ったダムで最も多く繁殖が確認されたのはイワツバメで、9 ダムのうち 5 ダムで繁殖が確認されました。水辺に巣を作る鳥としては、カルガモが宮ヶ瀬ダムで、コチドリが八田原ダムで繁殖が確認されました。他にカワウの集団繁殖地が東北の寒河江ダムで、アオサギの集団繁殖地が近畿の大滝ダムで確認されました。

鳥類が繁殖の際にダム湖周辺の環境をどの程度利用しているのか把握するために、ダム湖周辺における鳥類の繁殖状況を整理しました。繁殖が確認された、もしくは繁殖の可能性ありとされた種は、カルガモ、アオサギ、ミサゴ、イワツバメ等の 31 種でした。

繁殖が確認された種数が多かったダムは、近畿の大滝ダムが最も多く 5 種、次いで中国の八田原ダムの 4 種、関東の宮ヶ瀬ダムの 2 種でした。

多くのダムで繁殖が確認された種はイワツバメで、9 ダム中 5 ダムで、ホオジロが 2 ダムで繁殖が確認されました。

このほか水辺を利用して集団で繁殖する鳥類としては、近畿の大滝ダムでアオサギが、東北の寒河江ダムでカワウが確認されました。

重要な種では、環境省レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類（VU）に指定されているハヤブサが、中国の八田原ダムで繁殖が確認されました。

集団繁殖地としては、ダム湖周辺でダム堤体や橋梁、建物などを営巣場所として利用するイワツバメが 4 ダムで、コシアカツバメが 1 ダムで、カワウが 1 ダムで、アオサギが 1 ダムで確認されました。

集団繁殖地一覧（令和元年度）

地方	ダム名	種名	集団分布地の状況
北海道	夕張シューパロダム	イワツバメ	イワツバメ:ダム湖に掛かる緑橋の橋脚下で営巣を確認。20 巣と 30 個体を確認。
東北	寒河江ダム	カワウ	カワウ:ダム湖畔の柳に 6 素が確認され、すべての巣に成鳥が座っていた(抱卵中と推定)。
	月山ダム	イワツバメ	イワツバメ:月山湖大橋の橋脚に 80 個体、120 巣のイワツバメの集団営巣地を確認。
関東	宮ヶ瀬ダム	イワツバメ	イワツバメ: 橋下の桁裏パイプ上面にイワツバメ 30 個体と 35 巣を確認。
		カワウ	カワウ:湖岸に 10 巣の小規模なコロニーが成立していたが、梅雨期の出水により水没して消失。その後、冬季に 15 羽程度のねぐらを形成。
近畿	大滝ダム	アオサギ	アオサギ:成鳥 8 個体、巣内雛 10 個体、9 巣を確認。
中国	八田原ダム	コシアカツバメ	コシアカツバメ:カルバートの天井に約 50 巣を確認。
		イワツバメ	イワツバメ:橋脚下に約 50 巣を確認。



イワツバメ 集団営巣地（夕張スーパーパロダム）



イワツバメ（月山ダム）



イワツバメ（宮ヶ瀬ダム）



コシアカツバメ 集団営巣地（八田原ダム）



カワウ 集団営巣地（寒河江ダム）



アオサギ 集団営巣地と雛（大滝ダム）

鳥類繁殖状況一覧（令和元年度）

No	目名	科名	種名	学名	北海道	東北				関東	近畿	中国	沖縄	繁殖の状況	
			種名	学名	タカ シ ュ ー バ ロ ダ ム	長 井 ダ ム	白 川 ダ ム	寒 河 江 ダ ム	月 山 ダ ム	宮 ヶ 瀬 ダ ム	大 湊 ダ ム	八 田 原 ダ ム	金 武 ダ ム	確 認 さ れ た ●	可 能 性 性 有 り ▲
1	カモ目	カモ科	カルガモ	<i>Anas zonorhyncha</i>			▲			●				1	1
2	ペリカン目	サギ科	アオサギ	<i>Ardea cinerea</i>						●				1	0
3			ダイサギ	<i>Ardea alba</i>									▲	0	1
4	チドリ目	チドリ科	コチドリ	<i>Charadrius dubius</i>								●		1	0
5	タカ目	ミサゴ科	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>						▲				0	1
6		タカ科	ハチクマ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>					▲					0	1
7			ツミ	<i>Accipiter gularis</i>	▲									0	1
8			サシバ	<i>Butastur indicus</i>					▲		▲			0	2
9			クマタカ	<i>Nisaetus nipalensis</i>					▲		▲			0	1
10	ブッポウソウ目	カワセミ科	ヤマセミ	<i>Megaceryle lugubris</i>					▲					0	1
11	キツツキ目	キツツキ科	アオゲラ	<i>Picus awokera</i>				▲						0	1
12	ハヤブサ目	ハヤブサ科	ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>				▲				●		1	1
13	スズメ目	サンショウクイ科	リュウキュウサンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus tegimae</i>								▲		0	1
14		カラス科	ハシブトガラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>						▲				0	1
15		シジュウカラ科	ヤマガラ	<i>Poecile varius</i>						▲		▲		0	2
16			ヒガラ	<i>Periparus ater</i>							▲			0	1
17		ツバメ科	ツバメ	<i>Hirundo rustica</i>						▲	▲			0	2
18			コシアカツバメ	<i>Hirundo daurica</i>								●		1	0
19			イワツバメ	<i>Delichon dasypus</i>	●		▲		●	●	●	●		5	1
20		ヒヨドリ科	ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>			▲			▲				0	3
21		エナガ科	エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>			▲			▲	▲			0	2
22		メジロ科	メジロ	<i>Zosterops japonicus</i>							▲	▲		0	2
23		ヒタキ科	トラツグミ	<i>Zoothera dauma</i>							▲			0	1
24			イソヒヨドリ	<i>Monticola solitarius</i>							▲		▲	0	2
25			コサメビタキ	<i>Muscicapa dauurica</i>								▲		0	1
26			キビタキ	<i>Ficedula narsissina</i>						▲	●			1	1
27			オオルリ	<i>Cyanoptila cyanomelana</i>						▲				0	1
28		スズメ科	スズメ	<i>Passer montanus</i>			▲					▲		0	2
29		セキレイ科	セキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>				▲			●			1	1
30			セグロセキレイ	<i>Motacilla grandis</i>							▲	▲		0	2
31		ホオジロ科	ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>		●					●			2	1
合計					1	2	4	4	4	7	17	10	3		
●：繁殖が確認された。					1	1	0	0	1	2	5	4	0		
▲：繁殖の可能性がある。					0	1	4	4	3	5	12	6	3		

繁殖の確認基準

●：繁殖を確認した

成鳥 … 巣への出入り、抱卵・抱雛、雛の糞の運搬、偽傷行動等
 巣 … 巣立ち後の巣、卵のある巣等の確認
 雛 … 姿・声の確認
 巣立ち雛 … 巣からほとんど移動していないと思われる巣立ち雛の確認

▲：繁殖の可能性がある

成鳥 … 求愛・交尾行動、威嚇・警戒行動、造巣行動、巣材の運搬、餌の運搬等
 巣立ち雛 … 移動可能な巣立ち雛、家族群確認
 巣 … 巣のみの確認、卵かくのみの確認

(2) 新しい環境の生物相

ダムでは建設に伴い、地形の改変が行われます。また、ダム堤体や周辺道路等によって改変・消失した環境の代償として、生物の生息・生育環境の創出等も行っています。4 巡目の調査からは、ダムによって作られた新しい環境である地形改変箇所（ダム建設に伴う一般的な地形改変箇所としては、貯水池、ダム堤体のほか、原石採取跡地、建設発生土受入地、大規模な掘削法面等があります）や環境創出箇所（生物の生息・生育環境を創出する目的で整備されたビオトープ等）に調査地区を設定し、環境への影響、または効果を検証するため、生物の生息・生育状況を確認することとしています。ここでは、その調査結果を整理しました。

	ダム名	整備箇所	管理開始	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	ダム管理開始からの年数
地形改変箇所	長井ダム	原石山跡地	平成24年																							8年
		建設発生土処理場跡地	平成24年																							8年
環境創出箇所	月山ダム	ノコトぶな公園	平成14年																							18年
	大滝ダム	白屋(企業の森)	平成24年																							8年
	金武ダム	代替湿地	平成26年																							6年

1) 地形改変箇所における確認状況

・原石山、建設発生土処理場跡地の整備により、樹林性の鳥類を確認

ダム建設に伴う改変箇所後に整備した環境における鳥類の確認状況を整理しました。今回とりまとめを行ったダムのうち、改変箇所において調査が行われたのは長井ダムのみでした。

長井ダムの原石山及び建設発生土処理場跡には、樹林性の鳥類が多く確認されました。

① 長井ダムの地形改変箇所（原石山、建設発生土処理場跡地）

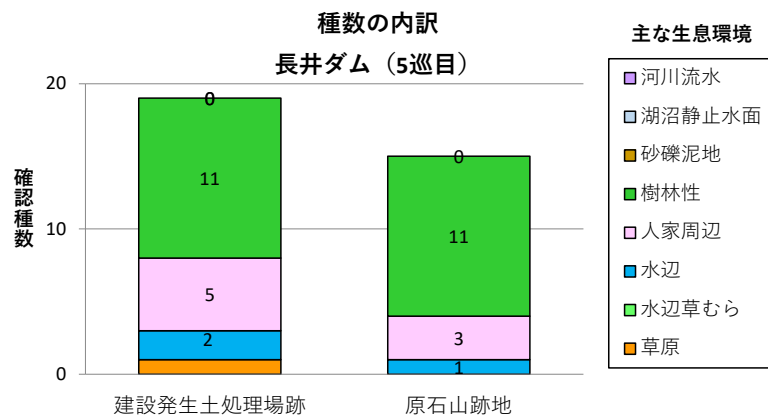
[ダム管理開始：平成24年度]

長井ダムの地形改変箇所は、原石山対策工事箇所及び建設発生土処理場跡地で、のり面の一部に種子吹き付け等を実施しています。また、緑化用の種子を含まない客土を吹き付け、周辺の植物の自然侵入を待ち、在来植物による植生回復を図っています。

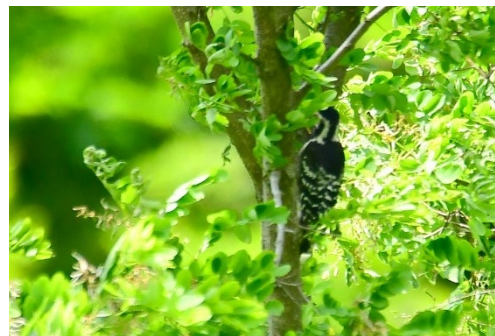
5 巡目の調査では、原石山跡地で 12 科 15 種、建設発生土処理場跡地で 11 科 19 種の鳥類が確認されました。

それぞれ、ホトトギス、ツツドリ、オオアカゲラ、ウグイス、エナガ等の樹林性鳥類が多く確認されました。一部に草地がまだ広がっていることから、ホオジロ等も確認されています。確認された鳥類の個体数は、原石山跡地で 45 個体、建設発生土処理場跡地で 45 個体でしたが、特定の鳥種に個体数が偏る傾向は見られませんでした。

ダムの管理開始から 8 年程度経過していますが、調査地区内には緑化による低木林が広がっており、確認された鳥類にとっては移動場所や餌場になっていると考えられます。



ベニマシコ（長井ダム）



オオアカゲラ（長井ダム）



原石山跡地(令和元年)



建設発生土処理跡地(令和元年)

写真出典：最上川水系ダム水辺現地調査（鳥類等）業務報告書（令和2年3月）

2) 環境創出箇所における確認状況

・環境創出した樹林・草地環境、湿地環境を利用する鳥類を確認

ダム建設に伴い整備された、ビオトープ等の環境創出箇所における鳥類の確認状況を整理しました。今回とりまとめを行ったダムのうち、環境創出箇所における調査が行われたのは3ダムでした。

月山ダムでは、公園が整備され、樹林性の鳥類などが新たに確認されました。

大滝ダムでは、集落跡地に植樹等が行われ、ススキ草地が広がっていますが、湖面にも近い場所で、草地に生息する鳥類や水鳥などが多く確認されています。

金武ダムでは、代替湿地が整備され、水鳥だけではなく、樹林性の鳥類も多く確認されています。

① 月山ダムの環境創出箇所（ノコトぶな公園） [ダム管理開始：平成24年度]

月山ダムの環境創出箇所は、原石山跡地に平成13年に整備された人工の公園です。ブナを中心にアカシデ、オオヤマザクラ、トチノキ、ナナカマド、ホオノキ、ミズナラ、ヤマハンノキ、ヤマモミジ等が植栽されており、ヤマハンノキの生育が目立ちます。林床にはバークが敷かれています。人工的な水路や池もあり、池周辺にはガマやヤナギ類が見られます。

4巡目の調査では、9科10種の鳥類が確認されました。5巡目の調査では、12科15種の鳥類が確認されました。いずれも樹林地及び人家周辺を生息環境とする種が殆どを占めていました。

5巡目で新たに確認された種は、ホトトギス、ツツドリ、アオゲラ、ヤマガラ、エナガ、オオルリ、マヒワ、ウソ、カシラダカでした。4巡目で確認され、5巡目で確認されなかったのは、アカショウビン、キビタキ、イカル、ノジコでした。

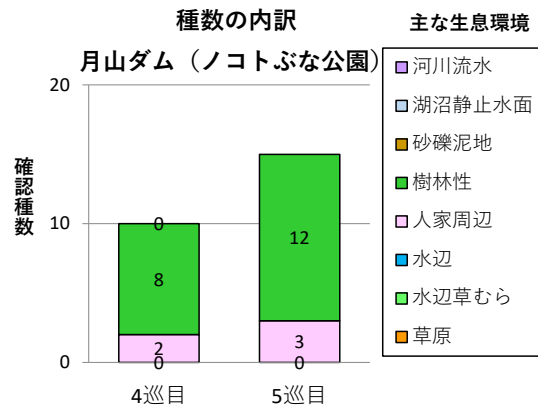
4巡目と5巡目を比較すると、5巡目では樹林性の鳥類の種類が増え、全体の個体数も増加しました。4巡目の調査からは約10年、植栽されてからは18年程経過しています。植生の遷移が進んだことで、鳥類の種数や個体数が増加したと考えられます。



エナガ（月山ダム）



マヒワ（月山ダム）



写真出典：平成 20 年度 月山ダム自然環境調査報告書（2009 年 2 月）、
令和元年度 月山ダム水辺現地調査(鳥類等)業務報告書（2020 年 3 月）

② 大滝ダムの環境創出箇所（白屋（企業の森）） [ダム管理開始：平成 24 年度]

大滝ダムの環境創出箇所は、白屋集落の跡地で、企業の森として植樹が行われていますが、大部分がススキ群落となっています。周囲はシカの侵入防止柵で囲まれています。河川水辺の国勢調査としては、今回が初めての調査です。

5 巡目の調査では 16 科 26 種の鳥類が確認されました。

種類数としては樹林性や、人家周辺を生息環境とする種が多く確認されましたが、個体数としては、越冬期にダム湖内にオシドリ、マガモ、トモエガモなどの水鳥が多く確認されており、合わせて 85 個体確認されています。

環境創出箇所の現在の植生は、平成 30 年度 に実施された植物の河川水辺の国勢調査において、環境創出箇所の植生は大部分がススキ草地となっており、草地性の草本や先駆性の低木が多くみられ、神社の跡地付近にはタブノキ等の社寺林が残存している環境であるとされています。

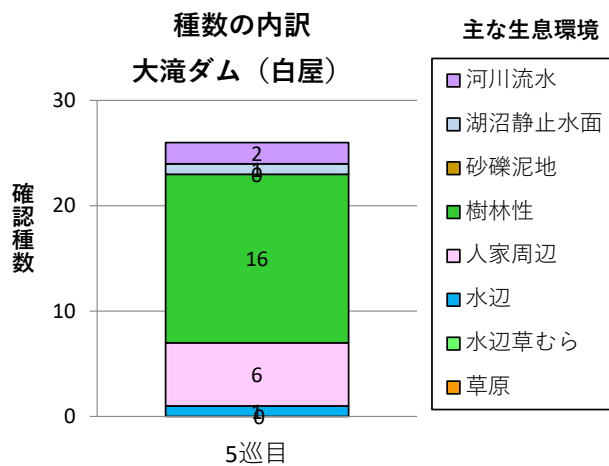
ツツドリやクロツグミ等の樹林環境を好む鳥類から、ウグイスやホオジロ等の低木林や草地環境を好む鳥類まで幅広い種が確認された。樹林地に隣接した開けた環境となっている環境創出箇所が、多くの鳥類にとって良好な生息環境となっていると考えられます。



ジョウビタキ（大滝ダム）



ホオジロ（灰塚ダム）



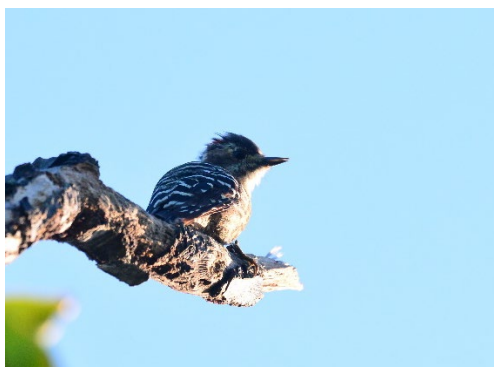
写真出典：紀の川ダム統管管内河川水辺の国勢調査等業務報告書（令和2年2月）

③ 金武ダムの環境創出箇所（代替湿地） [ダム管理開始：平成26年度]

金武ダムの環境創出箇所は、ダムの供用により湿地環境が消失したため、環境保全措置（代償措置）として、平成23年度に整備された代替生息地です。北側には湿地性の低茎草本群落分布しており水田や湿地に生育する植物が確認されています。南側には高茎草本群落のセイコノヨシのほか、アカギやオオバギ、アカメガシワ等の樹木の生育が確認されています。

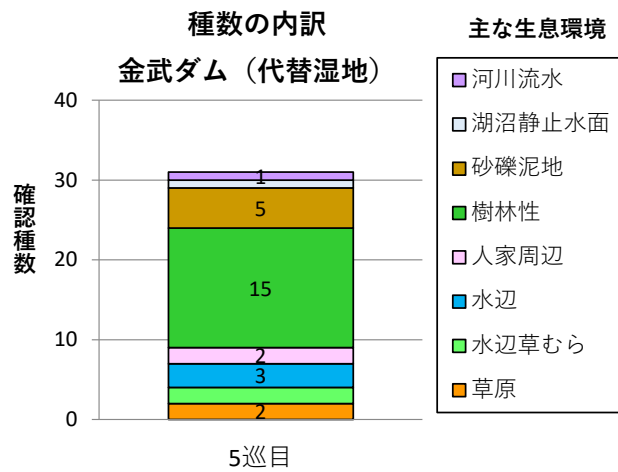
5巡目の調査では、21科31種の鳥類が確認されました。

サギ科やクイナ科などの水辺の鳥類も多く確認され、特にカワウは41個体と優占種となっています。水辺の鳥だけではなく、アカショウビンやフクロウ類、ヒヨドリなどの樹林性の鳥類も、多くの種類が確認されています。



コゲラ（金武ダム）

リュウキュウコノハズク（金武ダム）



写真出典：平成 30 年度漢那ダム・金武ダム河川水辺の国勢調査他業務報告書（令和元年 8 月）

地形改変箇所及び環境創出箇所の確認種一覧

No	科名	種和名	生息環境※	地形改変箇所		環境創出箇所			
				長井ダム		月山ダム		大滝ダム	金武ダム
				建設発生土 処理場跡	原石山	ノコトぶな公園		白屋	代替湿地
				5巡目	5巡目	4巡目	5巡目	5巡目	5巡目
1	カモ科	オシドリ	河川流水					69	
2		マガモ	河川流水					3	
3		トモエガモ	湖沼静止水面					13	
4	カイツブリ科	カイツブリ	湖沼静止水面						1
5	ハト科	キジバト	樹林性	1	1	1	1		2
6		ズアカアオバト	樹林性						1
7	ウ科	カワウ	河川流水						41
8	サギ科	ゴイサギ	砂礫泥地						4
9		アオサギ	砂礫泥地						1
10		ダイサギ	砂礫泥地						2
11		コサギ	砂礫泥地						1
12	クイナ科	バン	水辺草むら						1
13		オオバン	水辺草むら						4
14	カッコウ科	ホトギス	樹林性	3	3		1		
15		ツツドリ	樹林性	3	3		1	1	
16	シギ科	イソシギ	砂礫泥地						1
17	ミサゴ科	ミサゴ	水辺						3
18	タカ科	トビ	人家周辺					1	
19		ツミ	樹林性						1
20		サシバ	樹林性			1	1		3
21	フクロウ科	リュウキュウコノハズク	樹林性						7
22		アオバズク	樹林性						3
23	カワセミ科	アカショウビン	樹林性			1			2
24		カワセミ	水辺						4
25	キツツキ科	コゲラ	樹林性					1	2
26		オオアカゲラ	樹林性		1				
27		アカゲラ	樹林性	3	3				
28		アオゲラ	樹林性				1		
29	ハヤブサ科	ハヤブサ	水辺						1
30	サンショウクイ科	リュウキュウサンショウクイ	樹林性						1
31	モズ科	モズ	人家周辺	4	3			1	
32	カラス科	カケス	樹林性	1	2			5	
33		ハシブトガラス	人家周辺	4	1	2	4	4	9
34	シジュウカラ科	ヤマガラ	樹林性				3	4	
35		ヒガラ	樹林性	6				3	
36		シジュウカラ	樹林性					2	3
37	ツバメ科	リュウキュウツバメ	人家周辺						1
38		イワツバメ	人家周辺		4			20	
39	ヒヨドリ科	シロガシラ	樹林性						16
40		ヒヨドリ	樹林性	3	6	1	6	20	25
41	ウグイス科	ウグイス	樹林性	4	7	1	2	5	11
42	エナガ科	エナガ	樹林性	6			16	23	
43	メジロ科	メジロ	樹林性					6	7
44	セッカ科	セッカ	草原						3
45	ミンサザイ科	ミンサザイ	樹林性		1				
46	ヒタキ科	クロツグミ	樹林性	2				1	
47		シロハラ	樹林性						1
48		ツグミ	樹林性					2	
49		ノゴマ	草原						1
50		ルリビタキ	樹林性					1	
51		ジョウビタキ	樹林性					3	
52		キビタキ	樹林性	2		1			
53		オオルリ	樹林性	1			1		
54	セキレイ科	キセキレイ	水辺		1			6	
55	アトリ科	カワラヒワ	人家周辺					19	
56		マヒワ	樹林性	2			6		
57		ベニマシコ	人家周辺	1	6				
58		ウソ	樹林性	1			4		
59		イカル	樹林性	1		1		2	
60	ホオジロ科	ホオジロ	人家周辺	5	3	4	1	22	
61		カシラダカ	人家周辺				2		
62		ノジコ	樹林性			2			
63		アオジ	樹林性					5	
種数合計				19	15	10	15	26	31
個体数合計				53	45	15	50	242	163

※生息環境については、「中村登流・中村雅彦(1995) 原色日本野鳥生態図鑑—水鳥編. 一陸鳥編 保育社.」によった。

分析対象種の確認ダムの経年比較【鳥類】(1)

[illegible]

凡例)●:確認 ×:未確認 一:未調査 ※「巡目」については1:平成2～7年度、2:平成8～12年度、3:平成13～17年度、4:平成18～27年度、5:平成28～年度を指す。

分析対象種の確認ダムの経年比較【鳥類】(2)

[illegible]

凡例)●:確認 ×:未確認 一:未調査 ※「巡目」については 1:平成 2~7 年度、2:平成 8~12 年度、3:平成 13~17 年度、4:平成 18~27 年度、5:平成 28~ 年度を指す。